

ル所アルヲ以テ之ニ依リテ適用スヘキ地價ヲ定ムヘキモノナリト雖モ地目ノ變更ニ至リテハ法律ニ於テ何等ノ規定スル所ナキヲ以テ一ニ事實ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス而シテ事實ニ依リテ地目ヲ定ムト言フト雖モ事實土地ノ異動ヲ爲シタルトキハ容易ニ之ヲ知ルヲ得サルヲ以テ予ハ法律ノ認メタル事實ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナリト言ハント欲ス即チ法律ノ規定ニ於テ事實アリテ後地價ヲ据置キ又ハ年期ヲ付與スヘキモノト爲ストキハ法律ハ事實ヲ認ムルモノト謂ハサルヘカラスアルヲ以テ此場合ニ於テハ事實發生ノトキ地目ヲ變更スヘキモノナリ之ニ反シテ法律ノ規定ニ於テ事實ノ發生前地價ヲ据置キ又ハ年期ヲ付與スヘキモノト爲ストキハ法律ハ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期ノ終了スルトキ事實發生スルモノト爲シタルモノト謂ハサルヘカラスアルカ故ニ此場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期ノ終了シタルトキ地目ヲ變更スヘキモノナリ地目變換地類變換及ヒ開拓ノ場合ニ於テハ變換又ハ開拓成功シタル後地價ヲ据置キ又ハ歟下年期ヲ付與スルモノナルカ故ニ變換地ハ變換ヲ爲シタルトキ其地目ヲ變更シ開拓地ハ歟下年期ノ許可ヲ受ケタルト

キ現況ニ依リ地目ヲ付スヘキモノナリ之ニ反シテ開墾地又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受クル土地ハ其成功前ニ於テ開墾ノ届出ヲ爲シ又ハ年期ノ許可ヲ受クルモノナルカ故ニ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期満了ノトキ其地目ヲ變更スヘキモノトス但シ實際ノ取扱上ニ於テハ地目又ハ地類變換地ニ付テハ變換ナル事實發生シタル時ニ於テハ未タ其年ノ地租ヲ納メサルトキハ茲ニ述フル所ノ如キ取扱ヲ爲スト雖モ變換ナル事實發生シタル時ニ於テハ既ニ其年ノ地租ノ全部又ハ一部ヲ納メタルトキハ其翌年ヨリ地目ヲ變更セラルルモノノ如シ蓋シ年ノ中間ニ於テ變換ヲ爲シタル場合ニ於テ其年ノ地租ハ孰レノ地目ニ依リテ之ヲ徵收スヘキカニ關シテハ地租條例中何等ノ規定スル所ナシ然ルニ其年ノ地租ヲ納メタル前後ニ依リテ區別ヲ爲スハ官民共ニ最モ便宜ナル所ナルヲ以テ法文ノ缺如スル場合ニ於テ官民ノ共ニ便トスル所ニ從ヒテ適用ヲ爲スハ寧ロ法律ノ精神ニ適スルモノト謂ハサルヘカラス

土地異動ノ場合ニ於テ其修正地價ヲ適用スヘキ時期以前ニ在リテ更ニ異動ヲ爲シタルトキハ前ニ述ヘタル如ク地價ノ修正ヲ爲スヘキ時期ニハ自ラ影響ヲ

及ホスモノナリ此場合ニ於テハ地目ノ變更ニ關シテモ亦其影響ヲ受クヘキモノナリト雖モ之ヲ説明スルハ煩細ニ過クルヲ以テ茲ニハ之ヲ述ヘス但シ上來記述シタル所ニ依リ之ヲ應用スレハ實際ニ於テ誤ナキモノナリト信ス

第三 地價ノ低減

土地カ荒地ト爲リタル場合ニ於テハ所有者ノ出願ニ因リ被害前ノ供用ヲ完ウスルヲ得ルニ至ル期間ヲ計リ相當ノ免租年期ヲ許可スルモノナリト雖モ元來免租年期ヲ定ムルハ復舊期間ノ豫測ニ過キサルヲ以テ年期經過後ノ實蹟ニ就テ之ヲ見ルトキハ時トシテ事實ハ豫測ニ反シ其土地ハ尙ホ復舊ニ至ラサル場合鮮シト爲サス然ルニ此ノ如キ場合ニ於テ年期滿了ト共ニ直チニ原地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナリトセハ天災ノ爲メ土地使用ノ利益ヲ減損シタル者ニ對シ其復舊ニ至ルマテ地租ヲ免スルコトト爲シタル法律ノ趣旨ハ尙ホ未タ貫カサル所アリト謂ハサルヘカラス故ニ免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノ及ヒ原形ニ復シ難キモノハ法律ハ更ニ免租年期ノ延長ヲ爲スヲ許スコトハ前既ニ之ヲ述ヘタリ而シテ其既ニ荒地ノ形狀ヲ呈スルコトナキモ

地味未タ被害前ノ狀態ニ復セサルモノニ對シテハ相當ノ期間ヲ定メ其間低減シタル地價ニ依リテ其地租ヲ徵收シ以テ復舊ニ至ルマテハ地租輕減ノ特典ヲ受ケシメ豫測免租年期ノ足ラサル所ヲ補フヲ得セシメタリ(地租條例第二一條第二三條)

地租條例第二十一條ニ依レハ地價ノ低減ハ七割以下之カ年期ハ十五年以内ニ制限セラルルヲ以テ低價年期ヲ定ムルニハ土地ノ現況ヲ按シ七割以下ノ低減十五年以内ノ年期ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス如何ナル場合ニ於テモ七割以上地價ヲ低減シ又ハ十五年以上ノ年期ヲ定ムルコトヲ得サルモノナリ且ツ低價年期ニ關シテハ法律ハ繼年期ノ許可ヲ許ササルカ故ニ一タヒ付與シタル年期ハ更ニ之ヲ延長スルコトヲ得サルモノナリ(イ)年期滿了シタルトキ一定ノ期間地價ヲ低減スト爲シタル場合ニ於テ其期間滿了シタルトキハ低減ノ效力自ラ消滅スヘキモノニシテ更ニ説明ヲ加フルヲ要セス

(ロ) 荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ(地租條例施行規則第一三條) 低價年期中ノ土地ニシテ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルカ爲メニ荒地免租年期ヲ出願シ其許可ヲ受ケタルトキハ既ニ有スル低價年期ハ消滅スルモノトス蓋シ低價年期中トハ一定ノ年間地價ヲ低減シテ地租ヲ徵收スルヲ謂フモノニシテ荒地免租年期中トハ年期ヲ定メ其間地租ヲ徵收セサルヲ謂フモノナリ地租ヲ徵收スルト之ヲ徵收セサルトハ相反撥シタル事項ニシテ同時ニ行フコトヲ得サルモノナリ土地所有者ニシテ既ニ低價年期ノ特典ヲ有スルニモ拘ラス更ニ是ト併行スルコト能ハサル免租年期ノ許可ヲ請求シタルトキハ其意前者ノ利益ヲ棄テテ後者ノ利益ヲ得ントスルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ免租年期ヲ許可スルトキハ低價年期ハ自ラ消滅セサルヲ得サルナリ

低價年期中ノ土地ニ付キ其形狀ヲ變更シタル場合ニ於テ其變更地租條例ノ所謂地目變換地類變換又ハ開墾ニ該當スルトキハ低價年期ハ消滅スルコトナキヤ法令中何等ノ規定スルモノナクンハ予ハ此場合ニ於テ年期ハ消滅スルモノト謂ハサルヘカラスト爲スモノナリ何トナレハ此場合ニ於ケル取扱方ハ開墾

鐵下年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタル場合ニ付キ地租條例施行規則第七條ノ定ムル所ト異ニスヘキ理由アルヲ見サルヲ以テナリ然ルニ此場合ニ於テハ地租條例施行規則第十二條ニ於テ特ニ規定スル所アリ低價年期中ハ如何ニ土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サスト爲シタルヲ以テ低價年期中ノ土地ニ付キ其形狀ヲ變更スルコトアルモ地價修正ノ必要ヲ誘起スルコトナシ地價修正ニシテ之ヲ要セスハ年期ノ消滅ヲ惹起スヘキ謂レナキヲ以テ予ハ此場合ニ於テハ低價年期ハ消滅セサルモノナリト信ス地租條例施行規則第十二條カ低價年期中ノ土地ハ其形狀ヲ變更スルモ之ヲ地目變換地類變換又ハ開墾ト爲サスト爲シタルハ何等ノ理由ニ出テタルヤハ予ノ理解ニ苦シム所ナリト雖モ該條ノ規定アル以上ハ予ハ此ノ如キ解釋ヲ取ラサルヲ得ス而シテ低價年期中其形狀ヲ變更シタル土地ハ年期明ニ至リテハ原地價ニ復シ難キモノトシ地租條例第二十二條ニ依リ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルノ外ナカルヘシ

低價年期ヲ許可シタル土地ハ許可ノ初年ヨリ年期満了ノ年マテ低減シタル地

價ヲ適用シ滿了ノ年ノ翌年ヨリ原地價ニ依リテ其地租ヲ徵收スヘキモノトス

第四 地價ノ消滅

一 地價ノ消滅スル場合

地價ノ消滅ナルモノハ法令中明ニ之ヲ規定シタルモノナシ然レトモ地租條例第十一條カ免租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムヘキコトヲ定メタルヲ以テ見レハ有租地ニシテ免租地ト爲リタルトキハ其地價ハ自ラ消滅スト爲スモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ有租地ニシテ免租ト爲ルトキ其地價消滅スルモノト爲スニアラサレハ免租地ニシテ有租地ト爲ルトキ新ニ之ニ地價ヲ設定スルノ必要ヲ見サルヲ以テナリ是レ獨リ論理ノ結果ナルノミナラス實際ノ必要ヨリシテ言フモ亦此場合ニ於テハ地價ノ消滅アルモノト爲ササルヘカラス元來免租地トシテ土地ヲ使用スルニハ多クノ場合ニ於テハ有租地トシテ之ヲ使用シタル場合ト其形狀ヲ變更セサルヘカラス故ニ再ヒ之ヲ有租地ト爲スモ其形狀ハ從前有租地タリシトキト同一ナラサルコト多シ假ニ一步ヲ讓リ有租地ノ形狀ヲ變スルコトナクシテ免租地ニ

使用スルコトヲ得タリトスルモ一旦免租地ト爲リタル後免租地中ノ各種目相變換スルコトハ法律之ヲ禁セサルヲ以テ後ニ至リ之ヲ有租地ト爲ストキハ其形狀ハ既ニ全ク變更シタル場合鮮シトセス此ノ如キ場合ニ於テ若シ當初有租地タリシトキニ有シタル地價ニ依リ其地租ヲ徵收スヘキモノトセハ地價ハ其地ノ所得ト比準ヲ得ス地租賦課ノ基礎ハ甚シキ不公平ノモノト爲ルヘシ故ニ有租地ニシテ免租地ト爲リタルトキハ或ハ其地價ヲ存シ再ヒ有租地ト爲リタルトキ之ヲ修正スルカ將タ免租地ト爲ルト同時ニ其地價ヲ消滅セシメ再ヒ有租地ト爲リタルトキハ更ニ新ニ之ニ地價ヲ付スルカ二者其一ノ方法ヲ選ヒテ之ヲ適用セサルヘカラス而シテ前者ヲ取ルノ煩雜ハ後者ニ出ツルノ簡便ナルニ若カサルカ故ニ地租條例ハ其規定ノ反面ニ於テ有租地ニシテ無期免租地ト爲リタルトキハ其地價ノ消滅スルコトヲ認メタリ有租地ニシテ無期免租地ト爲リタル場合ニ於テ其地價消滅スヘキモノナリトセハ有租地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲リタル場合ニ於テハ無論其地價ハ消滅スヘキモノト爲ササルヘカラサルヲ以テ有租地ニシテ御料地、皇族賜邸又ハ國有地ト爲リタルトキハ其

地價ハ白ラ消滅スルモノトス

土地分合ノ場合ニ於テ新規ノ區域ニ對シ地價ヲ付スルハ予ノ見ル所ヲ以テスル一ノ地價設定ヲ爲スモノナリ而シテ此場合ニ於テ從前ノ區域ニ對スル地價ハ其區域ノ消滅ト共ニ消滅スルモノナルコトハ更ニ説明ヲ要セス

荒地免租年期ヲ受ケタル土地ハ年期ノ許可ト同時ニ其地價ヲ失フモノナリトハ地租條例第二十二條ノ規定ノ反面ヨリ推論セラレタル一議論ナリト雖モ此場合ニ於テハ此ノ如キ解釋ヲ取ルコト能ハサルコトハ予カ既ニ詳論シタル所ナリ而シテ荒地免租年期ヲ受ケタル土地ニ付キ論シタル所ハ之ヲ他ノ有期免租地ニ適用スルコトヲ得ヘキカ故ニ有租地ニシテ造林ヲ爲シタルカ爲メ免租年期ノ許可ヲ得ルモ其地價ハ消滅セサルモノトス

二 地價消滅ニ伴フ納稅義務ノ區分

有租地ニシテ地租ヲ課セサル土地又ハ無期免租地ト爲リタルトキハ地租ノ標準タル地價モ亦消滅ス此場合ニ於テ地租ハ何レノ時ヨリ之ヲ免スルカ此問題ハ地租ヲ課セサル土地又ハ無期免租地ニシテ有租地ト爲リ地價ヲ設定シタル

トキハ何レノ時ヨリ其地租ヲ徵收スヘキヤトノ問題ノ反面ナリ予ハ地價設定ノ場合ニ於ケル納稅區分ニ付キ論シタル如ク地租ハ年稅ナルヲ以テ法律ニ於テ特ニ例外ヲ定メタル場合ノ外ハ年ノ央ニ於テ無租地ト爲リタル土地ニ付テ其年ノ地租ハ全額之ヲ徵收シ翌年ヨリ始メテ之カ賦課ヲ廢スヘキモノト爲ス者ナリ但シ後ニ説明スヘキカ如ク地租ハ納期ニ於テ土地臺帳ニ記名セラレタル者ヨリ徵收スヘキモノナルカ故ニ有租地カ御料ト爲リ又ハ國有ト爲リタル場合ノ如ク土地臺帳記名者カ地租ヲ納ムルコトヲ要セサル者ト爲リタルトキハ其納期ニ於ケル地租ハ之ヲ徵收セサルヘキハ勿論ナリ然レトモ此ノ如キ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ之ヲ徵收スト爲シタル規定ヨリ生スル論結ニシテ地價消滅ニ伴フ納稅義務ノ區分トシテ然ルモノニアラサルナリ予ハ法文ノ解釋トシテハ以上ニ述フル所ヲ以テ正鵠ヲ得タルモノト信スト雖モ現行實際ニ取扱ハルル所ハ右ノ如クナラスシテ地價消滅以後ニ係ル納期ニ屬スル地租ハ全ク之ヲ徵收セサルモノノ如シ是レ新ニ地價ヲ設定シタル場合ニ於テ既往納期ニ屬スル地租額ハ之ヲ徵收セサルト同一精神ニ出ツルモノニシテ論理ノ結果

ヲ適度ニ止メテ行政處分ノ妥當ヲ計リタルモノナルヘシ
 地價設定ノ場合ニ於テ原則ニ對スル特例アルカ如ク地價消滅ノ場合ニ於テモ
 法律ハ右ノ原則ニ對シ左ノ例外ヲ設ケタリ
 (イ) 有租地ヲ買上ケ官有地ト爲シタルトキ(明治十年太政官布告第十八號) 此
 場合ニ於テハ買上ノ年ハ地租年額ヲ納ムルニ及ハス買上ノ前月マテ月割ヲ以
 テ計算シタル地租額ヲ納ムレハ足レリ但シ明治十年太政官布告第十八號第一
 條ハ民有地ヲ買上ル時ニ付テ規定スルカ故ニ有租地ヲ官ニ寄附シタル如キ場
 合ニ於テハ同條ヲ適用スルコト能ハス

(ロ) 有租地ヲ鄉村社地、墳墓地ト爲シタルトキ(地租條例第一三條ノ一) 此場合
 ニ於テハ其年ノ地租ハ鄉村社地又ハ墳墓地ト爲スノ許可ノ月ノ前月マテ月割
 ヲ以テ計算シタル租額ヲ徵收シ許可ノ月以後ノ月割ニ係ル租額ハ之ヲ免除ス
 (ハ) 有租地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ト
 爲シタルトキ(地租條例第一三條ノ二) 此場合ニ於テハ茲ニ掲ケタル土地ト爲
 スカ爲メニ施スヘキ工事ニ着手シタル月ノ前月マテノ月割地租額ヲ徵收シ工

事着手ノ月以後ノ月割額ハ之ヲ徵收セサルモノトス若シ何等ノ工事ヲ施サス
 シテ該供用ヲ爲ス土地ハ月割ノ例外ニ依ラス原則ニ從フヘキモノトス
 (三) 砂防法ニ依リ有租地ニ對シ一定ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限シタルトキ(明治
 三十二年勅令第三百七十四號第三條) 此場合ニ於テハ禁止又ハ制限ヲ爲シタ
 ル月以後ニ係ル月割租額ヲ免除スルモノトス
 (ホ) 公共團體ノ所有地ヲ公用ニ供シタルトキ(明治三十三年法律第十九號) 始
 メテ公用ニ供シタル年ハ地租全額ヲ徵收シ其翌年ヨリ之ヲ免スヘキモノトス
 法律ハ明ニ公用ニ供シタル年ノ翌年ヨリ地租ヲ免スヘキコトヲ定ムルカ故ニ
 公用ニ供シタル日カ年ノ一月一日ニ在ルモ尙ホ其年ハ地租全額ヲ納ムルノ義
 務アルモノト謂ハサルヘカラス

第三款 課稅ノ程度

第一 地租ノ課率
 一定率 地租ノ沿革ヲ叙スルニ當リテ掲ケタル如ク地租改正ノ初年ニ於テハ

地租ハ地價ノ百分ノ三ヲ以テ其定率トシ同時ニ爾後制定セラレヘキ物品稅ノ收入二百萬圓以上ニ至ルトキハ新稅ニ係ル增加收入ノ割合ニ地租ノ課率ヲ輕減シ終ニ地價百分ノ一ニ至ラシムルコトヲ期セラレタリ明治十年減租ノ大詔出テ定率ハ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲リ明治十七年現行地租條例ノ制定セラレルニ及ヒ一定ノ年限毎ニ地價ヲ改正シ以テ法價ヲシテ實價ニ近カシムルノ方針ヲ拋棄セラレタルト共ニ物品稅ノ收入ヲ以テ地租輕減ノ財源ト爲スノ所期ハ之ヲ中止シ其第一條ニ於テ地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トスルコトヲ定メラレタリ故ニ有租地ニ付テハ其土地ニ付セラレタル地價百分ノ二箇半ノ割合ヲ以テ年年其地租ヲ納メサルヘカラサルモノトス地租條例第一條第一項ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トスト爲スカ故ニ納稅義務者ハ年年割合ヲ以テ地租ヲ納ムヘキハ無論ナリト雖モ一年ノ定率トスト特ニ課率ノ上ニ一年ナル文字ヲ加ヘタルヲ以テ一見土地カ一年ノ中途ニ於テ有租地ト爲リタルトキハ一年地價百分ノ二箇半ノ割合ヲ以テ其日數ニ應シテ地租ヲ算出スヘキモノナルカ如シト雖モ該條文ハ此ノ如キ意義ヲ以

テ制定セラレタルモノニアラス地租ノ年稅ナルコトハ古來ノ制度ニシテ地租改正條例又ハ現行地租條例ハ決シテ之ヲ改正スルノ趣旨アリシモノニアラス特ニ前ニモ論シタルカ如ク地租條例中ノ他ノ條文カ一年ノ中間ニ於テ有租地ニシテ免租地ト爲リ又ハ免租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ月割ヲ以テ其地租ヲ計算スヘキコトヲ定メタルヲ以テ見レハ此ノ如キ特別規定ナキ以上ハ常ニ年額ヲ徵收セサルヘカラサルコト其趣旨ナリト謂ハサルヘカラス故ニ予ハ地租條例第一條第一項ヲ解シテ地租ハ地價百分ノ二箇半ノ定率ヲ以テ毎年之ヲ賦課スト規定シタルト同一意義ヲ有スルモノト爲ス者ナリ但シ實際ニ於テハ有租地ヲ無租地ト爲シ又ハ無租地ヲ有租地ト爲シタルトキニ於テ納期ノ既ニ經過セルト否トニ依リ斟酌ヲ加フルコトハ前既ニ述ヘタルカ如シ

二 增率 地租條例第一條ハ其第一項ニ於テ地租ノ定率ヲ定ムルト同時ニ其第二項ニ於テ明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ增徴スト定メタリ本項ハ明治三十一年法律第三十二號ヲ以テ追加セラレタルモノニシテ本項ノ如キ一時的ノ規定ニ

係ルモノヲ地租條例ノ本則中ニ掲ケタルハ立法ノ體裁上多少ノ議論アルヲ免レサルヘシト雖モ體裁ノ議論ハ姑ク之ヲ措キ本項ノ規定ハ稍ヤ明瞭ヲ缺ク所ナキニアラス然レトモ本項ヲ追加セラレタル所以ノ趣旨ヨリ推及スレハ本項ノ意義ハ明治三十一年ヨリ同三十六年ニ至ル五年間ハ市街宅地ニ付テハ定率ノ外地價百分ノ二箇半ヲ増徴シ其他ノ土地ニ付テハ定率ノ外地價百分ノ八ヲ増徴スルニ在ルコト何等ノ疑ヲ容レズ即チ該年間ハ地租ノ課率地價百分ノ三箇三又ハ百分ノ五ト爲リタルニアラスシテ定率地租ノ外地價百分ノ八又ハ百分ノ二箇半ノ附加稅ヲ課スルモノナリ此事タル單ニ文字上ノ爭論ナルカ如シト雖モ實際ニ於テハ端數計算ニ依リテ生スル差違ノ爲メ稅額ニ些少ノ影響ヲ及ホスモノアルヲ以テ特ニ茲ニ一言ヲ費スモ必スシモ無用ニアラサルヘシ

第二 地租ノ輕減

檢見法ニ依リテ地租ヲ徵收スル制度ノ下ニ於テハ豐作ノ場合ニ於テハ定免以外ニ納租額ヲ増加スルコトアルヘキカ如ク凶作ノ場合ニ於テハ定免以下ニ地租額ヲ輕減スルコトナカルヘカラス租稅ヲ以テ國民カ其所得ノ一部ヲ割イテ國

用ニ資スルモノナリトセハ檢見法ニ依リ土地ノ收益ヲ調査シ之ニ依リ其負擔額ヲ定ムルコト敢テ其理ナキニアラス然レトモ一利一害ハ事物ノ數ニ於テ免レサル所ニシテ理論ニ於テ正理ヲ含有スルコト疑ナキ檢見法ナルモノモ實際ニ於テハ實ニ弊害ノ淵源タルヲ免レザリシハ地租改正前ノ事實之ヲ證シテ餘アリ地租改正ハ其趣旨土地ノ負擔ヲシテ公平ナラシムルニ在リシハ勿論ナリト雖モ檢見法ノ弊害ヲ除去スルコトモ亦其斷行セラレタル所以ノ一因ヲ爲スモノナリ故ニ地租改正條例ハ其第二條ニ於テ地租ハ年ノ豐凶ニ依リテ増減セサルコトヲ明ニシ地租條例モ亦其第二條ニ於テ此精神ヲ言明セリ地租條例第一條ハ地租ハ毎年土地臺帳ニ掲ケタル地價ノ一定ノ割合ヲ以テ之ヲ賦課スヘキコトヲ規定スルヲ以テ時ニ之ヲ増減スルノ必要アリトセハ特ニ之ヲ規定スルヲ要スヘク特別規定ナキ限リハ地租ノ額ハ毎年一定ニテ動クコトナカルヘキカ故ニ法文起草ノ上ヨリ言ヘハ地租條例第二條ノ如キハ實ニ無用ノ贅文ナリト謂ハサルヘカラス無用ノ贅文ニシテ尙ホ嚴然トシテ法律中ニ叙列セラルル所以ノモノ以テ檢見法ヲ廢スルノ實ニ地租改正ノ大精神ニシテ立法者カ如

何ニ國民ヲシテ此事ヲ其腦漿ニ印セシムルヲ必要トシタルカラ見ルニ足ルヘシ地租條例ノ制定者ハ獨リ年ノ豊凶ニ依リ地租ヲ増減セサルヲ必要トシタルノミナラス年ノ豊凶ニ依ラサル地租輕減ナルモノモ亦之ヲ認メサルヲ可トシタルモノノ如シ現ニ荒地免租年期ノ土地ニシテ其地力ノ復舊セサルモノニ對シテハ法律ハ低價年期付與ナル方法ニ依リ地租輕減ノ實ヲ行フト雖モ法文上ニ於テハ地租輕減ナル名ハ則チ之ヲ用ヒサリシナリ

地租條例ハ地租ノ輕減ナルモノヲ認メサルヲ原則トスルコト以上述フル所ノ如シ而シテ此原則ハ實ニ明治三十年法律第二十九號砂防法第十一條ニ於テ例外ヲ設ケラレタリ砂防法第十一條ニ依レハ主務大臣カ砂防設備ヲ要スト爲シタル土地又ハ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スヘキモノト爲シタル土地ハ其禁止又ハ制限ノ程度ニ因リテハ全ク其地租ヲ免スルコトヲ得ト雖モ其禁止又ハ制限ノ程度ニシテ地租ノ免除ヲ必要トスルマテニ至ラサルモノハ之ヲ輕減スルコトヲ得ルモノトス而シテ此場合ニ於テハ低價年期ノ場合ノ如ク法律ハ特ニ輕減ノ割合ヲ定メサルヲ以テ行政官ハ土地占有者カ禁止又

ハ制限セラレタル行爲ノ程度如何ニ依リ之ニ相應シタル輕減ノ割合ヲ定メテ之カ許可ヲ爲スヘキモノナリ且ツ輕減スヘキ期間モ亦低價年期ノ場合ノ如ク

一定ノ年間ヲ以テ之ヲ定メス明治三十二年勅令第三百七十四號第三條ヲ以テ

一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月マテ

ト爲スカ故ニ禁止又ハ制限ノ繼續スル間ハ其地租ヲ輕減シ其始期又ハ終期ニ

シテ一年ニ滿タサルトキハ月割ヲ以テ之カ計算ヲ爲スヘキモノトス

砂防法ニ依ル地租ノ輕減ハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ニ伴ヒ當然發生スルモノニアラス土地所有者ニシテ地租輕減ノ特典ヲ受ケント欲セハ必ス之ヲ所轄

稅務管理局長ニ申請セサルヘカラス特ニ申請ハ明治三十二年勅令第三百七十四號第四條ニ依リ禁止又ハ制限ヲ命セラレタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲サ

サルヘカラサルヲ以テ此期限内ニ申請セサル者ハ後日ニ至リ出願ヲ爲スモ勅

令ノ定ムル所ニ適合セサルノ故ヲ以テ地租輕減ノ特典ヲ受クルコト能ハサル

モノナリ

第四款 納稅義務者

地租賦課ノ目的物ニシテ土地ニ在リトセハ地租ノ納付ヲ爲スヘキ者ハ其土地ノ所有者ナラサルヘカラサルハ殆ト疑ヲ容レス外國ノ立法例ニ於テハ土地カ地上權、永小作權、賃借權等ノ目的ト爲リタル場合ニ於テハ地上權者、永小作權者、賃借權者等ヲシテ地租納付ノ義務ヲ負ハシムルモノナキニアラスト雖モ此ノ如キハ明文ノ規定ヲ待テ始メテ然ルモノニシテ特別ノ規定ナクハ常ニ土地所有者ニ於テ地租ヲ納付スヘキコト當然ナリ然レトモ單ニ所有者ヲシテ地租ヲ納付セシムヘキモノト爲シ更ニ何等ノ規定ヲ爲ササルトキハ年ノ中途ニ於テ所有權ノ移轉アリタル場合ニ於テハ前後ノ所有者ヲシテ各其負擔スヘキ地租額ヲ分納セシメサルヘカラスシテ其間煩雜錯綜ヲ免レサルヘシ法律ハ此煩雜錯綜ヲ避クルカ爲メ一ノ規定ヲ設ケ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ之ヲ徵收スルモノト爲シタリ(地租條例第一二條)土地臺帳記名者ヨリ地租ヲ徵收ストハ語簡ニ過キラ稍ヤ明瞭ヲ缺クト雖モ其意ハ地租ハ各納期ニ於テ現ニ土地ノ所有

者トシテ土地臺帳ニ登録セララル者ヨリ其納期ニ於テ納ムヘキ額ヲ徵收スト謂フニ在ルコト何等ノ疑ヲ容レス故ニ納期前僅數日前ニ於テ所有權ノ移轉アリ土地臺帳ノ記名者ヲ變更シタル場合ト雖モ其納期ノ地租額ハ後ノ所有者ニ於テ之ヲ納メサルヘカラス之ニ反シテ所有權ノ移轉アルモ土地臺帳ノ記名者ヲ變更セサルトキハ地租ハ常ニ舊所有者ニシテ土地臺帳ニ登録セララル者ニ於テ之ヲ納付セサルヘカラス

地租ハ納期ニ於ケル土地臺帳記名者ヨリ徵收スヘキモノトセハ納稅告知書ヲ發シタル後納期ノ到來前ニ於テ土地臺帳記名者變更シタル場合ニ於テハ舊記名者ニ對シテ爲シタル納稅告知書ハ之ヲ取消シ新記名者ニ對シ更ニ納稅告知書ヲ發シテ徵收ノ手續ヲ爲スヘキハ當然ナリ若シ納期ニ入りテ記名者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者ヨリ地租徵收ヲ爲スヘキカ將タ新所有者ヲシテ之ヲ納メシムヘキヤ地租條例ハ此場合ニ關シ特ニ規定スル所ナシト雖モ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收スト謂フハ徵收スヘキ時ニ於テ土地臺帳ニ記名セララル者ヨリ之ヲ徵收ストノ意ヲ有スルモノト解セサルヘカラス故ニ嚴正ノ解釋

論ヲ爲ストキハ舊所有者ニシテ既ニ地租ヲ納メタルトキハ之ヲ以テ完了ト見サルヘカラスト雖モ舊所有者未タ地租ヲ納メサルトキハ新所有者ヲ以テ之ヲ納メシムヘキモノナリト信ス但シ實際ニ於テハ納期中ニ記名者ヲ變更シタル場合ニ於テハ既ニ告知書ヲ發シタルヤ否ヤヲ以テ區別シ既ニ告知書ヲ發シタルモノニ在リテハ其儘舊記名者ヨリ納付ノ手續ヲ爲サシムルヲ以テ便宜ト爲スナルヘシ

地租條例第十二條ハ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收スルコトヲ定ムルカ故ニ地租條例ノ施行上ニ於テハ納期ニ於ケル土地臺帳記名者ハ實ニ其期ニ納ムヘキ地租額ノ納稅義務者ナリ然レトモ元來同條ハ地租條例ノ施行上便宜納稅義務者ヲ定メタルニ過キヌシテ其效力ハ全ク公法上ノ關係ニ止マルモノトス故ニ私法上ニ於テ地租ノ最終負擔者ヲ定ムルコトハ該條ノ關スル所ニアラス各自ハ其契約ヲ以テ地租額ノ全部ハ舊所有者又ハ新所有者ニ於テ之ヲ負擔スヘキコトヲ定メ若クハ新舊所有者ニ於テ其所有ノ日數ニ應シテ之ヲ分擔スヘキコトヲ定ムルコト其自由ナリトス

原則トシテハ地租ハ所有者トシテ土地臺帳ニ登錄セラレタル者ヨリ納付スヘキモノナリト雖モ質入ノ土地ニ限リテハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘキモノトス蓋シ質權ノ目的ト爲リタル土地ハ質權者ニ於テ之ヲ占有スルモノニシテ普通ハ質權者其用方ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ民法ニ於テハ現ニ土地ノ負擔ハ質權者ニ於テ之ニ任スヘキコトヲ定メタリ公法上ノ關係ヨリ見ルモ土地ノ負擔ハ現ニ土地ノ占有ヲ爲シ其使用收益ヲ爲ス者ヲシテ之ニ任セシムルコト徵收上便宜多キヲ以テ質入地ノ地租ハ之ヲ質取主ヨリ徵收スヘキモノト爲シタルナリ然レトモ地租條例第十二條ノ規定ハ既ニ述ヘタル如ク公法上特ニ必要トスル理由アリテ設ケラレタルモノニシテ私法上ノ關係ニ因リテ左右セラルヘキモノニアラサルカ故ニ土地質入ノ場合ニ於テ當事者カ設定行爲ヲ以テ質權者ハ土地ノ負擔ニ任セサルコトヲ定メタル場合ト雖モ國家ニ對シテハ質權者ハ地租ヲ納ムルノ義務ヲ免ルルコト能ハサルモレナリ

第五款 納期

地租ノ納期ハ明治二十四年法律第二號ヲ以テ之ヲ定メラレタリ該法律ノ全文左ノ如シ

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

一期 該年九月一日ヨリ 畑方及ヒ宅地 五分
同九月三十日限 山林原野牧場

二期 該年十一月一日ヨリ 同 五分
同十一月三十日限

三期 該年十二月十六日ヨリ 田 方 貳分五厘
翌年一月十五日限

四期 翌年二月一日ヨリ 同 貳分五厘
同二月二十八日限

五期 同年三月一日ヨリ 同 貳分五厘
同三月三十一日限

六期 同年五月一日ヨリ 同 貳分五厘
同五月三十一日限

右法文ヲ一見スルトキハ直チニ其掲記スル地目カ有租地ノ地目全部ニアラサ
ルコトヲ發見スヘシ即チ該法律ノ文字ノミニ就テ之ヲ謂フトキハ鹽田鑛泉地
池沼雜種地ノ四地目ニ關スル地租ニ付テハ其納期ノ規定ナキモノト謂ハサル
ヘカラス然レトモ法律全體ノ精神ヨリ見レハ市街宅地ノ如ク普通月額ヲ以テ
其賃貸料ヲ定メ毎月之ヲ收入スルモノニ在リテハ地租年額ヲ二分シ之ヲ其年
七月及ヒ翌年一月中ニ徵收シ田地ノ如ク秋收ヲ經テ始メテ其果實ヲ取得スル
コトヲ得ルモノニ在リテハ地租年額ヲ四分シ米穀ノ賣拂ニ因リテ得タル金錢
ヲ以テ其四分ノ一ツツヲ納付スルコトヲ得セシムルモノトシ其他ノ土地ニ關
スル地租ハ總テ年額ヲ二分シ其年九月及ヒ十一月中ニ之ヲ納メシムルノ趣旨
ナリト謂フコトヲ得ヘキカ故ニ鹽田鑛泉地等ノ地租モ亦其年額ヲ二分シ九月
及ヒ十一月ニ於テ各其二分ノ一ヲ徵收スヘキモノトス
以上ハ地租ノ納期ニ關スル一般ノ規定ナリ鹿兒島縣下ニ於ケル離島ノ如キハ
大海ニ懸絶セラレ交通不便ニシテ規定ノ納期ニ地租ヲ納ムル能ハサルノ事情
アルヲ以テ明治三十年法律第五號ヲ以テ左ノ如ク規定シ以テ一般規定ニ對ス

ル一ノ例外ヲ設クルコトトセラレタリ
鹿兒島縣管下大隅國大島郡及ヒ薩摩國川邊郡各島ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラス左ノ期限ニ依リ徵收ス

大隅國大島郡ノ内大島、徳ノ島、沖永良部島、喜界島、與論島

翌年五月一日ヨリ同三十一日限

薩摩國川邊郡ノ内硫黃島、竹島、黒島、口ノ島、中ノ島、平島、諏訪ノ瀬島、臥蛇島ノ

惡石島、寶島

翌年五月一日ヨリ同八月三十一日限

故ニ右ノ島嶼ニ於ケル地租ハ其地目ノ如何ニ關セス總テ之ヲ取纏メ右明治三十年法律第五號ノ定メタル納期ニ於テ之ヲ納ムヘキモノナリ
其他地租條例ノ施行ナキ北海道ニ於ケル地租ノ納期ハ明治二十二年大藏省令第十二號ヲ以テ特別ニ之ヲ定メ沖繩縣及ヒ東京府管轄伊豆七島小笠原島ノ如キ舊慣ニ依リテ地租ヲ徵收スル地方ニ於ケル地租ノ納期ハ一ニ其舊慣ノ定ムル所ニ從フモノナリ而シテ沖繩縣ハ土地整理完了ト共ニ地租條例ヲ施行セラル

ルニ至ルヘシト雖モ地租ノ納期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキコト沖繩縣土地整理法第二十四條ノ規定スル所ナルカ故ニ該縣ノ如ク氣候風土ノ内地ト同シカラス而モ其交通ニ便宜ヲ缺クコト尠カラサル地方ニ關シテハ勅令ノ定ムヘキ地租徵收期限ハ内地一般ノ納期ト自ラ異ナル所アルヘキハ殆ト言フヲ須ヒス

第六款 土地ニ關スル申請申告

既ニ述ヘタル如ク鐵下年期、新開免租年期、地價据置年期、荒地免租年期、低價年期、造林地免租年期ノ許可及ヒ砂防法ニ依ル地租ノ免除又ハ輕減ハ出願ヲ待テ始メテ之ヲ與フルモノナルカ故ニ之カ許可ヲ受ケントスル者ハ其土地ヲ表示シ許可ヲ受クヘキ事由ヲ明ニシ所轄稅務管理局長ニ申請セサルヘカラス(地租條例施行規則第一四條明治三十二年勅令第三百七十四號)土地ヲ表示スルニ當リ時トシテハ文字ノミヲ以テ之ヲ爲スコト容易ナラサル場合ナキニテ此ノ如キ場合ニ於テ申請者カ地圖ヲ添附シテ圖解ヲ爲スハ官民共ニ便トスル所ナ

ルヘント雖モ法令ハ之ヲ以テ申請者ノ義務トヲ爲ササリシカ故ニ土地ヲ表示
スル方法ハ一ニ申請者ノ選フ所ニ任スヘキモノトス但シ申請書ニ掲クル所ノ
土地ノ表示明瞭ナラサル場合ニ於テ稅務管理局長カ申請者ヲシテ之ヲ明ニセ
シムルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ
賃權ノ目的タル土地ニシテ荒地ト爲リタル場合又ハ畝下年期若クハ新開免租
年期ヲ有スル土地ニシテ賃權ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其荒地免租年期若
クハ低價年期ノ申請又ハ畝下年期若クハ新開免租年期ノ繼年期申請ハ何人ニ於
テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ此問題ニ對シテハ議論ハ自ラ所有者說賃取主說及
ヒ所有者賃取主共同說ノ三說ニ分ルルモノノ如シ所有者說ヲ主張スル者ハ地
租條例カ申請又ハ申告ヲ爲スヘキコトヲ規定スル場合ニ於テ常ニ申請又ハ申
告ヲ爲スヘキ者ヲ明示セサルヲ論據トスルモノニシテ土地ニ付キ法令ニ於テ何
等主格ヲ指定スルコトナクシテ申請又ハ申告ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルト
キハ常ニ其所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルノ意ナリト解スルコト當然ナルヲ以
テ此場合ニ於テモ所有者ニ於テ年期又ハ繼年期ノ申請ヲ爲スヘキモノト爲ス

コト法文解釋ヨリ生スル當然ノ結果ナリト謂フモノナリ賃取主說ヲ維持スル
者ハ專ラ地租條例第十二條ニ依リテ立論スル者ニシテ其議論ハ年期又ハ繼年
期ノ許可ハ一定ノ期間地租ヲ免除スルカ若クハ比較的輕ナル地租ヲ徵收ス
ルヲ謂フモノナルカ故ニ之カ申請ハ納稅義務ニ關スル免除又ハ輕減ノ申請ナ
リ故ニ其申請ヲ爲シ得ル者ハ獨リ納稅義務者アルノミ而シテ賃入ノ土地ニ付
テハ地租條例第十二條ニ依リ賃取主其納稅義務者ナルヲ以テ年期又ハ繼年期
ノ申請ハ賃取主獨リ之ヲ爲スコトヲ得ト謂フニ在リ所有者賃取主共同說ニ至
リテハ前二說ノ折衷論ニシテ賃取主ハ賃入ノ土地ニ付テハ其納稅義務者ナル
ヲ以テ年期又ハ繼年期ノ許可ニ付テハ最モ利害ノ關係ヲ有スト雖モ所有者モ
亦之ニ關シテハ賃取主ニ讓ラサル利害關係アルモノナリ何トナレハ所有者ハ
時トシテ賃權ノ設定行爲ヲ以テ私法上ニ地租ノ負擔ヲ爲スヘキ者ト爲ルコト
アル者ナルノミナラス縱令此ノ如キ特約ナキ場合ト雖モ賃權消滅ノ後ハ自ラ
納稅義務者ト爲ル者ナルヲ以テ年期又ハ繼年期ノ許可アリシト否トハ其利
害ニ影響スルコト尠カラサルヲ以テナリ此ノ如ク兩者ノ利害ニ關スル事項ハ

兩者ノ一ニ於テ其申請ヲ爲スヘキモノニアラス必スヤ其共同ヲ以テ之カ申請ヲ爲ササルヘカラスト爲スモノナリ予ヲ以テ之ヲ見ルニ以上ノ三説ハ法文ニ拘泥シテ寧ロ其精神ヲ遺ルルノ非難ヲ免レサルカ如シ元來年期又ハ年期ノ繼續ナルモノハ納稅者ノ義務ヲ免除シ又ハ之ヲ低下ニ據置クモノニシテ決シテ之ヲ増加スルモノニアラサルカ故ニ立法論トシテ言ヘハ之カ申請ハ特ニ所有者又ハ質取主ノ其一ニ限ラサルヘカラストノ理由アルモノニアラス一方ニ於テハ既ニ兩者ノ一ニ限ルノ必要ナキモノニシテ而モ兩者各之ヲ申請スルニ付キ重大ナル利害關係ヲ有シ他ノ一方ニ於テハ法律命令共ニ明ニ年期又ハ年期ノ繼續ヲ申請スヘキ者ヲ定メサリシトセハ法律ノ意ハ所有者又ハ質取主ヲシテ各之カ申請ヲ爲シ以テ自己ノ利益ヲ保留スルヲ得セシムルニ在リシモノト謂ハサルヘカラスト若シ然ラスシテ前三説ノ其一ノ如クスヘキモノトセハ所有者又ハ質取主ハ他ノ怠慢又ハ故意ノ爲メ其受クヘキ利益ヲ享有スル能ハサルニ至ルコトアルヲ免レス一ノ解釋ヲ取レハ法律ノ規定ハ故ナクシテ他人ノ怠慢又ハ故意ノ爲メ各自ノ受クヘキ利益ヲ完ウスル能ハサルニ至ラシムルモ

ノト爲リ他ノ解釋ニ依レハ此ノ如キ結果ヲ生セサルコトヲ得トセハ後者ノ解釋ニ從フコト最モ穩當トスヘキニアラスヤ故ニ質入地ニ關シテハ其荒地免租年期若クハ低價年期又ハ缺下年期若クハ新開免租年期ノ繼年期ハ所有者及ヒ質取主ノ共同ヲ以テ之ヲ申請スルコト最モ便宜トスル所ナルヘシト雖モ若シ兩者共同スル能ハサル場合ニ於テハ其一方ニ於テ單獨ニ之カ申請ヲ爲スヲ得ヘキモノト爲スコト地租條例ノ精神ト一致スルモノナリト信ス
以上叙述スル所ハ渾テ出願ニ依リ納稅義務者ノ利益ト爲ルヘキ許可ヲ受クル場合ニ係ルモノナリ故ニ所有者又ハ質取主ニシテ其利益ヲ受クルヲ欲セザルトキハ申請ヲ爲サスシテ可ナリ以下ニ記述セントスル所ハ之ニ異ナリ行政上ノ必要ニ依リ土地所有者又ハ質取主ヲシテ必ス申請又ハ申告ヲ爲サシムルモノナルカ故ニ規定ノ場合ニ於テハ所有者又ハ質取主ハ任意ニ之ヲ省略スルヲ得サルモノナリ行政一般ノ上ニ於テハ土地ニ關シ種種ナル申請又ハ申告ヲ爲スヘキコトヲ命スト雖モ地租事務ニ影響ナキモノハ之ヲ擧クルノ必要ナキカ故ニ茲ニハ土地ニ關スル申請又ハ申告ニシテ地租事務ニ關聯スルモノノミニ付

キ提出スヘキ官廳公署ニ依リテ區別シ其大要ヲ説明スヘシ

甲 地方長官又ハ警視總監ニ申請スヘキ場合

土地ノ異動ニシテ地租ニ關係アルモノノ中地方長官又ハ警視總監ニ申請スヘキモノ左ノ如シ

- 一 有租地ヲ鄉村社地ト爲サントスルトキ(明治十一年内務省乙第五十七號達第一條、第二條) 明治十一年内務省乙第五十七號達ハ社寺ノ創建又ハ移轉廢合等ニ付キ願出ヲ爲スヘキコトヲ定ムト雖モ此等ノ出願ヲ爲スニ當リテハ社寺ノ地所ヲ指定スヘキモノナルヲ以テ鄉村社ノ許可ハ自ラ同時ニ有租地ヲ鄉村社地ト爲スノ許可ト爲ルモノトス
- 二 有租地ヲ墳墓地ト爲サントスルトキ 明治十七年太政官第二十五號布達墓地及ヒ埋葬取締規則第八條及ヒ同年内務省乙第四十號達ニ本キ警視廳及ヒ府縣ハ廳府縣令ヲ以テ墓地ノ取廣メ又ハ新設ハ必ス之ヲ出願スヘキモノト定メタルヲ以テ有租地ヲ墳墓地ト爲サントスルトハ地方長官東京ニ於テハ警視總監ニ申請シテ其許可ヲ受ケサルヘカラス

三 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキ(地租條例第一一條) 地租條例ニ於テ免租地ト稱スルハ其第四條ニ掲クル土地ヲ謂フカ故ニ第四條ニ掲クル土地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ常ニ地方長官ニ申請シテ其許可ヲ受ケサルヘカラス鄉村社地又ハ墳墓地ノ如ク信仰上ノ關係又ハ警察上ノ取締ノ爲メ其創設ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケシメタルモノハ之ヲ廢止スル場合ニ於テモ亦許可ヲ受ケシムルコト當然ナリト雖モ其他ノ土地ハ當初第四條ニ該當スルニ至リタルトキニ於テハ何等ノ許可ヲ要セザリシニ其供用廢止ノ場合ニ限リ地方長官ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルハ其理由ヲ了解スルニ苦シムト雖モ恐クハ此ノ如キ土地ハ一旦其供用ヲ爲シタル以上ハ其廢止ハ所有者以外ノ者ノ利害ニ關スルコトナキニアラサルモノナルヲ以テ地方長官ニ申請セシメ以テ廢止ノ爲メニ甚シク利益ヲ害セラサル者ナカラシメントスルノ意ニ出テタルナルハシ

四 森林ノ開墾ヲ爲サントスルトキ(明治三十年法律第四十六號森林法第六條) 森林ナルモノハ水源、氣象、防水等種種ノ點ニ於テ地方ノ公安ト關係ヲ有スルモ

ノナルヲ以テ之カ保存ハ公衆ノ福利ニ關スルコト尠カラサルモノナリ故ニ法律ハ森林ノ開墾ニ付テハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受クヘキモノト爲シ以テ私益ノ爲メニ公益ヲ犧牲トスルカ如キコトナカラシメンコトヲ期シタリ而シテ森林法ノ所謂開墾ナルモノハ山林ヲ變シテ燒畑切替畑ト爲ス場合又ハ山林ヲ伐採シテ之ヲ有租地第二類地中ノ他ノ地目ト爲ス場合ヲモ包含スルモノナルカ故ニ森林法第五十二條地租條例ニ於テハ開墾ト稱スル場合ハ勿論開墾ト稱セズシテ地目變換ト稱スル場合ト雖モ苟モ森林ヲ伐採シテ他ノ地目ト爲ス場合ニ於テハ森林法ハ之ヲ以テ開墾ト爲スカ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ必ス之ヲ地方長官ニ申請シ其許可ヲ受ケサルヘカラサルモノトス

地租ニ關係アル土地ノ異動ニシテ地方長官又ハ警視總監ニ申請スヘキ場合ハ凡ソ右ニ舉クル所ノ如シ而シテ其孰レノ場合ニ於テモ法律カ土地所有者ヲシテ申請ヲ爲サシムル所以ノモノハ專ラ公安ヲ維持セントスルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ地租徵收上ノ必要ニ因ルモノニアラス然レトモ土地所有者ニ於テ既ニ地方廳又ハ警視廳ニ申請ヲ爲シタル以上ハ該官廳ヨリ其異動ヲ稅務官廳

ニ通知シ以テ地租徵收上ノ必要ニ應スルノ便アルヲ以テ所有者ヲシテ同一事項ニ付キ更ニ稅務管理局長ニ申告ヲ爲サシムル代リニ明治三十一年內務省訓令第四一〇號同年大藏省訓令第一〇九二號明治三十二年大藏省訓令第三十二號及ヒ明治三十一年大藏省訓令第七十二號ハ官廳間ニ於テ通知ヲ爲シ以テ地租事務ノ處理ヲ了スヘキモノト爲シタリ

免租地ヲ有租地ト爲ストキハ地價ヲ設定セサルヘカラサルカ故ニ此場合ニ於テハ所有者ヲシテ測量圖ト共ニ其土地ノ見積地價ヲ申立テシムルコト稅務官廳ノ最モ便トスル所ナルヘシト雖モ法令ハ此事ニ付キ何等ノ規定スル所ナキヲ以テ有租地ヲ免租地ト爲シタル場合ニ於テハ稅務官廳ハ常ニ自ラ進テ土地ヲ丈量シ地價ノ查案ヲ爲スヘキモノト謂ハサルヘカラス

乙 稅務管理局長ニ申告スヘキ場合

左ノ場合ニ於テハ所有者又ハ質取主ハ稅務管理局長ニ申告スルコトヲ要ス

一 有地租ヲ用惡水路溜池隄塘井溝鐵道用地公衆ノ用ニ供スル道路水道用地及ヒ傳染病院隔離病舎隔離所消毒所ノ敷地ト爲ストキ(地租條例施行規則第一

五條第一項第一號) 地租條例施行規則ノ制定セラレタル當時ニ於テ法律上無期ニ地租ヲ免スヘキ土地ハ茲ニ掲タルモノノ外ハ公立學校地鄉村社地墳墓地及ヒ保安林ニ過キス公立學校ハ郡長府縣知事等ニ於テ之ヲ定メ之ヲ稅務管理局長ニ通知スルモノナルカ故ニ(明治三十二年文部省訓令第五號)之ニ付テ更ニ申告セシムルノ必要ナシ郡村社地墳墓地ノ取廣又ハ新設ニ付テハ既ニ述ヘタル如ク地方長官ニ申請セシムルヲ以テ稅務官廳ハ既ニ之ヲ知ルノ途ヲ有スルモノナリ保安林ノ編入解除ニ至リテハ官報及ヒ府縣公報ヲ以テ之ヲ告示スルカ故ニ(森林法第一七條)是レ亦稅務官廳ニ申告セシムルノ必要ヲ見サルモノナリ故ニ地租條例施行規則第十五條第一項第一號ハ地租條例施行規則發布當時ニ於テハ有租地ヲ免租地ト爲シタルトキハ所有者ノ申告アルニアラサレハ稅務官廳ハ他ニ之ヲ知ルノ途ナキ場合ヲ網羅シタルモノナリ然ルニ明治三十三年法律第十九號ノ發布セララルルニ至リ地租ヲ免スル土地ハ大ニ其種類ヲ増加シタルカ故ニ之カ届出方ニ付テハ早晚更ニ規定セララルル所アルヘシト雖モ現今ハ尙ホ未タ何等ノ規定ナキヲ以テ所有者ハ之カ申告ニ關シ規定上ノ義務ヲ有

スルコトナシ但シ所有者ニシテ該法律ニ依リ免租ノ特典ヲ得ントモハ稅務官廳ヲシテ土地カ該法律ニ該當シタルコトヲ知ラシメサルヘカラサルカ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ自ラ所有者ハ進テ其申告ヲ爲スニ至ルモノナルヘシ

二 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ(地租條例第一〇條第一項地租條例施行規則第十五條第一項第二號) 地租條例ハ地方廳ニ届出ツヘキコトヲ定ムト雖モ官制ノ改正ニ因リ租稅ニ關スル事務ハ稅務管理局長ノ職務ニ屬シタルカ故ニ施行規則ハ之ヲ稅務管理局長ニ届出ツヘキモノト爲シタルナリ又森林ニ關シテハ森林法ハ地租條例ニ於テ地目變換ト爲スモノヲモ之ヲ開墾ト爲シ地方長官ノ許可ヲ受ケシムルコト既ニ述ヘタル如シ而シテ地目變換ニシテ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看做スコト地租條例施行規則第十條ノ定ムル所ナルカ故ニ森林ヲ變換シテ牧場又ハ原野等ト爲サントシ地方長官ノ許可ヲ得タルモノハ更ニ地目變換トシテ之ヲ稅務管理局長ニ届出ツルヲ要セサルモノナリ

三 開墾ヲ爲サントスルトキ開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ

(地租條例第一六條第一項地租條例施行規則第一五條第一項第三號)開墾ニ關シテモ亦地租條例第十六條ハ之ヲ地方廳ニ届出ツヘキモノト爲スト雖モ官制改正ノ結果同條ノ所謂地方廳ナルモノハ之ヲ稅務管理局ト解セサルヘカラス且ツ許可ヲ受ケタル開墾ニ關シテハ更ニ届出ヲ要セサルコト地目變換ノ場合ニ同シ(地租條例施行規則第一〇條)成功ト廢止トノ申告ハ事實成功又ハ廢止ヲ爲シタルトキニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ開墾後十年目又ハ開墾後下年期明ノ時ヲ待ツヘキモノニアラス但シ墾下年期明ノ時ニ至リ成功シタルモノハ下年期明ノ申告ト共ニ成功ノコトヲ届出テテ可ナリ

四 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付キ墾下年期ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキ(地租條例施行規則第一五條第一項第四號)開拓地又ハ新開地ニ付テハ墾下年期又ハ免租年期ノ許可ヲ受クルコトヲ得ルモノナリト雖モ年期ノ許可ハ所有者ノ出願ヲ待テ始メテ之ヲ與フルモノナルカ故ニ所有者ニ於テ之ヲ出願セサルトキハ其地ノ現況ニ依リテ地價ヲ設定セサルヘカラス故ニ所有者ヨリ開拓又ハ新開ニ因リテ民有ト爲リタル旨ヲ申告

モシタ地價設定ノ手續ヲ爲サントシタルモノナリ

五 開墾墾下年期明、開拓墾下年期明、新開免租年期明、地價據置年期明、荒地免租年期明、低價年期明ニ至リタルトキ(地租條例施行規則第一五條第一項第五號)地租條例施行規則其他ノ法規ニ於テハ造林免租年期ニ關シテハ年期明ニ至ルモ申告ヲ爲スヘキコトヲ定メス蓋シ地價ヲ有スル土地ニシテ免租年期ヲ受ケタルモノハ年期明ニ至レハ當然其地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノニシテ別ニ之カ申告ヲ爲サシムルノ必要ナキヲ以テナリ之ニ反シテ地租條例施行規則第十五條第一項第五號ニ掲クル年期ヲ有スル土地中ニハ年期明ニ至リ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルモノアリ其地價ノ設定又ハ修正ヲ要セサルモノト雖モ登錄稅ヲ納メサルヘカラスアルヲ以テ年期明ニ於テ申告ヲ爲サシメ以テ地租事務ノ處理又ハ登錄稅ノ徵收ニ便ナラシメタルナリ

六 土地ノ合併又ハ分割ヲ爲サントスルトキ(地租條例施行規則第一五條第一項第六號)土地ノ合併ハ常ニ所有者ノ意思ニ依リテノミ之ヲ爲スト雖モ其分割ハ或ハ所有者ノ意思ニ依リ或ハ所有者ノ意思ヲ須タスシテ之ヲ爲スモノナル

コト既ニ説明シタル如シ而シテ所有者ヲシテ土地分合ノ申告ヲ爲サシムルハ其意思ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ニ限ルヘキハ勿論ナルヲ以テ施行規則第二條ニ依リ所有者ノ意思ヲ問ハスシテ土地ヲ分割スル場合ニ於テハ所有者ハ申告ヲ爲スヲ要セサルモノナリ

七 土地ノ所有者又ハ質取主其住所氏名ヲ變更セタルトキ(明治二十二年大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則第二條)土地ノ所有權ノ移轉又ハ質入ハ登記所ノ通知ニ因リテ之ヲ土地臺帳ニ登錄スヘキモノナルカ故ニ(不動産登記法第一條第一項土地臺帳規則第三條土地臺帳規則施行細則第五條)所有者又ハ質取主ヨリ更ニ之ヲ稅務管理局長ニ申告セシムルノ必要ナシト雖モ其住所又ハ氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ申告セシムルニアラサレハ稅務官廳ハ之ヲ知ルノ途ナキヲ以テ此場合ニ限リ特ニ之カ届出ヲ爲スヘキコトヲ定メタルナリ

前記一ヨリ七ニ至ルノ場合ニ於テ申告者ハ其申告スヘキ事項ニ應シ其事實ヲ明瞭ナラシムルコトヲ期シテ届出ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ其地價ノ設定

又ハ修正ヲ要スル場合ニ在リテハ近傍類地ト地力ヲ比較シ相當ト認ムル地位等級ヲ見積リ之ヲ申告書中ニ記載シ且ツ土地ノ測量圖ヲ添附シテ提出スヘキモノトス(地租條例施行規則第一五條第二項)元來土地ノ丈量及ヒ地價ノ査案ハ地租條例ニ依リ政府當然其職權ヲ有スト雖モ多數ノ土地ニ付キ一當該官吏ニ於テ丈量及ヒ査案ヲ爲ストキハ事務ノ進捗大ニ遲延スヘキハ勿論所有者ハ爲メニ屢立會ヲ爲ス等ノ煩ヲ免レス特ニ當該官吏ノ職權ヲ以テ査案シタル地價ハ時ニ所有者ノ見込ム所ト大ニ異ナル所アリ其間圓滿ナル結果ヲ得難キコトナキニアラス故ニ施行規則ハ所有者ニ命スルニ測量圖ノ提出ヲ以テシ當該官吏ヲシテ實地丈量ノ結果所有者ノ提出シタル測量ハ精確ナルモノナリトノ心證ヲ得タルトキハ一斑ノ丈量ニ依テ他ノ實地丈量ヲ省略シ以テ事務ノ進捗ヲ計ルノ便ヲ得セシメ且ツ所有者ヲシテ常ニ設定又ハ修正スヘキ地價ノ見込ヲ申出テ以テ當該官吏ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得セシメタルナリ予ハ前ニモ論シタル如ク土地ノ分合ヲ爲シタル場合ニ於テ其新區域ニ對シ地價ヲ附スルハ地價ノ設定ニ外ナラスト爲ス者ナルカ故ニ土地ノ合併又ハ分割ヲ申告スル場合

ニ於テモ亦施行規則第十五條第三項ヲ適用セラハルモノナリト信ス又地價ノ復舊ハ地價ノ設定ニアラスト爲ス者ナルヲ以テ荒地免租年期明及ヒ低價年期明ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ測量圖等ハ之ヲ要セサルモノナリト信ス

丙 市區町村長又ハ戸長ニ申告スヘキ場合

地租ヲ納ムヘキ者其土地所在地ノ市區町村内ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲メ其市區町村内ニ現ニ住居スル者ヲ納稅管理人ト爲シ其市區町村長又ハ戸長ニ申告スルコトヲ要ス(地租條例施行規則第一六條) 地租ヲ各納人ヨリ徵收スルコトハ市町村ノ事務ナルヲ以テ市町村内ノ土地ニ付キ地租ヲ納ムヘキ者其市町村内ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ市町村ハ地租徵收上ニ便宜ヲ缺クコト尠カラス故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ納稅管理人ヲ定メシメ其者ヲシテ本人ニ代リテ地租納付ノ取扱ヲ爲サシムヘキモノト爲シ豫メ其人ヲ指定シテ申告スヘキモノト爲シタルナリ施行規則第十六條ノ所謂「地租ヲ納ムヘキ者」トハ所有者質取主共ニ之ヲ指スモノニシテ同條ノ用語中ニ「其所有土地所在地」ナル文字アルノ故ヲ以テ之ヲ單ニ所有者ノミ

ヲ指シタルモノト解スヘカラス

第七款 土地臺帳

租稅ヲ賦課徵收スルニハ相當ノ帳簿ヲ備ヘ其課額及ヒ納否ヲ明瞭ナラシメサルヘカラス地租ニ關シテモ亦勅令又ハ訓令ハ種種ノ帳簿ヲ設クヘキコトヲ命シ以テ之カ賦課徵收ノ用ニ供スト雖モ其中ニ就キ最も重要ナルモノヲ舉クレハ先ツ指テ土地臺帳有租地集計簿地租名寄帳ノ三者ニ屬セサルヘカラス土地臺帳ハ之ヲ稅務署ニ備フルモノニシテ地圖ト相待テ土地各筆ノ現狀ヲ明ニシ地租負擔ノ基礎ヲ定ムルモノナリ有租地集計簿及ヒ地租名寄帳ハ共ニ土地臺帳ニ依リテ調製シタルモノニシテ前者ハ之ヲ稅務署ニ備ヘ每納期市町村ノ徵收スヘキ地租總額ヲ之ニ通知スルノ根據ト爲ルモノニシテ後者ハ之ヲ市町村ニ備ヘ每納期納稅義務者ノ納ムヘキ地租額ヲ之ニ告知スルノ根據ト爲ルモノナリ地租ヲ賦課徵收スルニハ三者其一ヲ缺クヘカラスト雖モ而モ地租算出ノ根基タル地價ハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フモノニシテ(地租條例第一條)且

字、地番、等級、地目、反別、地價、地租、登記年月日、所有主住所、所有主氏名ノ各欄ハ其文字ノ示ス所ノミニ依リ自ラ明カナルヲ以テ別ニ説明ヲ爲ササルヘシ唯内外歩沿革及ヒ事故ノ欄ニ記入スヘキ事項ニ付テハ一二説明ヲ加フルヲ便宜トスヘキカ故ニ左ニ之ヲ述フヘシ

(イ) 内歩欄ニハ一筆ノ土地中其地ニ付シタル地目ト異ナリタル状態ヲ呈スル土地ヲ包含スル場合ニ於テ其步數及ヒ名稱ヲ記入スヘキモノナリ例ヘハ田地中ニ三步ノ岩敷ヲ包含スルトキハ内部ノ欄ニ三步ト記シ名稱ノ欄ニ岩敷ト記スルカ如シ

(ロ) 外歩欄ニハ一筆中反別欄ニ記入シタル反別以外ニ稍ヤ地面ノ形状ヲ異ニスル土地アル場合ニ於テ其步數及ヒ名稱ヲ記入スヘキモノトス例ヘハ本地反別ノ外畦畔十歩アルトキハ外歩欄ニ十歩ト記シ名稱欄ニ畦畔ト記スルカ如シ地租條例施行規則發布前ニ於テハ田地ニ限リテハ畦畔反別ヲ除キ其反別ヲ定ムル制規ナリシヲ以テ田地ニハ總テ畦畔ナル外書地アリト雖モ地租條例施行規則ノ發布ニ因リ畦畔ヲ除キ丈量スルノ特例ハ廢止セラレタルヲ以テ土地ハ總テ其

經界ヨリ丈量スヘキモノナリ隨テ外歩欄ニ記入スヘキ事項ハ殆ント之レナキ

(ハ) 沿革欄ニハ地目變換、開墾、免租地成、荒地成分割、合併等其他總テ土地異動ノ事實ヲ記入スヘキモノトス土地ノ反別、地價、地租等ノ變更ハ土地其物ノ異動ニアラサルモ其事由ハ亦之ヲ沿革欄ニ記入スヘキモノナリ

(ニ) 事故欄ニ所有權又ハ質權ノ取得若クハ消滅アリタル旨ヲ記入スヘキモノトス所有者又ハ質取主ノ住所氏名ニ變更アリタル場合ニ於テモ亦其旨ヲ事故欄ニ記シ然ル後所有主住所欄又ハ所有主氏名欄ニ新住所又ハ新氏名ヲ記入スヘキモノナリ

第二 土地臺帳所管官廳

土地臺帳規則第二條ハ「市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘキモノト爲ス土地臺帳規則ノ發布セラレタル當時ニ於テハ市ノ地租事務ハ府縣廳ニ於テ町村ノ地租事務ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ取扱ヒタルヲ以テ土地臺帳モ亦府縣廳及ヒ島廳郡役所ヲシテ之

ヲ所管セシムヘキモノト爲シタルモノナリ然ルニ爾後官制ヲ改メ地租事務ハ市ト町村トノ區別ナク總テ直稅分署ニ於テ之ヲ取扱フヘキコトト爲シタルヲ以テ土地臺帳規則第二條中ニ規定シタル府縣廳及ヒ島廳郡役所ノ職權ハ自ラ直稅分署ニ移ルニ至リ尋テ兩度ノ官制改正ニ因リ直稅分署間稅分署ハ合シテ收稅署ト爲リ更ニ稅務署ト改稱シタルヲ以テ土地臺帳規則ハ改正ヲ經サルモ官制改正ノ結果現今ハ稅務署ヲ以テ土地臺帳所管應ト爲ササルヲ得サルニ至リタリ

土地臺帳規則第二條ハ獨リ土地臺帳ノ所管應ヲ定メタルノミナラス同時ニ該規則ニ於テ稱スル土地臺帳ナルモノハ府縣廳及ヒ島廳郡役所ニ設クル所ノモノノミヲ指スコトヲ定メタルモノナリ故ニ明治十七年大藏省第八十九號達ニ依リ當時市町村役場ニ備ヘタル土地臺帳ナルモノハ其市町村内ニ於ケル土地ノ沿革及ヒ反別地價地租等ヲ明ニスルモノナルヲ以テ市町村ハ依然之カ維持整理ニ力メ之ニ依リテ市町村自治行政上諸般ノ便宜ヲ得ンコトヲ期スヘキハ勿論ナリト雖モ明治二十二年勅令第三十九號土地臺帳規則ノ所謂土地臺帳ニハ

アラサルヲ以テ該規則及ヒ該規則ニ本キ制定セラレタル土地臺帳規則施行細則カ土地臺帳ニ付キ規定シタル所ハ市町村ニ設備スル土地臺帳ニ適用セラレルモノニアラサルナリ

第三 土地臺帳登錄手續

土地臺帳ナルモノハ屢記述スルカ如ク地租賦課ノ基礎ニシテ而モ其記載ハ未登記ノ土地ニ付テハ所有權ヲ證明スヘキ重要ナル材料ト爲ルモノナルヲ以テ其實地トノ符合ヲ保ツコトニハ最モ心ヲ用ヒサルヘカラス外國ノ例ニ於テハ土地臺帳ノ維持整理ノ爲メニハ法令ヲ以テ細密ナル規定ヲ爲スモノアリト雖モ我邦ニ於テハ土地臺帳ノ登錄ニ關シテハ法令ヲ以テ規定スル所甚タ少シ故ニ大體ニ於テハ當該官吏ハ精確ナル材料アリタルトキ之ニ依リテ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘキモノナリト謂フノ以上ニ出ツルコト能ハス然レトモ如何ナル帳簿ト雖モ之カ記入ハ精確ノ材料ニ依ルヘキハ當然ニシテ獨リ土地臺帳ニ限ルモノニアラサルカ故ニ今少シク事實的ニ之ヲ述フルコトトセハ當該官吏ハ土地ニ關スル異動ニシテ地租事務ニ關聯スルモノニ付テハ凡ソ左ノ如キ手續

ヲ以テ土地臺帳ノ登録ヲ爲スモノナリト謂フコトヲ得ヘシハ、或ハ其ノ
 (イ) 官廳ニ於テ公示スルモノハ其公示ニ本キ官廳ニ於テ指定スルモノハ指定
 ヲ爲シタル官廳ノ通知ニ本キ土地臺帳ノ登録ヲ爲スヘキモノトス
 (ロ) 稅務管理局長ノ許可ヲ要スルモノハ其許可ニ依リ稅務官廳以外ノ官廳ノ
 許可ヲ要スルモノハ許可ヲ爲シタル官廳ノ通知ニ依リ土地臺帳ノ登録ヲ爲ス
 ヘキモノトス
 (ハ) 法律又ハ命令ニ於テ稅務官廳ニ申告スヘキモノト爲シタルモノハ其申告
 ニ依リ土地臺帳登録ノ手續ヲ爲スヘシ
 (ニ) 法令ニ於テ申告スヘキコトヲ定メサルモ所有者又ハ質取主ノ申告シタル
 所ニシテ事實ト符合スルモノハ其申告ニ依リ土地臺帳ノ登録ヲ爲スヘシ但シ
 所有權ノ取得若クハ移轉及ヒ質權ノ設定移轉若クハ消滅ニ付テハ相續ニ因ル
 場合ノ外ハ申告ノミニ依リ土地臺帳ノ登録ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(土地
 臺帳規則施行細則第五條)是レ一ハ成ルヘク土地臺帳ト登記簿トノ抵觸ヲ避ケ
 シトスルニ出テ一ハ事實所有權ノ移轉アル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲サズ單

(ニ) 所有權保存ノ登記ヲ爲シ以テ所有權取得ニ付キ定メラレタル登録稅ヲ免レ
 シトスル者ヲ防クノ意ニ出テタルモノナルヘシ
 (ホ) 所有權ノ取得若クハ移轉、質權ノ設定、移轉若クハ消滅及ヒ未登記ノ土地ノ
 所有權保存登記ハ登記所ヨリノ通知ニ依リ土地臺帳ノ登録ヲ爲スヘシ(不動産
 登記法第一一條土地臺帳規則第三條明治二十二年司法省令第三號)
 (ヘ) 申請又ハ申告スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササルトキ土地臺帳ニ記載漏ノ土
 地アルトキ申請又ハ申告スヘキコトヲ定メサル有租地成又ハ免租地成アリタ
 ルトキ若クハ土地臺帳ノ記載ニ誤謬アルトキ當該官吏之ヲ發見シタル場合ニ
 於テハ其事實確實ナルモノニ限り事實ニ依リ土地臺帳ノ登録ヲ爲スヘキモノ
 ナリ
 當該官吏カ以上舉クル所ニ依リ土地臺帳ノ登録ヲ爲スニ當リテハ其事項ニ依リ
 地租事務上當然起ルヘキ地ノ事項ニシテ土地臺帳ニ記載スヘキモノハ其職責
 ヲ以テ併セテ登録セサルヘカラサルモノナリ例ヘハ一筆ノ山林ノ一部保安林
 ニ編入セラレタルノ告示アリタルトキハ保安林編入ノ旨ヲ土地臺帳ニ登録ス

ル前ニ於テ先ツ其部分ノ分割ヲ登録セサルヘカラス又例ヘシ地目變換ノ届出アリタルトキハ之ニ依リテ地目ノ登録ヲ爲スヘキハ勿論地目變換ニ伴フ法律上ノ效力タル地價修正ヲ爲シタルトキ其結果ヲモ登録スルコトヲ要ス故ニ當該官吏ハ土地ニ關スル異動ニシテ地租事務ニ關聯スル事項ニ付テハ常ニ官廳ノ告示又ハ通知所有者又ハ質取主ノ申請申告及ヒ實地ノ狀況等ニ注意シ遺漏ナカラシコトヲ期スヘキハ勿論一旦精確ナル材料ヲ得タルトキハ之ニ關聯シテ土地臺帳ニ登録スヘキ事項ハ一モ之ヲ遺ササルコトニハ最モ意ヲ用ヒサルヘカラス

第四 土地臺帳ノ謄本請求

土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付キ金二錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納メ土地臺帳所管廳タル稅務署ニ請求スルトキハ之カ交付ヲ受クルコトヲ得ヘシ土地臺帳規則第四條ハ土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者トシテ廣ク規定シタルヲ以テ所有者質取主ノ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論土地臺帳ノ謄本ヲ入用トスル者ハ其土地ニ付キ何等ノ權利ヲ有セサル者ト雖モ之ヲ請求ヲ爲スコト

ヲ得ルモノナリ謄本請求ノ手数料ハ現今印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘキモノト定メラレタルヲ以テ請求者ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ請求書ニ貼付シテ之ヲ提出スヘキモノトス遠隔ノ地ニ在ル者ハ郵便ヲ以テ土地臺帳ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得ヘシ然レトモ元來謄本ノ請求ハ稅務署ニ申出テ之カ交付ヲ受クルヲ本則トスルモノナルヲ以テ郵便ヲ以テ請求スル者ハ謄本送付ニ要スル通信料ヲ負擔セサルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送付セラルルコトヲ望ム者ハ書留郵便料普通郵便ヲ以テ送付セラルルコトヲ望ム者ハ普通郵便料ニ相當スル郵便切手ヲ請求書ト共ニ添送スルコトヲ要スルモノトス

第八款 改良地ニ關スル特例

地租ヲ課セス又ハ之ヲ免シタル土地ニシテ有租地トナリタルトキハ之カ地價ノ設定ヲ要シ有租地ニシテ地目變換地類變換若クハ開墾ヲ爲シタルトキハ地價ノ修正ヲ爲ササルヘカラスルコト上來説明シタル所ノ如シ而シテ地價ノ設

定又ハ修正ヲ爲ス場合ニ於テハ地租條例第十三條第四項ニ依リ素地相當ト認
ムル地價ヲ定ムヘキ場合ノ外ハ總テ其地ノ現況ニ依リ所得ヲ審査シ之ニ依リ
テ其地價ヲ定ムヘキコト亦既ニ述ヘタル所ノ如シ此原則ハ土地改良ノ爲メ其
區畫形狀ヲ變更スル場合ニ於テ其特例ヲ見ルモノナリ明治三十年法律第三十
九號ニ依レハ此ノ如キ土地ニ付テハ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ分配シテ其
地價ヲ定ムヘキモノトス該法律ノ規定ハ用語簡短ニシテ稍ヤ盡ササルモノア
ルカ如シト雖モ該法律ノ制定セラレタル所以ノ趣旨カ目下我邦ニ於ケル土地
ノ狀態ヲ改良シ其生産力ヲ増加シ又ハ之カ生産費ヲ節減セントスル事業ヲ獎
勵スルカ爲メ若クハ少クトモ之ニ支障ヲ與ヘサルカ爲メ改良シタル土地ノ地
租ハ之ヲ從前ノ地租ヨリ重キコトナカラシメ其改良事業ニ伴フテ土地臺帳ニ
登録スル事項ニ付テハ登録稅ヲ徵收セサルニ在リシヨリ見レハ該法律ノ規定
ハ原則ニ對シ左ノ點ニ於テ例外ヲ爲スモノト謂ハサルヘカラス
(イ) 改良事業ノ爲メ地租ヲ課セス又ハ之ヲ免シタル土地ヲ有租地ト爲シ若ク
ハ有租地ノ地面ノ狀態ヲ變更スルニ至ルモ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲サス隨テ

地目變換地類變換開墾等ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス明治三十年法律第三十九
號ハ此事ヲ明言セスト雖モ改良事業ニ伴フ土地狀態ノ變更ニ付キ一土地租條例
ノ定ムル所ニ依リ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲スヘキモノトセハ改良地ノ地價合
計額ヲシテ從前ノ地價合計額ト同一ナラシムヘキモノト爲シタル法律ノ趣旨
ハ殆ト無意義ノモノト爲ルヘシ此ノ如キハ法文解釋ノ當ヲ得タルモノニアラ
ス特ニ明治三十年法律第三十九號第三項ハ改良着手前ニ地目變換地類變換開
墾等ヲ爲シタル土地アル場合ニ付テ之カ詳細ノ規定ヲ設ケシルニモ拘ラス改
良着手中ノ土地狀態變更ニ付テハ何等ノ言ヲ爲ササリシヲ以テ見ルモ改良ニ
伴フ土地狀態ノ變更ハ法律ハ之ヲ以テ地目變換開墾等ト看做ササルノ精神ナ
ルコト推知スルニ足ルヘシ
(ロ) 改良事業ノ爲メ土地ノ區畫ヲ變更スルモ分合筆ノ手續ヲ爲スコトヲ要セ
ス地租條例施行上分合筆ノ届出ヲ爲サシムルハ之ニ依リテ各筆ノ地價ヲ定ム
ルノ手續ヲ爲スカ爲メナリ然ルニ改良地ノ地價ハ改良後ノ區域ニ本キ政府ニ
於テ相當配賦ヲ爲スモノニシテ之カ爲メ明治三十年大藏省令第十九號第二項

ハ事業竣功シタルトキ改良規畫者ヲシテ各筆ノ區域ヲ豫定シ其假定地價ヲ記載シタル書面ニ地圖ヲ添附シテ稅務管理局長ニ届出テシムルカ故ニ稅務管理局長ハ之ニ依リテ地價ノ相當配賦ヲ爲スコトヲ得ヘク特ニ分合筆ノ届出ヲ爲サシムルノ要ナシ明治三十年法律第三十九號ノ施行規則タル該省令カ此場合ニ付テ特ニ届出ノ手續ヲ定メタルハ則チ反面ニ於テ改良地ノ場合ニ於テハ分合筆ノ手續ヲ爲スニ及ハサルコトヲ定ムルモノト謂ハサルヘカラス但シ一筆ノ一部ヲ改良施行部分ニ入レ他ノ一部ハ之ヲ改良施行ノ範圍外ニ置ク場合ニ於テハ改良著手前之カ分割ヲ爲スヲ要スヘキハ論ヲ俟タス

(六) 改良地每筆ノ地價ヲ定ムルニハ其地ノ現況ニ依リ所得ヲ審査シ之ニ依リテ地價ヲ評定スヘキモノニアラスシテ改良ヲ施行シタル範圍内ニ於ケル從來ノ地價ヲ合計シ之ヲ相當ニ分配スヘキモノトス但シ相當ナル分配ヲ爲サントセバ勢ヒ實地ノ情況ニ依リ其所得ヲ審査シ之ニ應シテ配賦スヘキ地價ヲ定メテ之ヘカラサルカ故ニ所得審査ノ原則ハ此場合ニ於テモ亦其適用アルモノナリト雖モ每筆ノ所得ニ依リ直チニ地價ヲ詳定スルニアラスシテ從來ノ地價總額

ヲ以テ改良地全體ノ地價總額ト爲シ每筆ノ所得ニ應シ之ヲ分配スルノ點ニ於テ原則ニ對スル特例アルモノナリ

改良地ハ右ニ述フル如ク土地ノ形狀區畫ヲ變更スルモ地租條例其他地租ニ關スル法令ノ定ムル手續ヲ爲スコトヲ要セス且ツ土地ノ改良アリタルニモ拘ラズ其地價ハ總額ニ於テハ從前ノ地價ヨリ増加スルコトナキカ故ニ改良ヲ施ササル地ニ比スレハ所得ノ割合ニハ其地租輕キヲ常トスルモノナリ故ニ法律上特殊ノ恩典アルモノト謂ハサルヘカラス此恩典ヲ享受スルニハ法律ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ストセリ

(イ) 市町村内ノ土地所有者全部又ハ一部共同シテ其區畫形狀ヲ變更スルカ又ハ同一土地所有者ニシテ地續數筆ノ土地ノ區畫形狀ヲ變更スルコトヲ要ス明治三十年法律第三十九號ハ土地ノ整理ヲ爲ス者ニ便宜ヲ與フルノ趣旨ヲ以テ制定セラレタルモノナリ土地ノ整理トハ多數ノ所有者カ土地ノ交換分合等ヲ行フカ又ハ同一所有者ト雖モ多數ノ土地ニ付キ其分合變更等ヲ爲スヲ謂フモノナルヲ以テ交換分合變更等カ多數ノ土地ニ付キ行ハルル場合ニアラサレハ同

法ヲ適用スヘキモノニアラス但シ如何ナル場合ニ於テ多數ノ土地ニ付キ交換分合變更等アリヤハ事實ノ問題ナルヲ以テ當該官廳ノ認定ニ任スヘキモノトス
(ロ) 土地ノ區畫形狀ノ變更ハ改良ノ目的ニ出ツルコトヲ要ス 明治三十年法律第三十九號ハ土地ノ生産力ヲ増加シ又ハ其生産費ヲ節減セントスルカ如キ改良ヲ獎勵スルノ趣旨ヲ有スルヲ以テ改良ノ目的ナキ區畫形狀ノ變更ノ場合ニハ同法ヲ適用スルコトヲ得ス

(ハ) 政府ノ許可ヲ受ケテ土地ノ區畫形狀ヲ變更シタルモノナルコトヲ要ス 土地ノ區畫形狀變更ニシテ明治三十年法律第三十九號ノ定ムル恩典ヲ受クルニハ土地改良ノ爲メ之ヲ整理スル場合ナラサルヘカラス而シテ區畫形狀變更カ改良ノ目的ニ出ツルヤ將タ法律ノ期スル土地ノ整理ナルヤハ事實ノ問題ナルヲ以テ時ニ認定上争アルコトヲ免レス故ニ法律ハ豫メ政府ノ許可ヲ受クヘキモノト爲シ政府ノ許可シタルモノノミヲ以テ改良ノ目的ヲ有スルモノニシテ而モ土地ノ整理ヲ爲スモノト看ルヘキモノト爲シ以テ他日争議ヲ生スルノ餘地ナカラシメタリ而シテ既ニ法律ヲ以テ政府ノ許可ヲ要スト爲シタル以上

ハ苟モ政府ノ許可ヲ受ケサレハ事實改良ノ目的ヲ以テ多數ノ土地ノ交換分合變更等ヲ爲スモ明治三十年法律第三十九號ノ恩典ヲ受クルコト能ハサルモノトス出願ハ所轄稅務管理局長ニ向ヒテ之ヲ爲スモノニシテ出願書ニハ必ス事業著手ノ時期ヲ記スヘク且ツ設計書、現在地圖、變更豫定圖ヲ作り之ヲ添附セサルヘカラス若シ改良ヲ施行セントスル範圍内ニ官有地又ハ民有第二種地即チ免租地アリテ其拂下又ハ下渡若クハ供用變更ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ豫メ主管官廳ノ許可ヲ受ケ其許可書ヲモ添附セサルヘカラス(明治三十年大藏省令第十九條第一項)

以上述フル所ハ改良地ニ關スル特例ノ普通ナルモノナリ改良施行地ニシテ單純ナル場合換言スレハ改良施行地内ニ事業著手前ノ事由ニ因リ地價ノ設定修正又ハ復舊ヲ爲スヲ要スル土地ナキ場合ニ於テハ常ニ以上ニ述ヘタル特例ヲ見ルヘキモノナリ若シ改良施行地内ニ事業著手前ニ於テ地目變換、地類變換、開墾ヲ爲シ未タ其地價ヲ修正セサル土地ヲ包含シ又ハ事業著手前ニ於テ新開免租年期、地價据置年期、荒地免租年期若クハ低價年期ノ許可ヲ受ケ其年期尙

ホ終了ニ至ラサル土地ヲ包有スルトキハ地價ノ設定修正又ハ復舊ニ付キ地租條例ノ規定スル所ト改良地ニ關シ明治三十年法律第三十九號特ニ規定シタル所トハ如何ニ之ヲ調和スヘキモノナルヤ事業著手後ニ於テハ改良施行地内ニ於ケル土地ノ分割ハ全ク一變シ其地面ノ状態モ亦面目ヲ改ムルモノアルヘキカ故ニ従前ノ區域ト状態トニ依リ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲サントスルモ之ヲ評價スルニ由ナカルヘシ且ツ事業竣功シタルトキハ新區域ニ依リ每筆相當ニ地價ヲ定ムルヲ以テ特ニ規定アルニアラサレハ之ニ依リテ地租ヲ徵收セサルヘカラス隨テ未タ滿了ニ至ラサル年期ハ之ヲ消滅セシムルカ又ハ新定地價ニ對シテ之ヲ適用スルノ途ヲ開カサルヘカラス明治三十年法律第三十九號ハ其制定ノ當時ニ於テハ此等ノ點ニ關シテ規定ヲ缺如シタリ故ニ明治三十三年ニ至リ法律第六十二號ヲ以テ一項ヲ追加シ之カ不備ヲ補正セラレタリ追加後ノ法律ニ依レハ改良施行地内ニ事業著手前ノ事由ニ因リ地價ノ設定修正又ハ復舊ヲ爲スヲ要スル土地ヲ包含スル場合ニ於テハ左ノ如キ取扱ヲ爲スヘキモノトス

一 地目變換地ヲシテ未タ地價ヲ修正セサリシモノ地類變換若クハ開墾ヲ爲

シタル土地又ハ開墾歛下年期開拓歛下年期地價据置年期ヲ有スル土地ハ事業著手ノ際其他ノ現況ニ依リ地價ヲ修正シ新開免租年期ヲ有スル土地ハ事業著手ノ際其地ノ現況ニ依リ地價ヲ設定スヘキモノトス(明治三十年法律第三十九號第三項第一號)地租條例ニ依レハ此ノ如キ土地ハ變換等ノ如キ事由アリタル年ヨリ五年以内、六年目若クハ十年目又ハ年期明ノ年ニ於テ其時ノ現況ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲スヘキモノナリト雖モ改良ヲ施行スル場合ニ於テハ地租條例ノ規定ニ依ラス事業著手ノ際其時ノ現況ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲スヘキモノナリ而シテ明治三十年大藏省令第十九號ハ此場合ニ於テ土地所有者ヨリ地價ノ修正又ハ設定ニ付キ特ニ申告等ヲ爲スヘキコトヲ定メサルヲ以テ當該官吏ハ土地改良ノ爲メ區畫形狀ノ變更ヲ爲スノ出願ニ對シ許可アリタル場合ニ於テ其改良施行地内ニ右ノ如キ土地アルトキハ自ら進ミテ地價修正又ハ設定ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

二 右ニ依リ地價ヲ修正シタル土地ハ地目又ハ地類變換ヲ爲シタルモノハ變換後六年目開墾ヲ爲シタルモノニシテ歛下年期ノ許可ヲ受ケサリシモノハ開

墾著手後十年目、鐵下年期若クハ地價据置年期ヲ有スルモノハ年期明ニ至リ始メテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノニシテ其以前ニ於テハ從前地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノトス其地價ヲ設定シタル土地ニ付テモ亦然リ年期中ハ地租ヲ徵收セス年期明ノ翌年ヨリ設定地價ニ依リ他租ヲ徵收スヘキモノナリ(明治三十年法律第三十九號第三項第二號)改良施行地ハ事業著手後ニ於テハ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ著手ノ際之カ修正又ハ設定ヲ爲スモノナリト雖モ著手前ノ事由ニ因リ既ニ一定ノ年間ハ從前ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收シ又ハ全ク之ヲ免スヘキモノト爲リタル土地ニ對シ改良施行ヲ爲スカ爲メ便宜地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルノ故ヲ以テ直チニ修正又ハ設定シタル地價ニ依リ其地租ヲ徵收スルコトト爲ストキハ所有者ハ土地ノ改良ヲ爲スカ爲メ却テ多クノ場合ニ於テハ既得ノ利益ヲ失フコトト爲リ土地改良ヲ獎勵スル所以ノ趣旨ニ適セサルヲ以テ此ノ如キ土地ハ地價ヲ修正又ハ設定スルモ直チニ之ヲ適用セス地租條例カ豫期シタル年限ニ至リテ始メテ之ヲ適用スヘキモノト爲シタルナリ

三 事業竣功シタルニ依リ每筆ノ地價ヲ定ムルカ爲メ現地價ノ合計ヲ爲ス場合ニ於テ地目若クハ地類ノ變換後五年開墾著手後九年ヲ經過セサル土地又ハ鐵下年期、地價据置年期ヲ有スル土地ニ付テハ事業著手前又ハ著手ノ際修正シタル地價新開免租年期ヲ有スル土地ニ付テハ事業著手ノ際設定シタル地價、荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ニ付テハ原地價ヲ以テ現地價トシ合計額ノ計算ニ加フヘキモノトス(明治三十年法律第三十九號第三項第三號)蓋シ竣功ノ土地ニ付スル地價ハ爾後永遠ニ地租ノ標準タルヘキモノナルヲ以テ土地ノ最近ノ狀態ニ依リテ定メタル地價又ハ被害前ノ狀態ニ於ケル地價ヲ以テ之カ計算ノ基礎ト爲スハ明治三十年法律第三十九號ノ精神ヲ失ハスシテ地租條例ノ大體ノ趣旨ヲ全ウスルモノト謂フコトヲ得ヘシ

四 改良施行地内ニ事業竣功ノ時尙ホ地目若クハ地類ノ變換後五年開墾著手後九年ヲ經過セサル土地又ハ年期滿了セサル土地アル場合ト雖モ其修正地價、設定地價又ハ原地價ヲ以テ現地價ノ合計額ヲ計算シ之ヲ每筆ニ分配シテ其地價ヲ定ムヘキコト右ニ説明スル所ノ如シ而シテ事業竣功ヲ告ケ其每筆ノ地價確

定シタルトキハ之ニ依リテ地租徵收スヘキハ勿論ニシテ隨テ舊區域ニ對シ變換後五年、開墾著手後九年又ハ年期中ハ從前ノ地價又ハ低減セタル地價ニ依リテ地租ヲ徵收シ若クハ全ク地租ヲ徵收セスト爲シタル法律上ノ效力ハ自ラ消滅スヘキモノト謂ハサルヘカラス(明治三十年法律第三十九號第三項第二號但書然レモモ元來明治三十年法律第三十九號ハ土地改良ヲ獎勵スルノ趣旨ヲ以テ制定セラレタルモノナルヲ以テ所有者ヲシテ土地改良ノ爲メ既得ノ法律上ノ利益ヲ失ハシムルカ如キハ其精神ニ適合セサルモノナリ唯事業竣功ノ後ニ至リ尙ホ種種ノ年期又ハ修正地價不適用ノ期間ヲ存セシムルコトハ事實ノ許ササル所ナルヲ以テ法律ハ其自ラ消滅ニ歸スヘキコトヲ定ムルト同時ニ之カ代償トシテ改良施行地内ノ土地所有者カ得ヘカリシ利益即チ免除セラレヘカリシ地租額又ハ從前ノ地價ニ依ル地租ト修正地價ニ依ル地租トノ差額若クハ低減地價ニ依ル地租ト原地價ニ依ル地租トノ差額ハ殘年期間毎年之ヲ土地所有者ニ與フルカ爲メ事業關係者ヲシテ其協議ヲ以テ利益ヲ受クヘキ土地並ニ其土地ニ對シテ與フヘキ利益ノ金額ヲ定メ政府ニ申告セシメ其年間ハ其土地ノ地租

額中ヨリ其受クヘキ金額ヲ控除シテ納ムルコトヲ得セシメタリ(明治三十年法律第三十九號第三項第四號)既ニ年期又ハ修正地價不適用ノ期間ノ消滅ノ爲メ利益ヲ失フヘキ場合ニ於テ之カ代償ヲ與フルヲ可ナリトセハ修正地價不適用ノ期間消滅ノ爲メ却テ利益ヲ得ヘキ場合即チ修正地價カ從前ノ地價ヨリ低カリシ場合ニ於テハ其差額ハ所有者ヲシテ之ヲ負擔セシメテ可ナルヲ以テ明治三十年法律第三十九號第三項第四號ハ此場合ニ於テハ事業關係者ハ負擔ヲ爲スヘキ土地及ヒ其金額ヲ協定シ之ヲ政府ニ申告スヘキモノト爲シタリ而シテ右孰レノ場合ニ於テモ事業關係者ノ協議調ハサルトキハ實地ノ情況ヲ案シ政府ニ於テ公平適實ニ之ヲ定ムヘキモノトス

耕地ノ整理ニ關シテハ明治三十二年法律第八十二號ヲ以テ耕地整理法ヲ定メラレ隨テ整理施行地ニ付テハ地租條例其他地租ニ關スル法令ノ特例ヲ爲スモノアリト雖モ耕地整理法第一條及ヒ第二條ハ之ヲ第三十年法律第三十九號第一項及ヒ第二項ニ比スルニ其規定ニ細粗ノ別アルノミニシテ其趣旨ハ殆ト同一ニ歸スルモノノ如シ特ニ耕地整理法第十五條ハ整理ヲ施行シタル土地ノ地

價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ムヘキコトヲ規定スルカ故ニ上來述ヘタル所ハ悉ク整理施行地ニ適用セラルルモノトス故ニ整理施行地ニ關シ更ニ説明ヲ爲スコトハ之ヲ省略スヘシ

第九款 罰則

地租ニ關シ罰則ヲ定ムルモノハ獨リ地租條例アルノミ而シテ地租條例ハ左ノ場合ニ於テ土地所有者ヲ罰金又ハ科料ノ刑ニ處スヘキコトヲ定ム

(イ) 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱シタルトキ(地租條例第二五條)

(ロ) 地方廳ノ許可ヲ受ケスシテ免租地ヲ有租地ト爲シタルトキ(地租條例第二

六條)

(ハ) 届出ヲ爲サスシテ地目變換ヲ爲シタルトキ(地租條例第二七條)

(ニ) 届出ヲ爲サスシテ地類變換ヲ爲シタルトキ(同上)

(ホ) 届出ヲ爲サスシテ開墾ヲ爲シタルトキ(同上)

地租條例カ土地欺隱罪ヲ規定シタルハ予ノ其理由ヲ解スルニ苦ム所ナリ土地

欺隱罪ナルモノハ新ニ檢地ヲ爲スカ如キ場合ニ於テ巧ニ當該官吏ヲ欺キ土地ノ檢按ヲ免ルルニ因リテ成立スルモノナリ地租條例ハ檢地ヲ有スヘキ場合ヲ定ムルコトナシ故ニ土地ヲ欺隱スヘキ場合ヲ生スルコトアルヘカラサルカ如シ若シ強テ場合ヲ想像スレハ地價ヲ定メ又ハ之ヲ修正スヘキ場合ニ於テハ當該官吏ハ實地ニ臨ミ土地ヲ丈量シ其地價ヲ評定スヘキモノナルカ故ニ當該官吏カ土地ノ丈量地價ノ査定ヲ爲サントスルニ當リ申告書ニ土地ノ一部ヲ除キテ記載シ實地檢査ノ場合ニ於テ其餘キタル部分ハ他筆ニ屬スルカ如キ申立ヲ爲シ之ニ依リテ地價ノ査定ヲ免レタル如キ場合ニ於テ欺隱罪成立スト謂フコトヲ得ヘキカ然レトモ土地臺帳ヲ設ケ地租ニ關スル登録ヲ爲シ且ツ地圖ヲ以テ土地ノ位置、形狀ヲ明カニスル今日ニ於テ所有者カ申告書ヲ詐リ又ハ實地ニ於テ不正ノ申立ヲ爲スヲ以テ土地欺隱罪ナリト謂フハ立法論トシテハ未ダ盡ササル所アルヲ免レサル如シ

前ニ擧ケタル(イ)(ロ)(ホ)ノ場合ニ於テハ發覺ノ際現地目ニ依リ地價ヲ設定シ又ハ之ヲ修正シ其地租又ハ地租ノ増差ヲ追徴スヘキモノナリ但シ發覺ノ日ヨリ

三年以前ニ溯ルコトヲ得サルモノトス(ハ)(ニ)ノ場合ニ於テ其地價ヲ修正スルニ付テハ届出ヲ爲シタル場合ト異ナルコトナシ但シ事實變換ヲ爲シタル年ヨリ六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ發覺ノ時現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキコト前既ニ述ヘタルカ如シ

借地人又ハ小作人ニ於テ前掲ノ犯則行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者其情ヲ知ラサルトキハ借地人又ハ小作人ニ對シ第二十五條乃至第二十七條ノ制裁ヲ適用スヘキモノトス但シ地租ハ之ヲ所有者ヨリ追徵スルモノトス(地租條例第二八條)所有者其情ヲ知リタルトキハ無論所有者其人ノ犯則トシテ所有者ノミヲ罰シ借地人又ハ小作人ハ之ヲ罰スヘキモノニアラサルコトハ第二十八條ノ規定ノ反面ニ於テ疑ヲ容レサル所ナリト雖モ所有者ニシテ情ヲ知ラサルトキハ之ヲ罰スルコトヲ得ス而シテ若シ此ノ如キ場合ニ於テ何人モ所罰セラルルコトナシトセハ所有者ハ往往犯則ヲ敢行シ偶マ發覺シタルトキハ之ヲ借地人又ハ小作人ノ所爲ニ籍口シ制裁ヲ免ルルノ弊ヲ生スヘキカ故ニ借地人又ハ小作人ノ所爲ナルコト明カナルトキハ之ヲ處罰スルコトト爲シ以テ無制裁ニテ

犯則ヲ敢行スルニ至ルヲ防キタルナリ

地租條例ニ定メタル刑ハ犯則者自首スルトキハ之ヲ免スルモノナリ但シ此場合ニ於テモ追徵スヘキ地租ハ之ヲ免スルコトナシ(地租條例第二九條)

第二章 所得稅

第一節 所得稅

我邦ニ於テ始メテ所得稅ヲ施行シタルハ實ニ明治二十年ナリ當時政府ハ北海道物産稅ノ稍ヤ重キニ過クルノ實アルヲ見之カ輕減ヲ爲スノ目的ヲ以テ北海道水産稅則制定ノ議アリ之ニ依リテ國庫ノ收入ヲ減スルコト凡ソ二十五萬餘圓ニ上ラントスルヲ以テ之ヲ補填スルノ必要アルニ加ヘ一方ニ於テハ漸次國防計畫ヲ完成スルカ爲メ經費ヲ要スルコト尠カラサルノミナラス一般行政費モ亦社會ノ進歩ト其ニ漸次其額ヲ増加スルハ免レサルノ趨勢ナルカ故ニ歲入ヲ増加シテ時勢ノ急ニ應スルノ必要アリシト雖モ當時國庫ノ重要財源タル地租ハ其負擔輕カラヌシテ更ニ之ヲ増加スルノ餘地ナカリシノミナラス時ノ當局

者ハ其他ノ租稅ニ在リテモ亦其稅率ヲ增加シ以テ歲入ノ增加ヲ求メンヨリハ
 寧ロ更ニ新稅目ヲ選ヒテ之ヲ創定シ之ニ依リテ所要ノ金額ヲ得ルヲ以テ政策
 ノ得タルモノト爲シ而シテ所得稅ナルモノハ能ク貧富ノ程度ニ應シテ負擔ノ
 衡平ヲ得ルモノナルカ故ニ之ヲ以テ選擇スヘキ新稅目ト爲スヲ以テ最モ時宜
 ニ適スルモノト爲シ明治二十年勅令第五號ヲ以テ所得稅法ヲ制定シ同年七月
 一日ヨリ之ヲ實施シタリ明治二十年ニ於テハ年ノ央ヨリ勅令ヲ施行シタリシ
 カ當時ノ書類ニ徵スルトキハ同年度ノ收入ト爲ルヘキ所得稅額ヲ六十萬圓ト
 爲シタルモノノ如クナルヲ以テ見レハ所得稅法制定當時ニ於テハ新稅ニ依リ
 年ニ凡ソ百二十萬圓ノ收入ヲ得ルトスルニ在リシカ如シ今明治二十年ヨリ同
 三十一年ニ至ル十二年間ニ於ケル所得稅ノ賦課額ヲ擧クレハ左ノ如シ

明治二十年	五二七、八二四
明治二十一年	一〇六六、八五五
明治二十二年	一〇五六、二五六
明治二十三年	一〇八八、五八六

明治二十四年	一、一一三、〇七〇
明治二十五年	一、一二九、〇六六
明治二十六年	一、二三八、〇七二
明治二十七年	一、三五九、〇五三
明治二十八年	一、四九五、九一〇
明治二十九年	一、七九六、四九八
明治三十年	二、〇九一、八七三
明治三十一年	二、三四七、九四五

所得稅法ハ明治二十年制定以來市町村及ヒ府縣制ノ施行セララルニ至リ之ト
 致セシムルカ爲メ特別法令ヲ以テ補則ノ如キ規定ヲ設ケタルノ外何等變改
 セラレタル所アルコトナシ然ルニ明治二十年制定ノ所得稅法ハ年ヲ經ルニ隨
 ヒ左ノ點ニ於テ時勢ニ適應セサルニ至レリ

- 一 納稅義務者ノ範圍明カナラス 該法ハ單ニ三百圓以上ノ所得アル人民
- ハ納稅義務アルコトヲ定ムルノミナルカ故ニ外國ニ在ル本邦人及ヒ外國人

ノ納稅義務ニ付テハ法律ノ意義分明ナラス該法制定ノ當初ニ於テハ内外ノ交通今日ノ如ク頻繁ナラサリシノミナラス舊條約ノ下ニ於テ外國人ニ對シテハ課稅ヲ爲ササル慣例ナリシカ故ニ此ノ如キ規定モ亦實際ニ於テ甚シキ支障ヲ見サルヲ得タリト雖モ内外交通隆盛ト爲リ彼我互ニ多數ノ在留人ヲ見ルニ至リ特ニ改正條約ノ實施ト共ニ外國人ト雖モ帝國ノ課稅權ニ服從セザルヘカラサルニ至リタル以上ハ國ノ内外ニ涉リテ納稅義務者ノ範圍ヲ明カニスルニアラサレハ法律ノ施行上疑義ト紛争トハ殆ト絶ユルコトナカルヘシ

二 法人ニ課稅スルコトヲ得ス 所得稅法制定ノ當時ニ於テハ法人ナル觀念ハ未タ一般ニ了得セラレサリシカ故ニ該法ハ法人ニ課稅スルノ規定ヲ設ケサリシト雖モ爾後社會ノ發達ト共ニ商事會社ノ勃興ヲ促シ商法民法ノ實施ニ依リ法人ナルモノ茲ニ法律上ノ承認ヲ得ルニ至リテハ之ニ課稅セサルハ法ノ衡平ヲ維持スル所以ニアラサ特ニ法人ニ課稅セサルノ結果ハ箇人ヲシテ依リテ以テ所得稅ノ賦課ヲ免ルルヲ得セシムルニ至ルヲ免レサルヲ以

テ所得稅ニ因リ收入ヲ得ントスルノ目的ヲ達スルカ爲メニモ亦法人ニ課稅スルノ必要ヲ見ルモノナリ

三 累進稅ノ目的ヲ達セス 該法ノ規定スル所ニ依レハ所得ハ之ヲ五等ニ分チ累進的稅率ヲ以テ之ニ所得稅ヲ課スヘキモノト爲セリト雖モ既ニ課稅ヲシテ貧富ノ間ニ權衡ヲ得セシムルカ爲メニハ累進稅ノ方法ニ依ルヲ可ナリトセハ僅ニ五等ノ等級ヲ以テシテハ其目的ヲ達スルコトヲ得サルヘシ何トナレハ等級少キトキハ累進ノ效用ヲ奏セサルノミナラス等級間ニ於ケル課率ノ差額多キニ過キ却テ權衡ヲ失フニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ累進稅ノ目的ヲ達セントセハ自ラ所得ノ等級ヲ多カラシメサルヘカラス

四 執行機關其宜ヲ得ス 所得稅ノ調查決定ニ付テハ府縣知事郡區長ヲシテ之ニ當ラシメタリト雖モ稅務執行機關ニシテ既ニ府縣知事ノ手ヲ離レテ特定スルコトト爲リタル以上ハ所得稅ニ限リテ獨リ之ヲ府縣知事郡區長ニ委スヘキノ理由アルコトナシ故ニ他ノ租稅ト同シク所得稅ノ調查決定モ亦稅務機關ヲシテ之ヲ行ハノムルコトト爲スヘキハ當然ナリ

右ニ概舉スルカ如キ點ニ於テ所得稅法ハ既ニ其改正ヲ要スルノ時機ニ達シタルニ際シ恰モ明治三十一年度ノ歲計ニ於テハ巨額ノ歲入不足ヲ見タルカ故ニ茲ニ財源ノ鞏固ヲ圖ルカ爲メ增稅計畫ヲ立ツルノ必要ヲ生シタルヲ以テ明治三十二年法律第七號ヲ以テ所得稅法全部ノ改正ヲ爲シ前記ノ缺點ヲ補フト同時ニ之ヲ以テ歲入増加ノ一財源ヲ充ツルコト爲レリ當時政府ノ計畫ニ於テハ所得稅法ノ改正ニ依リ百四十九萬四千五百十六圓ノ增收ヲ得ルニ在リシカ如シ然ルニ明治三十二年度ニ於テ實際決定又ハ徵收シタル所得稅ハ左ノ如シ

種別	稅率別	人員	所得金額	所得稅額
第一種(千分ノ二十五)	人員	五八四六	六四、一一二、一一八	一、六〇二、八一〇
	公債		一一、八三八、七五〇	二、三六、七七五
	社債		九五八、三〇〇	一九、一六六
第二種(千分ノ二十)	計		一二、七九七、〇五〇	二、五五、九四一
	計		五一一、五六二	二八、一三五

千分ノ五十	一四	五六六、九八二	二八、三四九
千分ノ四十五	六六	二、六一一、一九二	七二、五〇三
千分ノ四十	九四	一、六一五、六一七	六四、六二四
千分ノ三十五	一四二	一、六二五、〇三七	五六、八七六
千分ノ三十	四六一	三、九二四、六〇六	一一七、七三八
第三種(千分ノ二十五)	二、三四一	一一、〇四二、六八四	二七六、〇六七
千分ノ二十	五、一三〇	一四、二三四、一八四	二八四、六八三
千分ノ十七	八、七二六	一六、〇七三、四一六	二七三、二四八
千分ノ十五	三五、六七九	三八、一一三、四九五	五七一、七〇二
千分ノ十二	九七、四五二	五四、三九七、五六四	六五二、七七一
千分ノ十	一九二、五四五	六〇、九四九、二〇四	六〇九、四九二
計	三四二、六五二	二〇四、六六五、五四二	三、〇三六、一八八
合計	三四八、四九八	二八一、五七四、七一〇	四、八九四、九三九

即チ所得稅ノ總額ハ四百八十九萬四千九百三十九圓ニシテ之ヲ明治三十二年

度總豫算ニ掲上シタル所得稅額即チ稅法改正前ノ豫算額二百三十四萬千二百三十九圓ニ比スレハ二百五十五萬三千七百圓ノ増加之ヲ明治三十一年度賦課額二百三十四萬七千九百四十五圓ニ比スレハ二百五十四萬六千九百九十四圓ノ増加ニシテ當初政府ニ於テ豫期シタル増加額百八十九萬餘圓ニ比スレハ凡ソ六十五六萬圓ノ增收ヲ見タルノ結果ナリ明治三十三年度ハ今尙ホ年度未經過ノ中ニ在ルヲ以テ其所得稅額ハ未タ正確ナル計數ヲ得ルニ至ラスト雖モ第三種ノ所得ノミニ就テ見ルモ前年決定額ニ比スレハ大ニ増加シタルモノノ如クナルヲ以テ全部ニ於テハ前年ヨリモ大ニ増加スルモノト謂フテ誤ナカルヘシ所得稅ナルモノハ民富ヲ追フテ年年増加スルノ傾向アルモノニシテ而モ所得稅ノ長所ノ一ハ則チ茲ニ在リト謂フコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ今後ニ於テモ頗ル有望ナル財源トシテ見ルコトヲ得ヘシ

第二節 現行所得稅

現行所得稅ヲ研究セントセハ左ノ諸法令ヲ參看スルコトヲ要ス

- 一 明治三十二年法律第十七號 所得稅法
 - 二 明治三十二年勅令第七十八號 所得稅法施行規則
 - 三 明治三十二年大藏省令第十二號
 - 四 明治三十二年大藏省令第十三號
 - 五 明治三十二年大藏省令第十七號
 - 六 明治三十二年大藏省達第七百十六號
 - 七 明治三十三年大藏省令第三十六號
- 予ハ本節ヲ納稅義務者、課稅標準、課稅率、稅金徵收、納稅地、納稅義務者ノ申告義務及ヒ罰則ノ七款ニ分チテ説明セントス

第一款 納稅義務者

納稅義務者ノ何人ナルヤヲ説明スルニ先チ第一著トシテ所得稅法ノ施行セラルル範圍ヲ明ニセサルヘカラス何トナレハ所得稅法施行地ニ何等ノ關係ナキ者ハ所得稅ヲ納ムル義務ヲ生スヘキ理由ナキヲ以テ納稅義務者ト爲ルニハ所

得稅法施行地ニ於テ何等カノ關係ヲ有スルヲ必要トスヘキヲ以テナリ法律ニシテ臺灣ニモ施行セラルヘキ場合ニハ明治二十九年法律第六十三號ノ規定ニ本ツキ勅令ヲ以テ其旨ヲ公布セラルヘキモノナリト雖モ所得稅法ニ關シテハ之ヲ臺灣ニ施行スルコトヲ定メタル勅令ノ公布セラレタルコト嘗テ之アルコトナキカ故ニ臺灣ニ於テハ所得稅法ノ施行ナキモノナリ而シテ内地ニ於テモ所得稅法第五十條ハ沖繩縣、小笠原島及ヒ伊豆七島ニハ當分所得稅法ヲ施行セサルコトヲ規定スルヲ以テ帝國中臺灣沖繩縣、小笠原島及ヒ伊豆七島ハ所得稅法ヲ施行セサル地ニシテ臺灣、沖繩縣、小笠原島及ヒ伊豆七島ヲ除ク外ノ他ノ地方ハ總テ同法ヲ施行スルノ地ナリト謂ハサルヘカラス

所得稅法ハ納稅義務者ノ條件ヲ定メテ人カ同法施行地ニ關係ヲ有スルトキト所得カ同法施行地ニ關係ヲ有スルトキトノ二ノ場合ニ於テ納稅義務ノ發生スヘキモノト爲シタルヲ以テ以下此二ノ場合ヲ區別シ納稅義務發生ノ條件ヲ論セントス

第一 人カ所得稅法施行地ニ關係ヲ有スルニ因リ義務ヲ生スル場合

所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ同法施行地ニ一箇年以上居所ヲ有シ所得アル者ハ其所得ノ生スル淵源カ同法施行地ニ關係アルト否トヲ問ハス所得稅ヲ納ムル義務アルモノナリ即チ人カ所得稅法施行地ニ關係ヲ有スルニ因リ義務ヲ生スルハ左ノ二條件ヲ具備スル場合ナルコトヲ要ス

一 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スルコトヲ要ス
所得稅法ニ依リ納稅義務ヲ生スルニハ同法施行地ニ於テ居住ノ關係ヲ有セサルヘカラス(所得稅法第一條)

甲 住所ヲ有スル者 所得稅法施行地ニ住所即チ生活ノ本據ヲ有スル者ハ所得稅ヲ納ムルノ義務アルモノナリ所得稅法第一條ハ同法施行地ニ住所ヲ有スル者ハ納稅義務アルコトヲ規定スルヲ以テ一見住所ヲ定ムルト同時ニ直チニ納稅義務ヲ生スルカ如シト雖モ予ハ同法全體ノ精神ニ依リテ解釋シ其年一月一日ニ於テ既ニ住所ヲ有シ爾後引續キ之ヲ有スル者ニアラサレハ所得稅ヲ納ムル義務ナキモノナリト信ス蓋シ所得稅ナルモノハ年稅ニシテ一箇年ノ所得ヲ標準トシテ之ヲ課スルモノナリ隨テ之カ納稅者タル者ハ一年ヲ通シテ納稅義

務ヲ有スル者ナラサルヘカラス所得稅法カ年ノ中途ヨリ義務ノ生シタル場合ニ於ケル所得ノ計算方法ヲ規定セサルヲ以テ見ルモ同法ノ意ハ其定メテ以テ納稅義務者ト爲ス所ノ者ハ常ニ一月一日ヨリ其義務アル者ニシテ年ノ中途ヨリ義務ヲ生スヘキ場合ハ之アルコトナシト爲スモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ納稅義務ノ條件具備スルヤ否ヤハ年ノ初日即チ一月一日ヨリ之ヲ見ルヘキモノト謂ハサルヘカラス一月一日ニ於テ未タ住所ヲ有セサル者ハ法定ノ條件ヲ缺クモノナルヲ以テ之ニ對シテハ所得稅ヲ課スルコト能ハサルナリ或ハ非難シテ曰ハシ所得稅法ノ精神ニシテ納稅者ハ一年ヲ通シテ其義務ヲ有スル者ナルコトヲ要ストスルニ在リトセハ同一ノ論法ニ依リ年ノ中途ニ於テ條件ヲ缺如スルニ至リタル場合ニ於テハ納稅義務消滅スルモノト爲ササルヘカラス然ルニ同法第四十二條ハ所得金額決定後納稅管理人ヲ定メスシテ納稅義務者帝國外ニ住所ヲ移ストキハ其際直チニ其所得稅ヲ徵收スヘキコトヲ定ム法律カ年ノ中途ニ於テ納稅義務ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキニ於テ其年ノ所得稅ヲ徵收セサルコトヲ定メサルノミナラス其年ノ所得稅ハ必ス之ヲ徵收

スルコトヲ定ムルヲ以テ見レハ所得稅法ノ精神ハ必スシモ一年ヲ通シテ義務アルコトヲ要スルニ在ラサルコト明カナルニアラスヤト然レトモ所得稅ハ所得ノ豫算額ニ依リテ之ヲ課スルモノニシテ所得金額ノ決定アルトキハ義務ハ既ニ發生シタルモノナリ既ニ發生シタル義務ハ法律ニ於テ之ヲ變更又ハ消滅セシムルノ規定ナキ限りハ其成立ヲ存續スル法律ハ納稅義務者カ外國ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テ其義務ヲ消滅セシムヘキヲ規定スル所ナシ故ニ其所得稅ハ之ヲ徵收セサルヲ得ス是レ法律ノ規定ヨリ生スル當然ノ結果ナリ況ヤ所得稅法第四十二條ノ規定ハ此ノ如キ場合ニ於テ其義務ヲ消滅セシメサルコトヲ明ニスルニ於テヤ該條ノ規定アルヲ以テ年ノ中途ニ於テモ尙ホ納稅ノ義務ヲ生スルモノナリトスルノ論據ト爲スコト能ハサルナリ然レトモ苟モ年ノ初日即チ一月一日以來所得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者ハ其一事ニ因リテ條件具備スルヲ以テ其身ハ現ニ外國又ハ同法ヲ施行セサル地ニ寄留シ若クハ旅行スル場合ト雖モ所得稅ヲ納ムヘキ義務ハ即チ之ヲ免ルルコトヲ得サルナリ今住所ヲ有スルカ爲メ納稅義務アル者ヲ分類シテ列舉スルトキハ凡ソ左ノ如

クナルヘシ

(イ) 帝國臣民ニシテ所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ現ニ同法施行地ニ居所ヲ有スル者

(ロ) 帝國臣民ニシテ所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ現ニ同法ヲ施行セサル地ニ居所ヲ有スル者

(ハ) 帝國臣民ニシテ所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ現ニ外國ニ居所ヲ有スル者

(ニ) 外國人ニシテ所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ現ニ同法施行地ニ居所ヲ有スル者

(ホ) 外國人ニシテ所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ現ニ同法ヲ施行セサル地ニ居所ヲ有スル者

(ヘ) 外國人ニシテ所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ現ニ外國ニ居所ヲ有スル者

(ト) 外國法人ニシテ所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル者

(チ) 外國法人ニシテ所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル者

乙 一箇年以上居所ヲ有スル者 所得稅法施行地ニ於テ生活ノ本據ヲ有セサルモ長日月ノ間居所ヲ有スル者即チ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ土地ト居住上ノ關係ヲ密ニシタルモノナルヲ以テ法律ハ住所ヲ有スル者ト同シク之ニ所得稅ヲ納ムヘキ義務ヲ課シタリ而シテ一箇年以上居所ヲ有スル條件モ亦年ノ初日即チ一月一日ヨリ之ヲ觀察セサルヘカラサルヲ以テ前年末日ヨリ起算シ其一年以前ヨリ居所ヲ有スルニアラサレハ納稅義務ノ條件ハ之ヲ具備スルモノト謂フヘカラサルコト住所ニ關シテ論シタル所ト異ナルコトナシ
居所トハ箇人ニ付テ稱スル用語ナルカ故ニ居所ヲ有スルカ爲メニ納稅義務ヲ生スル者ハ獨リ箇人ノミニシテ法人ハ與ラサルナリ今居所ヲ有スルカ爲メ納稅義務アル者ヲ分類シテ列舉スルトキハ凡ソ左ノ如クナルヘシ

(イ) 帝國臣民ニシテ所得稅法ヲ施行セサル地ニ住所ヲ有シ一箇年以上同法施行地ニ居所ヲ有スル者

(ロ) 帝國臣民ニシテ外國ニ住所ヲ有シ一箇年以上所得稅法施行地ニ居所ヲ有スル者

(一) 外國人ニシテ所得稅法ヲ施行セサル地ニ住所ヲ有シ一箇年以上同法施行ニ居所ヲ有スル者

(二) 外國人ニシテ外國ニ住所ヲ有シ一箇年以上所得稅法施行地ニ居所ヲ有スル者

所得稅法施行地ニ居住ノ關係ヲ有スルノ條件ハ無記名ノ公債證券又ハ社債券ノ利子ニ付キ所得稅ヲ課スヘキ場合ニ於テモ之ニ例外ヲ設クルノ規定ナキヲ以テ其場合ニ於テモ尙ホ之ヲ必要トスルモノト謂ハサルヘカラス故ニ同法施行地ニ住所ヲ有セス又ハ一箇年以上居所ヲ有セサル者ノ所有ニ係ル無記名公債證券又ハ社債券ノ利子ヲ支拂フ場合ニ於テハ支拂者ハ之ニ對シテ所得稅ヲ徵收スヘカラサルモノトス但シ無記名證券ナルモノハ其性質トシテ證券其物自體ニ於テ所有者ノ何人ナルカヲ示ササルモノナルカ故ニ所有者ニシテ自ラ進テ所得稅法施行地ニ住所ヲ有セス又ハ一箇年以上居所ヲ有セサルコトヲ證明セサルニ於テハ所有者ノ納稅義務ナキコトノ明ナラサルモノナリ然ルニ同法施行地ニ於テ其利子ヲ支拂フ證券ノ所有者ハ同法ニ依リ納稅義務アルコト

ヲ普通トスルヲ以テ利子支拂者ハ所有者ニ於テ納稅義務ナキコトヲ證明スルニアラサレハ普通ノ場合ト看做シテ其所得稅ヲ徵收シテ可ナリ自ラ進テ所有者ノ義務ノ有無ヲ調査スルニ及ハサルナリ

二 所得ヲ有スルコトヲ要ス 所得稅ハ所得ニ課稅スルノ目的ニ於テ存スルモノナルヲ以テ所得ナクシテ納稅義務ヲ想像スルコト能ハス故ニ所得ヲ有スルコトヲ以テ納稅義務ノ要件トスルコトハ言フヲ須タス唯茲ニ一言セサルヘカラサルハ法人ノ所得ニ關シテハ苟モ所得アレハ其額ハ如何ニ少額ナルモ必ス課稅ヲ受ケサルヘカラス法人ナルト箇人ナルトヲ問ハス公債社債ノ利子ニ付キ所得稅ヲ納ムヘキトキモ亦然リ金額ノ多少ハ以テ納稅義務ノ發生ニ何等ノ影響スル所ナシト雖モ箇人ノ所得中公債社債ノ利子以外ノモノニ付テハ其額三百圓以上アルニアラサレハ納稅義務ヲ生セサルコト是ナリ(所得稅法第六條)但シ戸主及其同居家族ニ各所得アル場合又ハ戸主ト別居スル家族二人以上同居スル者各所得アル場合ニ於テハ各自ノ所得ハ三百圓ニ達セサルモ其同居者全體ノ所得合算額三百圓ニ達スルトキハ各自ニ所得稅納付ノ義務ヲ生スル

モノトス

所得稅法第六條ハ「第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス」ト云ヘリ該條ノ意義ハ凡ソ箇人ニシテ公債社債ノ利子ヲ除ク外ノ所得三百圓以上ヲ有スル者ニハ其所得ハ如何ナル種類ナルヲ問ハス所得稅ヲ課シ三百圓ニ達セサル者ニハ之ヲ課セスト謂フニ在ルヤ將タ箇人ニシテ公債社債ノ利子ヲ除クノ外ノ所得ニシテ所得稅ヲ課スヘキモノ三百圓以上ヲ有スル者ニハ所得稅ヲ課シ三百圓ニ達セサル者ニハ之ヲ課セスト謂フニ在ルヤ予ノ見ル所ヲ以テスレハ其意正シク後者ニ在ルモノナリ何トナレハ法律カ納稅義務ノ條件ヲ定ムルニ其定メテ所得稅ヲ課セスト爲シタル所得ヲモ計算中ニ入ルルノ意アリタルモノト爲スコト能ハサルヲ以テナリ特ニ課稅スヘカラサル所得ヲモ算入シテ三百圓以上ニ達スルトキハ納稅義務ヲ生スルモノトセハ其結果ハ課稅スヘカラサル所得ノミヲ有スル者ニシテ其額三百圓以上ニ達スルトキハ納稅義務アリト謂フニ歸セサルヘカラス換言スレハ所得稅ヲ課セサル者モ亦所得稅ヲ納ムヘキ義務アルモノナリト謂フニ至ルモノナリ法律ノ意義ハ豈ニ此ノ

如キノ矛盾ヲ容サンヤ故ニ予ハ同條ヲ解シテ所得稅ヲ課スヘキ所得即チ第五條ニ列舉シタルモノヲ除キタル所得三百圓以上アル場合ニ限り納稅義務アルモノト爲シタルモノナリト信ス

第二 所得カ所得稅法施行地ニ關係ヲ有スルニ因リ義務ヲ生スル場合
 所得稅法施行地ニ住所ヲ有セス又ハ一箇年以上居所ヲ有セサル者ト雖モ同法施行地ニ於テ所得ヲ有スル者ハ其所得ニ代テハ所得稅ヲ納ムルノ義務アルモノナリ(所得稅法第二條)元來所得稅ナルモノハ對人的性質ヲ生スルモノナルカ故ニ原則トシテハ所得稅法施行地ニ居住ノ關係ヲ有セサル者ハ納稅義務ヲ有スヘキモノニアラス然レトモ同法施行地ニ居住ノ關係ヲ有セサルモ現ニ同地ニ於テ或所得ヲ有スル者ニシテ所得稅ヲ課セラルルコトナシトセハ同一ノ資産ヲ有シ又ハ同一ノ營業、職業ヲ爲スニモ拘ラス居住ノ關係アルト否トニ依リ其間ニ課稅上ノ不衡平ヲ生スルニ至ルヘキカ故ニ法律ハ稅制ノ結果ニ因リ生存競争ノ上ニ特別ノ保護ヲ受クルカ如キ者ヲ生セサルヲ期シ所得稅法施行地ニ於テ所得ヲ有スル者ハ居住ノ關係ナキ場合ト雖モ之ニ所得稅ヲ課スヘキモ

ノト爲シタリ唯居住ノ關係ナクシテ之ニ所得稅ヲ課スルハ例外ノ事ニ屬スルヲ以テ此場合ニ於テハ納稅義務者ノ全所得ニ課稅スルニアラス其所得中所得稅法施行地ニ於テ生スルモノノミニ課稅スヘキモノトス
所得カ所得稅法施行地ニ關係ヲ有スルニ因リ納稅義務ヲ生スルニハ左ノ二條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 所得稅法施行地ニ於テ所得アルコトヲ要ス 同法施行地ニ居住ノ關係ナク又所得ノ關係ヲモ有セサルトキハ所得稅法ノ施行ト何等ノ關係ナキモノナルカ故ニ義務有無ノ問題ヲ生スヘキモノニアラス故ニ居住ノ關係ナキ者ニシテ納稅義務ヲ生スルハ獨リ同法施行地ニ於テ所得ヲ有スル場合ニ限ルモノナリ而シテ其所得ト法人ニ在リテハ如何ナル少額ト雖モ之ニ課稅セラルヘシト雖モ箇人ニ在リテハ三百圓未滿ハ之ニ課稅セス三百圓以上ニ達シタルトキ始メテ課稅ヲ受クヘキモノトス(所得稅法第六條)

二 其所得ハ資産、營業又ハ職業ヨリ生シタルモノナルコトヲ要ス 法律ハ其施行地ニ資産、營業又ハ職業ヲ有シ之ニ因リテ生シタル所得ニノミ課稅スヘキコトヲ定ムルカ故ニ所得稅法施行地ニ於テ土地家屋ノ如キ資産ヲ有シ之ニ因リテ所得ヲ得ル場合又ハ商工業ノ如キ業務ヲ營ミ若クハ醫師、辯護士等ノ如キ職業ヲ爲シ之ニ因リテ所得ヲ取得スル場合ニ限リ其所得ニ課稅スヘキモノナリ

所得稅法施行地ニ於テ恩給又ハ年金ヲ受クルカ如キハ同法施行地ニ於テ所得ヲ有スルニハ相違ナシト雖モ其所得ハ資産ヨリ生シタルニアラス又營業、職業ヨリ生シタルニモアラサルカ故ニ之ニ付テハ納稅ノ義務ナキモノナリ
今所得稅法施行地ニ資産、營業又ハ職業ヲ有シ所得アルニ因リ納稅義務アルヲ分類列擧スルトキハ凡ソ左ノ如クナルヘシ

- (イ) 帝國臣民ニシテ所得稅法ヲ施行セザル地ニ住所ヲ有シ現ニ其地ニ居所ヲ有スル者
- (ロ) 帝國臣民ニシテ所得稅法ヲ施行セザル地ニ住所ヲ有シ現ニ外國ニ居所ヲ有スル者

- (ハ) 帝國臣民ニシテ所得稅法ヲ施行セザル地ニ住所ヲ有シ現ニ同法施行地ニ居所ヲ有スルモ居所ヲ有シタル後未タ一箇年ニ滿タサル者

- (ニ) 帝國臣民ニシテ外國ニ住所ヲ有シ現ニ外國ニ居所ヲ有スル者
- (ホ) 帝國臣民ニシテ外國ニ住所ヲ有シ現ニ所得稅法ヲ施行セサル地ニ居所ヲ有スル者
- (ヘ) 帝國臣民ニシテ外國ニ住所ヲ有シ現ニ所得稅法施行地ニ居所ヲ有スルモ居所ヲ有シタル後未タ一箇年ニ滿タサル者
- (ト) 外國人ニシテ所得稅法ヲ施行セサル地ニ住所ヲ有シ現ニ其地ニ居所ヲ有スル者
- (チ) 外國人ニシテ所得稅法ヲ施行セサル地ニ住所ヲ有シ現ニ外國ニ居所ヲ有スル者
- (リ) 外國人ニシテ所得稅法ヲ施行セサル地ニ住所ヲ有シ現ニ同法施行地ニ居所ヲ有スルモ居所ヲ有シタル後未タ一箇年ニ滿タサル者
- (ヌ) 外國人ニシテ外國ニ住所ヲ有シ現ニ外國ニ居所ヲ有スル者
- (ル) 外國人ニシテ外國ニ住所ヲ有シ現ニ所得稅法ヲ施行セサル地ニ居所ヲ有スル者

- (ヲ) 外國人ニシテ外國ニ住所ヲ有シ現ニ所得稅法施行地ニ居所ヲ有スルモ居所ヲ有シタル後未タ一箇年ニ滿タサル者
- (ソ) 帝國法人ニシテ所得稅法ヲ施行セサル地ニ本店ヲ有スル者
- (カ) 帝國法人ニシテ外國ニ本店ヲ有スル者
- (ヨ) 外國法人ニシテ所得稅法ヲ施行セサル地ニ本店ヲ有スル者
- (タ) 外國法人ニシテ外國ニ本店ヲ有スル者

第二款 課稅標準

所得稅ハ各人ノ所得ニ應シテ國家必要ノ歳入ヲ分擔セシムルノ趣旨ニ出テタル租稅ナルヲ以テ其課稅標準ハ各人ノ所得ニ在ルコト言フ須タル所ナリ而シテ所得稅法ノ使用スル所得ナル用語ハ總所得ヲ謂フニアラスシテ純所得ヲ謂フモノナルコトハ同法カ總所得ナル義ヲ現ハサントスル場合ニ於テハ常ニ收入ナル語ヲ用キ之ヲ所得ト區別シタルヲ以テ明カナリ

課稅標準タル所得ニ付テハ其種類、計算、確定、更訂ノ四段ニ分テ稅法ノ適用ヲ明

ニセントス

第一 所得ノ種類

各人ハ箇人タルト法人タルトヲ問ハス第一款ニ述ヘタル條件ヲ具備スルトキハ所得稅ヲ納メサルヘカラサルモノナリト雖モ其所得ハ悉ク課稅ノ標準ト爲ルモノニアラス所得中ニハ法律カ定メテ以テ所得稅ヲ課スヘカラスト爲ス所ノモノアリ故ニ所得ノ種類ハ大別スレハ先ツ所得稅ヲ課スヘキ所得及ヒ所得稅ヲ課スヘカラサル所得ノ二ト爲ルヘシ

甲 所得稅ヲ課スヘキ所得

所得ハ之ニ課稅スルヲ原則トスルヲ以テ法律カ特ニ定メテ所得稅ヲ課セスト爲スモノノ外ハ皆所得稅ヲ課スヘキ所得ナリト謂ハサルヘカラス法律ニ於テ所得稅ヲ課セスト規定シタル所得ハ後ニ之ヲ述フヘキカ故ニ茲ニハ始ク所得稅ヲ課スヘキ所得ハ所得稅ヲ課スヘカラサル所得以外ノ所得ナリトノ消極的說明ニ止メテ其以上ニ及ハサルヘシ
法律ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ヲ分チテ左ノ三種ト爲セリ(所得稅法第三條)

第一種 法人ノ所得

第二種 所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債、社債ノ利子

第三種 前各種ニ屬セサル所得

所得ヲ三種ニ分チタルハ所得ノ種類ニ依リ所得稅ノ稅率又ハ徵收ノ方法若クハ時期ヲ同シウセサルヲ以テナリ稅率及ヒ徵收方法又ハ時期ハ後款ニ説明スヘキカ故ニ之ヲ省略シ茲ニハ唯前記各種類ノ所得ノ分界ヲ明ニスルカ爲メ一
二言ヲ費サントス

第一種ノ所得ハ廣ク法人ノ所得ト定メタルカ故ニ所得ヲ得タル主格ニシテ法人ナルトキハ其所得ノ種類如何ヲ問ハス總テ之ヲ第一種ノ所得ナリト爲ササルヘカラス

第二種ノ所得ハ所得ノ種類ニ依リテ之ヲ定メタルヲ以テ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子ハ其權利者カ箇人タルト將タ法人タルトヲ問ハス共ニ之ヲ第二種ノ所得ト爲スヘキモノナリ法律ハ廣ク「公債社債ノ利子」ト規定シタルヲ以テ帝國ノ國債、地方債又ハ帝國法人ノ社債ハ勿論外國ノ國債、地方

債又ハ外國法人ノ社債ト雖モ苟モ所得稅法施行地ニ於テ其利子ヲ支拂フトキハ其利子ハ之ヲ第二種ノ所得ト爲ササルヘカラス但シ茲ニ所謂公債社債トハ公ニ募集シタル公債社債ノミヲ謂フモノニシテ公ニ募集セサル借入金ノ如キハ之ヲ含ムモノニアラス所得稅法施行規則第三十四條カ第二種ノ所得ニ付キ所得稅ノ徵收ヲ爲ス場合ノ規定ヲ爲シ「公ニ募集シタル公債社債」ナル文字ヲ使用シタルハ此意思ヲ明ニシタルモノト謂ハサルヘカラス

第三種ノ所得ハ第一種及ヒ第二種ニ屬セサル所得ナリトス第一種ノ所得ハ法人ノ所得全體ヲ包含スルヲ以テ之ヲ除ケハ殘ル所ハ唯箇人ノ所得アルノミ而シテ更ニ第二種ノ所得モ亦之ヲ除外セサルヘカラスカ故ニ他語ヲ以テ之ヲ言ヘハ第三種ノ所得ナルモノハ箇人ノ所得中所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子ヲ除キタルモノナリト謂フヘシ

乙 所得稅ヲ課スヘカラサル所得

法律カ所得稅ヲ課スヘカラスト爲ス所得ハ左ノ如シ(所得稅法第五條)

(イ) 軍人從軍中ニ係ル俸給 從軍トハ開戰アル場合ニ於テ軍務ニ從事スルヲ

云フ故ニ戰爭アルニアラサレハ從軍ナルコトヲ生セス隨テ現今臺灣ノ守備ヲ爲スカ如キハ之ヲ從軍ト謂フコトヲ得ス然レトモ事實戰アル以上ハ之ニ從事スル者ハ直チニ之ヲ從軍者ト謂フコトヲ得ヘシ必スシモ開戰ノ布告アリテ始メテ從軍者ト爲ルモノニハアラサルナリ

(ロ) 扶助料及ヒ傷痍疾病者ノ恩給 官吏其他公務ニ從事シタル者ノ遺族扶助料ハ總テ之ニ所得稅ヲ課セス恩給ニ至リテハ總テ所得稅ヲ課セサルニアラス唯傷痍疾病ヲ受ケタルニ因リ受ケタル恩給ノミニ之ヲ課セサルナリ

(ハ) 旅費學資金及ヒ法定扶養料 旅費學資金ハ支出ニ充ツルカ爲メ受クルモノナリト謂フモ可ナルモノナルカ故ニ法律ハ之ニ所得稅ヲ課セス扶養料ナルモノハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキニ於テ始メテ之ヲ受クルモノナルカ故ニ生活ノ必要費ナリト謂フコトヲ得ヘシ故ニ法律ハ亦之ニ所得稅ヲ課セサルコトト爲シタリ

(ニ) 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得 營利ヲ目的トセサル法人ハ公益ヲ增進

スルヲ目的トシテ設立セラレタルモノナルカ故ニ之ニ課稅スルトキハ公益事業ノ増進ヲ妨クルノ結果ヲ見ルナキヲ得ス故ニ法律ハ之ヲ課稅ノ範圍外ニ置キタリ予ハ此規定ノ趣旨ニ於テハ適當ノモノナリト信スト雖モ法文ノ配置ニ於テハ少シク其意ヲ得サルモノナキニアラス營利ヲ目的トセサル法人ノ所得ニ所得稅ヲ課セスト謂フハ所得ヲ取得シタル者カ營利ヲ目的トセサル法人ナルカ故ニ之ニ課稅セサルナリ即チ此場合ニ於テハ所得ノ種類如何ヲ問フテ課否ヲ定ムルニアラスシテ其主格ノ何人ナルヤヲ見テ之カ課否ヲ定ムルモノナリ故ニ予ハ之ヲ第五條列記事項ノ一ト爲サスシテ寧ロ之ヲ第一條ノ例外規定ト爲スヲ相當ナリト信ス

營利ヲ目的トセサル法人ノ所得ハ其種類ノ如何ヲ問ハス總テ之ニ所得稅ヲ課セサルモノナルコト右ニ述フル所ノ如クナルカ故ニ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子ト雖モ其公債社債ニシテ營利ヲ目的トセサル法人ニ屬スルトキハ之ニ對シテ所得稅ヲ課スヘカラス公債證券又ハ社債券ニシテ記名ナルトキハ一見シテ其營利ヲ目的トセサル法人ニ屬スルコトヲ知ルヘキヲ

以テ利子支拂者ハ其利子ニ付キ所得稅ヲ徵收セサルヘシト雖モ若シ其證券ニシテ無記名ナルトキハ其證券ハ營利ヲ目的トセサル法人ニ屬スルヤ否ヤ不明ナルヲ以テ利子支拂者ハ之カ所得稅ヲ徵收スルノ途ニ出ツルノ外ナルカヘシ然レトモ此ノ如キハ法律カ營利ヲ目的トセサル法人ノ所得ニ課稅セサルコトヲ定メタル趣旨ヲ貫徹スルモノト謂フヘカラス故ニ所得稅法施行規則第三十五條ハ營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ取得シタルトキハ其發行者又ハ讓渡人ヲシテ營利ヲ目的トセサル法人ノ所有ナルコトヲ證明セシメ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知シ豫メ其所有ヲ明カニスヘキコトヲ定メ以テ此方法ニ依リタルモノハ利子支拂ノ取扱所ヲシテ其利子ニ付キ所得稅ヲ課スルカ如キコトナカラシメ此方法ニ依ラサルトキハ事實ニ立入りテ調査ヲ爲スヲ要セス之カ所得稅ヲ徵收シテ可ナルモノト爲シタリ所得稅法施行規則第三十五條ハ廣ク無記名ノ公債證券又ハ社債券ニ付テ規定ヲ爲スト雖モ同條ノ趣旨タル利子支拂者ニ於テ所得稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ營利ヲ目的トセサル法人ノ受クル利子ニ付テハ之カ徵收ヲ爲スカ如キコトナカラシメント

スルニ在ルモノナルヲ以テ所得税法施行地ニ於テ利子ノ支拂ヲ爲ス公債社債
ニノミ止マルヘキコト規定ノ精神自ラ然ラシムルモノナリト謂ハサルヘカラ
ス

(ホ) 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得 一時ノ所得トハ廉價ニ買得シタル物
ニシテ偶然高價ニ賣却セラレ其間ニ不時ノ利益ヲ爲シタル如キヲ謂フ此ノ如
キ利益ハ常時豫期スヘキモノニアラサルカ故ニ法律ハ之ニ所得税ヲ課セサル
ヲ相當トシタリ而シテ法律カ特ニ營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得ト限定シ
營利ノ事業ニ屬セサルコトヲ要件トシタルハ營利ノ事業ヲ爲ス者カ營業上所
謂掘リ出シ物ヲ爲シテ不時ノ利益ヲ得ルカ如キハ臨時ノ收入ナリト謂フト雖
モ而モ此ノ如キハ營業上ニ常ニ有リ得ヘキノ事ニシテ非營業者ノ偶然ノ利益
トハ同日ノ論ニアラサルヲ以テ之ヲ課税外ニ置クノ必要ナシト爲シタルニ由
ルモノナリ

(ハ) 外國又ハ所得税法ヲ施行セサル地ニ於テ有スル資産、營業又ハ職業ヨリ生
スル所得 所得税ハ對人的租税ナルヲ以テ苟モ人カ所得税法施行地ニ關係ヲ有
スル以上ハ其所得ハ何レノ地ニ於テ生スルモ之ヲ標準トシテ課税スルコト何
等ノ妨アルモノニアラス然レトモ外國又ハ所得税法ヲ施行セサル地ニ於テ生
スル所得ニマテ所得税ヲ課スルコトトセハ所得税法ノ法力ノ及ハサル所ニ向
ヒテ調査ヲ進メサルヘカラスシテ其困難繁雜ハ測ルヘカラサルモノアラントス
若シ課税ノ公平ヲ保ツカ爲メ之ヲ必要トスルモノナリトセハ調査ノ困難繁雜
ハ之ヲ忍ハサルヘカラスト雖モ外國又ハ所得税法ヲ施行セサル地ニ於ケル資
産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ノ如ク所得税法施行地ニ於ケル所得ト劃然區
別セラルルモノニ在リテハ之ニ課税セサルモ爲メニ生存競争上ハ不公平ヲ生ス
ト謂フニモ至ラサルヘキカ故ニ法律ハ之ニ所得税ヲ課セサルコトト爲シタリ
法律ハ明カニ「資産、營業又ハ職業ニ依ル所得」ト言フヲ以テ所得税ヲ課セサル所
得ハ外國又ハ所得税法ヲ施行セサル地ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル
所得ニ限ルモノナリ恩給、年金等ノ如ク資産ヨリ生スルニアラス又營業若クハ
職業ヨリ生スルニモアラサル所得ハ之カ支拂義務ハ外國又ハ所得税法ヲ施行
セサル地ニ在ル場合ト雖モ所得税ヲ課スルニ於テ何等ノ支障アルモノニアラ

外國又ハ所得稅法ヲ施行セサル地ニ於ケル資産、營業又ハ職業ニ依ル所得ニ所得稅ヲ課セサルノ規定ハ一ノ除外例ヲ有ス即チ所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル法人カ其所得者ナル場合はナリ蓋シ法人ノ決算ナルモノハ一事業年度間ニ於ケル總損益ニ付キ計算ヲ爲スモノナルヲ以テ外國又ハ所得稅法ヲ施行セサル地ニ於ケル資産、營業又ハ職業ニ依ル所得ニ課稅セサルノ規定ヲ所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル法人ニマテ及ホストキハ法人ノ損益計算ヲシテ徒ニ複雑ナラシメ煩勞ヲ負ハシムルコト鮮シトセス此ノ如キハ少許ノ稅額ヲ少クスルカ爲メ多大ノ煩勞ヲ課スルモノナルヲ以テ法律ハ之ヲ取ラサリシナリ

(ト) 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金 法人ナルモノハ箇人ノ外ニ別ニ特立シテ人格ヲ有スルモノナルカ故ニ法人ニ課稅シタル後之ヨリ配當ヲ受ケタル箇人ニ付キ更ニ所得稅ヲ課スルコトハ理論上之ヲ以テ重複ノ課稅ト謂フコトヲ得ス然レトモ元來箇人相集リテ營利ヲ目的トスル法人ヲ設立スルハ之ニ依リテ利益ヲ得ントスルニ在ルヲ以テ法人ノ利益即

チ其所得ニ課稅スルハ間接ニ箇人ノ利益ニ課稅シタルモノナリ故ニ法人ノ利益ヲ分配スルニ當リテ其配當金ニ付キ更ニ箇人ニ課稅スルトキハ同一ノ利益ニ付キ再度ノ課稅ヲ受クルカ如キ感想ヲ懷クハ人情ノ免レサル所ナリ舊所得稅法ニ於テハ法人ニハ全ク所得稅ヲ課セサリシニ現行所得稅法カ之ヲ改正シテ法人ニモ所得稅ヲ課スヘキモノト爲シタルハ既ニ課稅ノ密ヲ加ヘタルモノナリ然ルニ尙ホ其法人ヨリ受ケタル配當金ニ付テモ亦箇人ニ所得稅ヲ課スヘキモノトセハ改正所得稅法ノ増課ハ稍ヤ急遽タルヲ免レサルヘシ是レ法律カ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金ヲ課稅外ニ置キ以テ法律改正ノ經過ヲ緩和シタル所以ナリ

第二 所得ノ計算

所得稅法ノ所謂所得ハ純所得ナルヘキコト前既ニ述ヘタル所ノ如シ然レトモ所謂純所得ナルモノノ見解モ亦各人ノ見ル所ニ依リテ其歸點ヲ同シウセサルモノナルヲ以テ法律ノ明文ヲ以テ之ヲ劃定シ爭疑ノ續出スルヲ豫防スルノ必要アリ所得稅法第四條ハ實ニ此必要ニ由リテ規定セラレタルモノナリ今同條

及ヒ所得稅法施行規則ノ定ムル所ニ依リ三種ノ所得ニ付キ法律カ課稅ノ標準ト爲ス所得ノ何物タルヤヲ明ニセントス

一 第一種ノ所得

甲 所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得 所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル法人ニ在リテハ各事業年度ノ總益金中所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及ヒ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子ヲ除キタルモノヨリ其年度ノ總損金及ヒ前年度繰越金ヲ控除シタルモノヲ以テ其所得ト爲スヘキモノトス若シ其法人ニシテ保險事業ヲ營ムモノナルトキハ總損金及ヒ前年度繰越金ノ外尙ホ保險責任準備金ヲモ控除スヘキモノナリ總益金トハ法人ノ受領シタル一切ノ收入ハ勿論其所有財產ノ價格增加ニ因リテ生シタル利益モ亦之ヲ包含スルモノニシテ總損金トハ其支出シタル一切ノ經費ハ勿論所有財產ノ價格減少ニ因リテ生シタル損失モ亦之ヲ包含スルモノナリ

總益金中所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子ヲ除ク所以ノモノハ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子ハ其支拂ノ際第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ徵收スルカ故ニ同一所得ニ付キ二重ノ課稅ヲ爲ササルカ爲メナリ所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金ヲ除クコトトシタルノ理由ハ之ト同シカラス所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金ハ所得稅法第五條ニ依リ所得稅ヲ課スヘカラサルモノナルカ故ニ此ノ如キ金額カ營利會社ノ收入金中ニ包含セラルル場合ト雖モ尙ホ該條ノ趣旨ヲ貫徹センカ爲メ之ヲ控除スルコトト爲シタルモノナリ

法人ノ損益計算ニ於テ總益金中ヨリ總損金ヲ控除シタルモノハ則チ其利益ナルヲ以テ之ニ對シ直チニ所得稅ヲ賦課シテ可ナルモノノ如クナルニ法律ハ尙ホ其外ニ前年度繰越金ヲモ控除シ其殘額ヲ以テ課稅標準ト爲スヘキモノト爲シタリ蓋シ前年度繰越金ナルモノハ前年度ノ利益ニシテ其年課稅セラレタルモノノ中ヨリ配當ヲ爲サシテ後年度ニ繰越シタルモノニシテ一タヒ所得稅ヲ課セラレタルモノナルヲ以テ再ヒ之ニ課稅スルコトナカラシメンカ爲メナリ

保險會社ニ在リテ特ニ責任準備金ヲ課稅標準外ニ置キタルハ責任準備金ナルモノハ保險事業ノ理論上將來發生スヘキ推定アル危險ニ對スル準備金ナルカ故ニ未タ之ヲ以テ會社ノ利益ト爲リタル金額ナリト謂フコト能ハサルヲ以テナリ

所得稅法第四條第一項第一號及ヒ同條第二項ニ依レハ第一種ノ所得ヲ計算スル場合ニ於テ總益金中ヨリ控除スヘキモノハ法律ニ於テ之ヲ限定スルヲ以テ該條項ニ掲タルモノノ外ハ之ヲ控除スルコトヲ得サルモノトス現今會社ノ損益計算書中ニ於テ往往見ル所ノ役員賞與金及ヒ器械、建物、船舶等ノ償却金ナルモノハ之ヲ控除スヘキモノナルヤ否ヤニ關シテ世間種種ノ論議アルカ如シト雖モ予ハ何故ニ此ノ如キ論議ヲ生シタルヤヲ解スルコト能ハス前年度繰越金、保險責任準備金、所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及ヒ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債、社債ノ利子ヲ除ク外ハ法律カ總益金中ヨリ控除スヘシト爲ス所ノモノハ獨リ總損金アルノミナルヲ以テ役員賞與金又ハ器械、建物、船舶等ノ償却金ハ之ヲ總益金中ヨリ控除スヘキモノナルヤ否ヤヲ定

メントセハ一ニ此ノ如キ種類ノ金額ハ損金ナルヤ否ヤニ依リテ之ヲ判セサルヘカラス會社ニシテ利益ノ有無ニ拘ラス一定ノ條件ヲ具備シタル者ニハ必ス賞與金ヲ與フヘキコトヲ定メタル場合ニ於テハ賞與金ノ支拂ハ當初ヨリ會社ノ義務ニ屬シタルモノト謂ハサルヘカラスアルカ故ニ賞與ニ充テタル金額ハ之ヲ損金トシテ益金中ヨリ控除セサルヘカラス之ニ反シテ會社ニ於テ利益アリタル場合ニ限リ一定ノ條件ヲ具備シタル者ニ賞與金ヲ與フヘキコトヲ定メタル場合ニ於テハ會社ニ於テ決算上利益アリタル場合ニ於テ始メテ其一部ヲ役員ニ分配スルモノナルカ故ニ其金額ハ之ヲ損金ト謂フコト能ハス隨テ之ヲ益金中ヨリ控除スヘキモノニアラス而シテ賞與金カ損金トシテ支拂ハルルモノナルヤ將タ利益ノ分配トシテ支拂ハルルモノナルカハ事實ノ問題ニ屬スルカ故ニ各場合ニ就テ之ヲ判斷セサルヘカラスト雖モ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ於テ利益ノ比率ヲ以テ賞與金ヲ定ムルカ如キ場合ニ於テハ其賞與金ハ常ニ利益ノ分配ナリト見テ誤ナシト信ス器械、建物、船舶等ノ償却金ニ至リテモ亦二様ノ觀察ヲ爲ササルヘカラス器械、建物、船舶等ノ修繕又ハ新造ノ爲メ現ニ之カ修

繕費又ハ新造費ヲ支出シタルトキハ之ヲ損金ト見ルヘキハ論ヲ埃タスト雖モ將來ニ於テ減價又ハ滅失ヲ生スルコトアルヘキヲ豫想シ其場合ニ應スル準備トシテ利益金中ヨリ別途ノ計算ニ移シタル金額ハ會社ニ於テ現ニ支出シタルニアラス又之ヲ支出スヘキ義務アルニモアラサルカ故ニ名ケテ償却金ト稱スト雖モ其實一種ノ積立金ニシテ損金ニアラス故ニ此ノ如キ金額ハ總益金中ヨリ控除スルコトヲ得サルモノナリ

其事業年度ノ所得ニ對スル所得稅ハ之ヲ其年度ノ損金トシテ益金中ヨリ控除スヘキヤ否ヤニ付テモ亦世間ニ議論アルモノニ似タリ然レトモ所得稅ナルモノハ法人ノ各事業年度ニ於ケル所得ニ賦課スルモノニシテ所得ハ年度經過ノ後損益ヲ決算シテ始メテ確定スルモノナルヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキ義務ハ年度經過後ニ於テ始メテ生スルモノナリ故ニ所得稅ハ其年度ニ於ケル損金ニアラス隨テ之ヲ其年度ノ益金中ヨリ控除スヘキモノニアラス但シ所得稅ノ納付ハ法人ノ義務ニ屬スルモノナルカ故ニ翌年度ニ於テハ之ヲ其年ノ損金トシ其損益計算ニ加フヘキハ勿論ナリ

所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ニ關スル說明ヲ終ルニ臨ミ茲ニ一言ノ以テ附加スル所ナカルヘカラサルモノアリ即チ所得稅法第四條第一項第一號ニ規定スル所ハ法人ノ所得ニ付テハ法律ノ意ハ一ニ其各事業年度ニ於ケル損益計算ノ結果ニ依ルニ在ルコト是ナリ故ニ法人ニ於テ現ニ費用ヲ支出スルコトアルモ損益計算ニ何等ノ影響ヲ及ボササル場合ニ在リテハ其費用ハ之ヲ見スシテ所得稅ノ賦課ヲ爲スヘキモノナリ法人ニ依リテハ一定ノ目的ヲ以テ諸種ノ準備金ヲ積立ツルモノアリ此ノ如キ法人カ一定ノ事實ノ發生シタルニ際シ其目的ノ爲メニ積立タル準備金ヨリ之ニ要スル費用ヲ支出シタル場合ニ於テハ其法人ハ現ニ費用ノ支出ヲ爲スモノニシテ而モ之カ爲メニ其準備金ハ減少スルニ至ルモノナリト雖モ之カ計算ハ或ハ單ニ準備金勘定ナル特別勘定ニ於テノミ之ヲ明ニシ損益計算書ニハ全ク之ヲ記載セサルコトアリ或ハ之ヲ損益計算書ニ記載スルコトアルモ其記載タルヤ一方ニ於テ受入ヲ爲スト同時ニ他方ニ於テハ拂出ヲ爲シ以テ受拂ノ跡ヲ明カニスルニ止マリ計算ノ結果ニ於テハ何等ノ損益スル所ナキモノトス而シテ所得稅ハ此ノ如クシテ得タル

損益計算ノ結果ヲ標準トシテ之ヲ課スルモノナルカ故ニ結局準備金ヨリ支出シタル金額ハ所得稅ヲ課スル上ニ於テハ自ラ之ヲ見サルコトト爲ルモノナリ此ノ如キハ一見稍ヤ穩當ヲ缺クカ如シト雖モ深ク事理ノ存スル所ヲ研究スルトキハ少シモ怪シムニ足ラサルノ事ト爲ス蓋シ法人カ一定ノ目的ヲ以テ準備金ヲ設クル所以ノモノハ普通ニ生スヘキ經費以外ニ於テ平時ニ生スル費用ハ之ヲ準備金ナル特別勘定ノ負擔トシ以テ各事業年度ノ損益計算以外ニ置カントスルノ趣旨ニ出テタルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ準備金ヨリ支出シタル金額アルノ故ヲ以テ損益計算ノ結果タル利益ヲ減セサルハ正シク法人カ準備金ナルモノヲ設ケタル所以ノ趣旨ニ適スルモノナリ而シテ法人ハ準備金ヨリ支出シタル金額アルニ拘ラス損益計算ノ結果タル利益ヲ以テ其年度ノ利益ナリトシテ配當スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ所得稅モ亦其利益ヲ標準トシテ之ヲ課スヘキコト事ノ當ニ然ルヘキモノナリト謂ハサルヘカラス

乙 所得稅法施行地ニ本店ヲ有セサル法人ノ所得 所得稅法施行地ニ本店ヲ有セサル法人ハ原則トシテハ納稅ノ義務ヲ有セス唯例外トシテ同法施行地ニ

於テ資産又ハ營業ヲ有スル場合ニ限り其資産又ハ營業ヨリ生スル所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムヘキモノナルコト既ニ述ヘタル所ノ如シ故ニ其所得ノ計算ニ關シテモ亦法律ハ各事業年度該資産又ハ營業ヨリ生シタル益金中ヨリ之ニ關シテ生シタル損金ヲ控除スヘキモノト爲シタリ而シテ本店ニアラサル場所ニ於テハ繰越金又ハ準備金ノ存スヘキコトハアルヘカラサルノ事ナルカ故ニ法律ハ之ヲ揭ケスト雖モ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金又ハ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債、社債ノ利子ハ或ハ之レ有ルコトナキニアラサルヲ以テ益金中此ノ如キ金額アルトキハ之ヲ除キタルモノヲ以テ益金ト爲スヘキハ所得稅法施行地ニ於テ本店ヲ有スル法人ニ付テ説明シタル所ト異ナル所ナシ

二 第二種ノ所得

第二種ノ所得即チ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債ノ利子ニ付テハ法律ハ別ニ收支ノ計算ヲ爲サス其支拂ヲ受クル金額ヲ以テ直チニ所得稅ヲ課スヘキ標準ト爲シタリ蓋シ公債、社債ノ權利者トシテ之カ利子ヲ受クル者ハ

之カ爲メニ何等ノ費ス所アルモノニアラスト謂フモ殆ト不可ナキモノナルカ故ニ直チニ總所得ヲ以テ課稅標準ト爲シタルナリ

三 第三種ノ所得

第三種ノ所得計算方法ヲ說明スル前ニ於テ先ツ其第一種及ヒ第二種所得ノ計算方法ト對照シ以テ其異ナル所ヲ明カニスルハ決シテ無用ノ業ニアラサルヘシ此二者ノ同シカラサル主要ナル點ハ凡ソ左ノ二項ニ於テ存スルモノトス

(イ) 第三種ノ所得ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム 第一種及ヒ第二種ノ所得ハ既ニ取得シ又ハ將ニ取得セントスル確定ノ收入ニ依リ之ヲ計算スルモノナリト雖モ第三種ノ所得ハ之ニ反シ既ニ取得シタル收入及ヒ將來ニ取得スヘキ收入ヲ合シ見積ニ依リ之ヲ豫算スルモノナリ

(ロ) 第三種ノ所得ハ年額ヲ以テ之ヲ定ム 第一種ノ所得ハ每事業年度ノ利益ニ依リ第二種ノ所得ハ期間ニ拘ラス現ニ支拂ヲ受クル金額ニ依ルヘキモノナリト雖モ第三種ノ所得ハ之ト異ナリ曆年毎ニ之ヲ計算スヘキモノナリ

第三種ノ所得ノ第一種及ヒ第二種ノ所得ト其計算方法ヲ同シウセサルコト左

ノ如シ而シテ所得稅法第四條第一項第三號ニ依レハ第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ルヘキモノナリ故ニ毎年ノ所得ヲ豫算スルニハ其年ニ取得スヘキ總收入金額ヲ見積リ其中ヨリ之ヲ取得スルニ付キ要スヘキ經費ヲ控除シテ之ヲ計算スヘキモノトス法律ハ總益金ト言ハスシテ總收入金額ト言ヒタルヲ以テ現ニ收入シタル又ハ將來收入スヘキ金額ノミヲ指稱スルモノト謂ハサルヘカラス隨テ財產ノ増價ヨリ生スル差益ノ如キハ之ヲ含マス又總損金ト言ハスシテ經費ト言ヒタルヲ以テ之ヲ現ニ支出シタル又ハ將來支出スヘキ金額ノ意義ニ解セサルヘカラス故ニ財產ノ減價ヨリ生スル差損ノ如キハ之ヲ包含セサルモノトス而シテ經費ニ關シテハ法律ハ特ニ「必要ノ經費」ト規定シタルノミナラス所得稅法施行規則第一條ハ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費トシテ種苗、蠶種、肥料ノ購買費、家畜其他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所、物件ノ修繕費、其借入料、場所、物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料等ヲ例示シ其他其收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限定シタルヲ以テ其收入ヲ得ルニ直接必要ナルニアラサル費用ハ之ヲ控除スヘキモノニアラス生活

費其他家事上ノ費用ハ各人必要ノ經費ナリト雖モ之ヲ以テ收入ヲ得ルニ直接
必要ナル經費ナリト謂フコト能ハサルカ故ニ所得稅法ノ所謂所得ノ計算ニ於
テハ之ヲ控除スルコトヲ得ス各人ノ納ムル所得稅又ハ生活、遊興等ノ爲メニ生
シタル負債ノ利子ノ如キモ亦然リ所得稅法施行規則第一條但書ハ更ニ一步ヲ
進メ家事上ノ費用ト關聯スル費用モ亦之ヲ控除スヘカラサルコトヲ定メタリ
蓋シ家事上ノ費用ト關聯スルモノニ關シテハ其金額ヲ控除スルコトトセハ法
律ノ規定ニ反スルコトト爲ルヘク其收入ヲ得ルニ必要ナル部分ノミヲ控除セ
ントセハ此ノ如キ部分ハ殆ト之ヲ知ルニ途ナキヲ以テ已ムヲ得ス此ノ如ク規
定シタルモノナルヘシ故ニ家事用ニ兼用スル場所、物件ノ修繕費、借賃、公課又ハ
家事用ニ兼用スル雇人ノ給料、食料ノ如キモノハ收入金額中ヨリ控除スヘキモ
ノニアラサルナリ

他人ヨリ借入レタル金錢ヲ以テ營業ヲ爲シ又ハ之ヲ以テ土地家屋ヲ取得シテ
他ニ貸貸スルカ如キ場合ニ於テ其負債ノ利子ハ所得ノ計算上之ヲ經費トシテ
控除スルコトヲ得ルモノナルヤ此問題ニ對シテハ負債ノ利子ハ其營業又ハ貸

貸ニ關シ直接必要ナル經費ニアラサルコトヲ疑フ者アリト雖モ予ハ之ヲ以テ
其營業又ハ貸貸ヨリ生スル收入ヲ得ルニ必要ナル經費ナリト斷言シテ憚ラサ
ル者ナリ何トナレハ他人ヨリ借入レタル金錢アリタルニ由リ始メテ營業又ハ
貸貸ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタルモノナルカ故ニ其借入レタル金錢ノ利息ヲ
支拂フコトハ則チ繼續シテ其營業又ハ貸貸ヨリ收入ヲ得ル所以ノ起因タルヲ
以テナリ

以上説明スル所ハ第三種ノ所得計算ニ關スル原則ナリ此原則ニ對シテハ二箇
ノ例外アリ此例外ヲ設クルノ要否ハ予之ヲ論スルヲ欲セス茲ニハ唯法律ノ規
定ニ本ツキ之カ説明ヲ爲サンノミ

例外ノ一 左ニ掲クル收入ハ其豫算年額ヲ以テ直ニ所得トシ別ニ經費ノ控除
ヲ爲サス(所得稅法第四條第一項第三號但書前段)蓋シ該收入中ニハ之ヲ得ルカ
爲メ殆ト經費ヲ要セサルモノアリ其之ヲ要スルモノト雖モ其額タル比較的多
カラサルヲ常トスルヲ以テ之ヲ控除セスシテ所得稅ヲ課スルモ甚シク不公平
ナル結果ヲ生スルモノニアラス故ニ法律ハ此ノ如キ收入ハ直チニ之ヲ以テ所

得ト爲シ以テ計算ノ煩ヲ除クヲ便ト爲シタルナリ

(イ) 所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債、社債ノ利子

(ロ) 營業ニ非サル貸金ノ利子

(ハ) 預金ノ利子

(ニ) 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受クル配當金

(ホ) 俸給

(ヘ) 給料

(ト) 手當金

(チ) 割賦、賞與金

(リ) 歳費

(ヌ) 年金

(ル) 恩給金

右ニ擧ケタル各種目ハ一見甚タ明瞭ニシテ特ニ説明ヲ爲スノ要ナシト雖モ唯手當金ニ付テハ世間往往議論アルモノノ如クナルヲ以テ計算ニ關スル説明ヲ

爲スノ機會ヲ以テ之ニ關シテ一言ヲ費サントス蓋シ世間ノ議論ナルモノヨ見ルニ多クハ名ケテ手當金ト稱スルモノノミヲ以テ所得稅法ノ所謂手當金ナルモノニ擬セントスルニ似タリト雖モ所得稅法第四條中ニ規定スル手當金ナルモノハ收入ノ實質ニ付テ之ヲ言フモノニシテ其名稱如何ニ依リテ之ヲ言フモノニアラス故ニ如何ナル名稱ヲ用フルモ其實質ニシテ手當ノ性質ヲ有スルモノハ總テ之ヲ手當金ナリト謂ハサルヲ得ス是レ猶ホ月給ト稱シ給金ト稱スルモ苟モ給料ノ性質アルモノハ其ニ之ヲ給料ナリト謂ハサルヘカラサルカ如シ彼ノ名譽町村長ノ受クル報酬又ハ軍人ノ受クル宅料、馬飼料ノ如キモノハ其名稱ハ手當金ト言ハスト雖モ其實質ハ一種ノ手當ニ過キササルヲ以テ所得稅法ノ適用トシテハ之ヲ以テ手當金ナリトシ其全額ヲ以テ直チニ所得ト爲ササルヘカラス

例外ノ二 田畑即チ耕地ヨリ生スル所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘキモノナリ(所得稅法第四條第一項第三號但書後段)予ハ特ニ耕地ナル註解ヲ加ヘタリ何トナレハ地租條例其他ノ法令ニ於テ稱スル田畑ナルモノハ耕地

ニ限ルモノニシテ鹽田ハ之ヲ田ト謂フヘカラサルヲ以テナリ法律カ田畑ニ限
リ前三箇年間ノ所得平均高ヲ以テ其年ノ所得ヲ算出スヘキモノト爲シタルハ
田畑ノ收穫ハ年ニ依リ豊凶アルヲ免レサルヲ以テ相當年間ノ平均ニ依リテ其
平準ヲ得ンコトヲ期シタルナルヘシ

「前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ」トハ其意義頗ル明瞭ヲ缺ク故ニ之ニ
對シテハ二様ノ見解ヲ下ス者アルニ似タリ
甲說 所得者カ前三箇年間其所有田畑ヨリ得タル所得ヲ各年一定ノ單位ニ於
テ平均シ更ニ之ヲ三箇年ニ平均シ之ヲ以テ其年現ニ所有スル田畑全體ニ對ス
ル所得額ヲ算出スヘキモノナリ例ヘハ前三箇年中初年ハ田五町歩ヲ所有シ三百
圓ノ所得ヲ得次年ニハ四町五反歩ヲ所有シ三百十五圓ノ所得ヲ得第三年ニハ
六町歩ヲ所有シ三百九十圓ノ所得ヲ得タル者其年ハ現ニ田七町歩ヲ所有スル
トキハ一反歩當所得初年六圓次年七圓第三年六圓五十錢ノ平均高六圓五十錢
ヲ以テ七町歩ニ對スル所得額ヲ算出シ其年ノ所得ヲ四百五十五圓ト爲スヘキ
カ如シ反別ヲ標準トセス地價又ハ小作料其他何等ノ標準ニ依ルモ其計算ノ理

ハ則チ一ナリ法律カ前三箇年間所得平均高ニ依ルト言ハスシテ「前三箇年間所
得平均高ヲ以テ算出スヘシ」ト言ヒタルハ其意平均高ヲ以テ直チニ其年ノ豫算
額ト爲スニ在ラスシテ平均高ヲ以テ更ニ其年ノ所得額ヲ算出スルニ在ルモノ
ト謂ハサルヘカラズ而シテ其年ノ所得額ヲ算出スト斷言シ其斷言ヲシテ相當
ノ意義ヲ有セシメントセハ所得稅稅第四條第一項第三號但書後段ハ所得者カ
前三箇年間ニ所有シタル田畑所得ノ結果ヲ以テ其年ニ所有スル田畑所得ヲ豫
算スルノ趣旨ニ出テタルモノト爲ササルヲ得ス若シ然ラスシテ現ニ所得ノ見
積ヲ爲サントスル田畑其物ノ前三箇年間ノ所得ニ依リ其年ノ所得ヲ豫算スル
ノ意ナリトセハ「平均高ヲ以テ算出ス」トハ無意義ノ法文ト爲ルニ至ルヘシ加之
耕作上ノ利益ハ土地ノ肥瘠ニ依リテ差違アルハ勿論ナリト雖モ而モ亦耕作者
ノ技量如何ニ依リテ大ニ異同ヲ生スヘキモノナルニ所有者ノ何人タルヲ問ハ
ス唯土地其物ニ付テノミ前三箇年間ニ生シタル利益ヲ問ハントスルハ之ヲ所
得ヲ豫算スルノ良法ナリト認フコト能ハス特ニ或人ノ所得ヲ計算スルニ當リ
他人ノ所得ヲ計量セサルヘカラサルカ如キハ其煩タル殆ト堪ユルコト能ハサ

ルヘシ法律ハ豈ニ此ノ如キノ意ヲ以テ規定セラレタルモノナランヤ
 乙說 何人ノ所有ニ屬シタルヲ問ハス現ニ所得ノ見積ヲ爲サントスル田畑其
 物ニ付キ前三箇年間ニ生シタル利益ニ依リ之ヲ平均シテ其年ノ所得ト爲スヘ
 キモノナリ例ヘハ某所ニ於ケル田地カ前年及ヒ本年ニ於テハ甲ニ屬スト雖モ
 其以前ニ於テハ乙ノ所有ナリシ場合ニ於テ本年甲ノ所得ヲ豫算スルニ當リテ
 ハ其田地ニ付テハ前三箇年間ニ於テ所有者ノ乙ナリシト將タ甲ナリシトヲ問
 ハス其間其土地ヨリ生シタル利益ヲ平均シテ之カ所得額ヲ定ムヘキモノトス
 法律カ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシト規定シタルハ用語稍ヤ不精
 密ナリト雖モ其意ハ三箇年ノ所得平均ヲ算出シ之ヲ以テ其年ノ所得ト爲スヘ
 シト謂フニ在リ若シ強テ平均高ヲ以テ算出スヘシト爲シタル文字ニ重キヲ置
 キ所得者ノ既往三年間ニ有シタル田畑ノ所得ヲ以テ其現ニ有スル田畑ノ所得
 ヲ推サントセハ其所有地ニ變更アリタル場合ニ於テハ上田ノ所得ヲ以テ下田
 ヲ律シ下畑ノ利益ヲ以テ上畑ヲ律スルコトト爲リ其不衡平タル測ルヘカラス
 論者ハ田畑其物ノ前三箇年ニ於ケル利益ヲ見ントセハ時トシテ他人ノ所得ヲ

計量セサルヘカラスシテ其煩ニ堪エスト爲スト雖モ土地ノ如キ不動ナルモノ
 ノ所得ハ他ノ所得ト異ナリ他人ノ利益ヲ計量スルコト甚シク困難ナルモノニ
 アラサルカ故ニ論者ノ想像スルカ如キ煩アルニアラス故ニ所得稅法第四條第
 一項第三號但書後段ノ規定ハ所得ノ見積ヲ爲サントスル田畑其物ノ前三箇年
 中ニ於ケル所得ヲ見ルノ趣旨ナリト解セサルヘカラス
 予ハ甲乙兩說共ニ之ヲ取ラス甲說ニ依レハ所得者ノ前三箇年間ニ所有シタル
 田畑ノ所得ヲ以テ其年現ニ所有スル田畑ノ所得ヲ推算スヘキモノナリト爲ス
 ト雖モ所得稅法第四條第一項第三號但書後段ノ規定ニシテ年ニ依リ豊凶ア
 ルヲ免レサル田畑ノ所得ヲシテ相當年間ノ平均ニ依リ平準ヲ得セシメント
 スルニ在リトセハ其可否ハ暫ク之ヲ措キ土地其物ノ收穫ニ依リテ平準ヲ計ル
 ニアラサレハ其趣旨ヲ貫徹スルコト能ハス又乙說ニ依レハ田畑カ他人ニ屬シ
 タル時ノ利益ヲモ尙ホ平均計算ニ加フヘシト論スト雖モ所得トハ各人ノ利益
 ヲ主觀的ニ觀察シタルモノナルカ故ニ單ニ所得ヲ計算スルコトヲ定ムル法文
 ヲ解シ他人ノ所得ヲ加ヘテ計算スヘキモノナリト謂フハ解釋ノ當ヲ得タルモ

ノニアラス予ヲ以テ之ヲ見ルニ所得税法第四條第一項第三號但書後段ノ規定ハ田畑ヲ所有スル者ノ田畑ヨリ得ル所得ヲ計算スル場合ニ於テ其田畑中四年前ヨリ引續キ所有スルモノアルトキニ於テ始メテ之ニ適用セラルヘキモノニシテ此ノ如キ場合ニ於テハ其所得ハ前三箇年間ノ所得ヲ平均シテ其年ノ所得ト爲スト謂フニ在ルモノナリ而シテ該規定ノ適用セラルルハ此場合ニ限ルモノニシテ其他ニハ及フモノニアラス元來該規定ハ例外ノ規定ニ屬スモノナルカ故ニ之ヲ嚴格ニ解釋スルコトヲ要シ該規定ノ適用ヲ受ケサル場合ニ於テハ常ニ原則ニ復歸シ其適用ヲ爲ササルヘカラス故ニ左ノ場合ニ於テハ其田畑ノ所得ハ其年ノ現況ニ依リ年額ヲ豫算シテ之ヲ定ムヘキモノナリ

(イ) 所得者ノ所有スル田畑中前三箇年間引續キ所得者ニ屬セサルトキ

(ロ) 所得者ノ所有ニ係ル田ニシテ前三箇年間引續キ所得者ニ屬シタルモ田

トシテノ所得ナカリシトキ即チ其田ハ前三箇年間ニ於テ田以外ノ地目ナリシコトアルトキ

(ハ) 所得者ノ所有ニ係ル畑ニシテ前三箇年間引續キ所得者ニ屬シタルモ畑ト

シテノ所得ナカリシトキ即チ其畑ハ前三箇年間ニ於テ畑以外ノ地目ナリシコトアルトキ

第三種ノ所得ニ關スル計算ハ其原則タルト例外タルトヲ問ハス年額ヲ豫算スヘキモノナルコト以上述フル所ノ如シ而シテ豫算ナルモノハ之ヲ爲ス時ノ如何ニ依リ其見積ヲ異ニスヘキモノナルヲ以テ豫算年額ニ依ル以上ハ必ス之カ豫算ヲ爲スヘキ時ヲ定メサルヘカラス所得税法施行規則ハ之ヲ定メ申告調査又ハ決定當時ノ現況ニ依ルヘキモノト爲シタリ(所得税法施行規則第二條)即チ申告ヲ爲サントスル者ハ申告ノ當時調査ヲ爲ス者ハ調査ノ當時決定ヲ爲サントスル者ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得税法第五條ニ該當スル所得即チ所得税ヲ課セサル所得ヲ除キ第三種ノ所得ヲ算出スヘキモノト爲シ故ニ申告調査又ハ決定當時ニ於テ既ニ收入又ハ支出シタルモノ及ヒ收入又ハ支出スヘキコト確定シタルモノハ其實額ニ依リ其時ノ現況ニ依リ將來收入又ハ支出スヘキモノハ其見積額ニ依リテ所得ヲ算出シ二者ヲ合シタルモノヲ以テ其年ノ所得額ト爲スヘキモノナリ豫算ノ時期ヲ一定セスシテ時ノ現況ニ依ルコトヲ得セシメ

タルハ豫算金額ヲシテ成ルヘク實額ニ近カシメントスルノ趣旨ニ出テタルモ
 ノニシテ課稅ノ衡平ヲ計ルニハ最モ適シタルモノト謂ハサルヘカラス
 所得稅法第五條ニ該當スル所得ヲ除ク場合ニ於テ所得ノ性質ニ依リ所得稅ヲ
 課セスト爲シタルモノニ在リテハ其年額ヲ除クヘキハ勿論ナリト雖モ所得ノ性
 質ニ依ラス單ニ或條件ヲ具備スル間ニ限リ所得稅ヲ課セスト爲シタルモノ例
 ヘハ從軍中ノ俸給ノ如キモノニ在リテハ如何ニ之ヲ見積リテ控除スヘキモノ
 ナルヤ豫算ヲ爲ス當時ニ於テ既ニ從軍事故ノ消滅シタルモノニ在リテハ其從
 軍間ニ於ケル俸給ノミヲ除クヘキコト論ヲ須タスト雖モ其當時尙ホ從軍事故
 ノ繼續スルモノニ在リテハ其年中ハ從軍ノ解除スルコトナキモノト爲シ殘日
 數ニ對スル俸給ハ總テ之ヲ除クヲ以テ相當ト爲スヘシ何トナレハ豫算當時ノ
 實況ハ現ニ從軍中ナルカ故ニ其現況ニ依リ豫算スルモノトセハ從軍事故ハ解
 除スルモノト見ルヨリハ寧ロ繼續スルモノト見ルコト事實ニ近キノ推定ト爲
 スヘキヲ以テナリ

第三種所得ノ計算ニ關スル説明ヲ終ルニ臨ミ一ノ問題ヲ解決セサルヘカラス

即チ所得ヲ豫算ストハ其年ニ於テ現ニ收入シ又ハ支出スヘキ金額ニ依リ其收
 支ノ差引利益ヲ見積ルノ意ナルヤ將タ其年ニ於テ收入シ又ハ支出スヘキ權利
 額又ハ義務額ニ依リ其收支ノ差引利益ヲ見積ルノ意ナリヤノ問題はナリ例ヘ
 ヲ貸金預金ノ利子ノ如ク貸付又ハ預入ノ存續スル間日割ヲ以テ發生スル權利
 ニシテ其辨濟期日其年ニ在ラサルトキハ其利子ハ之ヲ其年ノ所得ニ計算スル
 コトヲ得ルヤ否ヤ若シ所得ノ豫算ヲ以テ現實ノ收支額ニ依ルヘキモノトセハ
 權利義務ハ其年ニ於テ發生スルモ其履行ノ期日ニシテ其年ニ在ラサルモノハ
 之ヲ計算中ニ加フルコトヲ得サルヘシ之ニ反シテ權利義務ノ差引額ニ依ルヘ
 キモノトセハ苟モ權利義務ニシテ其年中ニ發生スヘキモノナル以上ハ其履行
 期日ハ其年ニ在ラサルモ之ヲ以テ其年ノ所得中ニ計算セサルヘカラス予ヲ以
 テ之ヲ見ルニ各人ノ權利ハ其發生ノ時ニ於テ其人ノ利益ト爲リ其義務モ亦其
 發生ノ時ニ於テ其人ノ損失ト爲ルヘキモノナルカ故ニ收支計算即チ損益計算
 ノ結果タル所得ナルモノハ權利義務發生ノ時ニ於テ之ヲ見ルヘキモノニシテ
 權利義務履行ノ時ニ於テ之ヲ見ルヘキモノニアラサルナリ故ニ前例ニ於ケル

貸金、預金ノ利子ノ如キハ貸付預入ノ存續期間ニ應シ日割ヲ以テ各年ノ所得ヲ豫算スヘキモノニシテ其辨濟期日ノ何レノ年ニ在ルカハ問フヘキ所ニアラスト謂ハサルヘカラス特ニ此ノ如キ解釋ヲ取ラサルトキハ計算上利益ヲ得ルコト明カナル者ト雖モ現物ノ引渡ヲ爲ササルコトヲ定ムルトキハ常ニ無所得者トシテ巧ニ所得稅ノ賦課ヲ免ルルコトヲ得ルニ至ルヘシ予ハ法律カ此ノ如キ粗漏ナル結果ヲ認容シテ規定セラレタルモノナルコトヲ信スル能ハサルナリ

第三 所得ノ確定

第二種ノ所得ハ納稅者カ利子トシテ現ニ支拂ヲ受クル金額ニ依ルヘキモノニシテ而モ其支拂ノ際ノカ所得稅ヲ控除シテ徵收スルモノナルヲ以テ其所得金額ノ若干ナルヤハ極メテ明白ノ事實ニシテ豫メ之ヲ確定シテ納稅者ニ知悉セシムルカ如キ必要ナシト雖モ第一種及ヒ第三種ノ所得ニ至リテハ之ヲ知ルコト此ノ如ク容易ナルモノニアラス一ニ損益ノ計算又ハ收支ノ豫算ノ結果ニ依ラサルヘカラサルカ故ニ其金額ハ納稅者ノ主張スル所常ニ必スシモ政府ノ見

ル所ト一致スルモノニアラス故ニ税金ノ徵收ヲ爲ス前ニ於テ先ツ其標準タルヘキ所得金額ヲ確定セサルヘカラス所得稅法ハ其手段トシテ先ツ所得金額ノ届出ヲ爲サシメ調査決定ノ後之ヲ通知シ以テ納稅者ヲシテ豫メ其納ムヘキ稅額ノ若干ナルヤヲ知ラシムルト同時ニ不服ノ點ニ付キ異議ヲ主張スルノ機會ヲ得セシメタリ

一 所得金額ノ届出

法律カ所得金額ノ届出ヲ必要トシタルハ政府ノ知ラサル所ニ於テ納稅義務者ノ漏ルルアルヲ防クト同時ニ政府ノ專擅的認定ニ對シ納稅義務者ヲシテ豫メ其相當トスル所ヲ告白スルノ便利ヲ有セシメントスルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

甲 第一種ノ所得 納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スルノ義務ヲ有ス(所得稅法第七條)所得稅法施行規則第三條(所得稅法施行規則第三條)ハ每事業年度通常總會後七日以内ニ損益計算書ヲ提出スヘキコトヲ定ムルヲ以テ株式會社及ヒ株式合資會社ノ如ク定時總會ヲ開クヘキ

モノニ在リテハ其總會後七日以内ニ之ヲ提出セサルヘカラスト雖モ合名會社合資會社ノ如ク法律上定時總會ヲ開クヘキコトヲ定メサルモノニ在リテ若シ每事業年度一定ノ時期ニ於テ總會ヲ開カサルトキハ損益ノ決算ヲ爲シタル後相當ノ期間内ニ於テ之ヲ提出スヘキモノナリ

乙 第三種ノ所得 第三種ノ所得ニ付キ納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類、金額及ヒ其計算ノ本ツク所ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘキモノトス(所得稅法第八條)所得稅法施行規則第四條第一項同居者ニシテ所得金額ノ合算額ニ依リ所得稅率ヲ定メラルヘキ者ニ在リテハ同時ニ其申告ヲ爲スコトヲ要ス(所得稅法施行規則第四條第二項)蓋シ同時ニ申告セシムルトキハ當該官吏ヲシテ容易ニ其所得金額ノ合算額ニ依リテ稅率ヲ定ムヘキモノナルコトヲ知ラシムルノ利益アルヲ以テナリ

二 所得金額ノ調査

甲 第一種ノ所得 第一種ノ所得ハ損益計算ノ結果ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ稅務署長ハ法人ノ損益計算書ニ就キ之ヲ調査スヘキモノナリ(所得

稅法第九條)前段損益計算書ハ法人ノ損益ヲ明カニスルモノナルカ故ニ別ニ之ヲ調査スル必要ナキカ如クナルニ法律カ仍ホ之ヲ調査スヘキコトヲ命シタルハ一見鄭重ニ過クルカ如シト雖モ法人ニ因リテ性質上損金ニアラサルモノヲモ損金トシテ計算シ以テ所得稅ヲ免レンコトヲ謀ル者之レ無キヲ保セサルヲ以テ法律ハ此場合ニ於テモ尙ホ調査ヲ爲スヘキモノト爲シ以テ當該官吏ヲシテ損益計算書ニ掲上シタル金額ノ正否ヲ檢セシムルト同時ニ其計算ノ當否ヲ判セシメ之ニ依リテ課稅標準ノ的確ヲ期シタルナリ

納稅義務アル法人ハ損益計算書ヲ提出スヘキコトハ既ニ述フル所ノ如シト雖モ計算書ハ所得ヲ調査スル材料ニ過キスシテ之ヲ提出セサルモ之カ爲メ其納稅義務ニ影響スルモノニアラス故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ當該官吏ハ其職權ノ許ス範圍内ニ於テ相當ノ處置ヲ取リ以テ法人ノ損益ヲ調査スヘキモノトス(所得稅法施行規則第三一條)

乙 第三種ノ所得 第三種ノ所得ニ關シテハ二段ノ調査ヲ爲スヘキモノトス(イ) 稅務署長ノ調査 稅務署長ハ届出ノ有無ニ拘ラス毎年第三種ノ所得ニ付

キ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ之カ見積書ヲ調製シテ之ヲ調査委員會ニ送付スヘキモノトス(所得稅法第一〇條)而シテ元來納稅者ノ届出ナルモノハ調査ノ根據ト爲ルヘキモノニアラスシテ單ニ所得決定ノ參考ニ過キサシテ以テ稅務署長ノ調査シタル所ニ依リ其脫漏又ハ誤記アルコトヲ發見スルモ別ニ之ヲ訂正セシムルニ及ハス稅務署長ハ其相當ト認ムル調査書ト共ニ其儘之ヲ調査委員會ニ送付シテ可ナリ

(ロ) 所得調査委員會ノ調査 稅務署長ノ爲シタル所得ノ調査ハ單ニ調査委員會ノ參考ト爲ルニ過キス所得金額決定ノ基礎ト爲ルヘキモノニアラス決定ノ基礎タルヘキ調査ハ實ニ所得調査委員會之ヲ爲ス所得稅法第九條後段ニ依レハ第三種ノ所得ハ所得調査委員會之ヲ調査スヘキモノナルヲ以テ調査委員會ハ其見ル所ニ依リ適宜ニ之ヲ調査シテ可ナリ故ニ便宜上稅務署長ノ調製シタル調査書ヲ原案トシテ會議スルコトアルヘキモ其決議ハ納稅義務者ノ届出又ハ稅務署長ノ調査ニ依リ拘束セラルヘキモノニアラサルナリ然レトモ稅務署長ノ調査ト雖モ既ニ法律ノ命スル所ニ依リテ之ヲ爲シタルモノニシテ而モ法律

律カ調査委員會ノ調査ニ先チ第一著トシテ稅務署長ヲシテ各人ノ所得ヲ調査セシメ其意見ヲ提出セシムル所以ノモノハ之ニ依リテ調査委員會ノ決議ヲシテ遺憾ナキノ域ニ至ラシメントスルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス隨テ稅務署長ハ調査委員會ニ於テ其調査ヲ説明シ又ハ之ヲ主持シ以テ二段ノ調査ヲ爲ス所以ノ趣旨ヲ達スルコトヲカムルノ權能ヲ有セサルヘカラス故ニ法律ハ稅務署長又ハ其代理官ヲシテ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得セシメタリ(所得稅法第三二條)而シテ此ノ如クシテ調査委員會ニ於テ決議シタル結果ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知セサルヘカラス(所得稅法施行規則第一二條)第三種所得ノ調査ニ關シテハ其稅務署長ノ行フモノニ係ルト將タ調査委員會ノ爲スモノニ係ルトヲ問ハス宜シク所得ノ實額ヲ得ンコトヲ期セサルヘカラス所得ノ計算ニ關シテハ既ニ述フル如ク法律ニ於テ之カ規定ヲ設クト雖モ是レ唯大體ニ於ケル原則ヲ示シタルノミ元來第三種ノ所得ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ムルモノナルカ故ニ現實ノ收支ヲ計算スルカ如ク計算ノ結果ノミニ依リテ直ニ其實ニ近キモノヲ得ルコト頗ル難キモノナリ故ニ收支計算上ノ些細ノ點

ニノミ重ヲ置キテ調査ヲ爲ストキハ却テ大體ニ於テハ其實ニ遠キノ結果ヲ見ルコト尠カラサルヘシ調査ヲ爲ス者ハ須ラク納稅義務者ノ生活信用、取引等凡ソ人ノ所得ヲ推定シ得ヘキ事實ニ依リテ大體ニ著眼シ常ニ收支計算ノ結果ト違觀上ノ推定トノ近接ニ依リテ所得ノ調査ヲ爲スコトニ留意セサルヘカラス上述ノ如ク所得ノ調査ナルモノハ調査ヲ爲ス者ノ認定ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ調査者ハ認定ヲ爲スノ材料ヲ得ヘキ便宜ヲ有セサルヘカラス故ニ稅務署長又ハ其代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得ルモノナリ(所得稅法第三四條)法律ハ獨リ稅務署長及ヒ其代理官ニ限テ右ノ權能ヲ與ヘ調査委員又ハ調査委員會ニ對シテハ之ヲ付與セザリシヲ以テ調査委員ハ自ラ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得ス但シ調査委員ニ於テ質問ヲ要スル事項ハ之ヲ稅務署長ニ移付シ之ヲシテ質問ヲ爲サシムルコトヲ得ルカ故ニ實際ニ於テハ調査委員會ト雖モ其必要トスル材料ヲ得ルノ便宜ハ之ヲ有スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ

三 所得金額ノ決定

甲 決定 所得金額ハ第一種ニ在リテハ稅務署長ノ調査シタル所ニ依リ第三種ニ在リテハ調査委員會ノ調査シタル所ニ依リ稅務管理局長之ヲ決定スヘキモノナリ(所得稅法第九條)所得稅法施行規則第一三條、第三一條)即チ第一種ノ所得ニ付テハ政府ニ於テ其金額ヲ調査シ政府ノ見ル所ニ依リ之ヲ決定スルモノナリト雖モ第三種ノ所得ニ付テハ調査委員會ニ於テ其金額ヲ調査シ政府ハ其決議ニ依リテ所得金額ヲ決定スヘキモノニシテ普通ノ場合ニ於テハ政府ノ調査委員會ノ決議額ト異ナリタル決定ヲ爲スコト能ハサルモノトス但シ政府ニ於テ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付シ調査委員會ヲシテ更ニ相當ナル決議ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノナリ(所得稅法第三一條前段)調査委員會ニ於テ相當ノ調査ヲ爲ストキハ政府ハ其決議ニ依リテ第三種ノ所得ヲ決定スヘキコト右ニ述フル所ノ如シト雖モ調査委員會ニ於テ調査ヲ爲スコト能ハサルカ又ハ相當ノ調査ヲ爲ササルトキハ勢ヒ法律ノ執行者タル政府ニ於テ其見ル所ニ依リ所得金額ノ決定ヲ爲ササルヲ得ス故ニ左ノ場合ニ於テハ

政府ハ其獨斷ヲ以テ所得金額ノ決定ヲ爲スヘキモノトス

(イ) 調査委員選舉ノ不成立又ハ調査委員召集ニ應セサル等其他何等ノ事由ニ因ルヲ問ハス八月三十一日マテニ調査委員會成立セサルカ爲メ調査ヲ爲スコト能ハサルトキ(所得稅法第三〇條)

(ロ) 調査委員會ハ成立スルモ八月三十一日マテニ調査結了セサルトキ(同上)但シ此場合ニ於テ調査結了シタルモノニ付テハ政府ハ調査委員會ノ決議ニ依リテ其所得金額ヲ決定シ唯調査未濟ノモノニ限り其見ル所ニ依リ其所得金額ヲ決定スヘキモノナリ

(ハ) 政府ニ於テ調査委員會ノ再調査ヲ求メタル場合ニ於テ其再調査ニ於ケル決議仍ホ不當ナリト認ムルトキ(所得稅法第三一條後段)

(ニ) 政府ニ於テ調査委員會ノ再調査ヲ求メタル場合ニ政テ再調査ニ付シタル日ヨリ十五日以内ニ調査委員會ニ於テ調査ヲ結了セサルトキ但シ此場合ニ於テモ政府ニ於テ決定スルハ調査未濟ノ所得金額ニ限ルモノナリ(同上)

(ホ) 所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者處罰セラレタルトキ(所得稅法第四六條)

(ヘ) 所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者自首シタルトキ(同上)

㉒ 通知 稅務管理局長第一種又ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知セサルヘカラス(所得稅法第三五條)所得稅法施行規則第一三條蓋シ所得金額ハ課稅ノ標準タルモノナルカ故ニ納稅義務者ヲシテ之ニ依リテ豫メ其納ムヘキ稅額ノ若干ナルヤヲ知ラシメ負擔ノ準備ヲ爲サシムルノ必要アルノミナラス場合ニ因リテハ其變更ヲ求ムルノ機會ヲ得セシメサルヘカラサルヲ以テナリ

丙 救濟 稅務管理局長所得金額ヲ決定シテ納稅義務者ニ通知シタルトキハ所得金額ハ之ニ因リテ確定スルモノナルカ故ニ其間誤調アリシトキト雖モ漫ニ之ヲ變更スルコトヲ得ス之ヲ變更スルニハ必ス法律ノ定メタル救濟方法ニ依リシナルヘカラス同一ノ所得ヲ重複ニ計算シ又ハ所得稅法第五條ニ該當スル所得ヲ算入シテ決定ヲ爲シタルカ如キ極端ナル場合ト雖モ尙ホ政府ハ任意ニ其決定シタル金額ヲ變更スルコトヲ得サルモノナリ(所得稅法施行規則第三二條)又ニ納稅義務者ニシテ政府ノ通知シタル所得金額ニ對シ不服ナルトキ之カ救

訴ヲ求メントセハ必ス審査請求、訴願、行政訴訟ノ三者其一ノ方法ニ依ラサルハ、カラス

(イ) 審査請求 審査請求トハ政府ノ決定シタル所得金額ヲ不當トシ事實ヲ審査シ更ニ相當ノ決定アラシムコトヲ請求スルヲ謂フ審査ヲ請求スルニハ所得金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ稅務管理局長ニ申出テサルヘカラス(所得稅法第三六條、所得稅法施行規則第一四條)而シテ審査請求ニ對シ審査委員會ノ決議ニ依リ更ニ決定ヲ爲スニ至ルノ手續ハ略ホ調査委員會ノ調査ニ依リ所得金額ノ決定ヲ爲ス場合ニ於ケル手續ト相似タルモノナルカ故ニ茲ニハ其説明ヲ省略ス(所得稅法第三七條、所得稅法施行規則第二八條、第二九條、第三〇條)

審査請求ナルモノハ事實ノ再審査ヲ求ムルモノナルヲ以テ審査ノ請求アリタルトキハ審査委員會ハ請求者ノ所得全體ニ付キ更ニ相當ノ調査ヲ爲スヘキモノニシテ其結果既ニ決定シタル金額ノ實ニ過クルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ減額スヘキハ勿論ナリト雖モ事實決定金額ヨリ多額ノ所得ヲ有スルコト明カナ

アトキハ亦之ヲ増額スルニ於テ何等妨クル所アルモノニアラサルナリ但シ審査ノ結果ニ因リ更ニ所得金額決定セラルルマテハ既ニ通知セラレタル金額ヲ以テ確定ノモノト爲ササルヘカラサルカ故ニ審査ノ結果發表セララルル前ニ於テ納期ノ到來シタル場合ニ於テハ納稅義務者ハ其全額ニ依リテ税金ヲ納メサルヘカラス而シテ審査ノ結果該金額ト同シカラサル所得金額ノ決定アルニ至リタル場合ニ於テハ更ニ追徴又ハ還付ヲ爲スヘキモノトス(所得稅法第三八條)

(ロ) 訴願 所得金額ハ課稅ノ標準ナルヲ以テ不當ナル標準ニ依リ所得稅ヲ賦課セラレタル場合ニ於テハ之ニ對シ訴願ヲ爲スコトヲ得ヘキハ訴願法ニ於テ何等疑ヲ容レサル所ナリト雖モ所得金額ノ決定アリタル場合ニ於テ未タ所得稅ノ賦課ナキニモ拘ラス其決定ニ對シ訴願ヲ提起スルコトヲ得ヘキヤ否ヤハ訴願法ニ於テハ頗ル疑ハシキ問題ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ所得稅ノ賦課ニ付キ不服ヲ訴フル者ハ賦課ノ手續等ニ付テ異議ヲ申立ツルカ如キハ甚ダ稀ニシテ多クハ所得ノ有無又ハ其金額ノ多少ノ點ニ於テ爭アルモノナルヲ以テ所得金額ノ決定通知ニ對シ直チニ訴願ヲ提起スルヲ得ト爲スコト不服者ニ數

濟ヲ與フルニ於テ最モ適スルモノト謂ハサルヲ得ス所得稅法ハ此方針ニ依リ
其第三十九條ヲ以テ所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得
ヘキ旨ヲ明言シタリ該條ハ廣ク「所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者」ト規定シ其
決定カ調査委員會ノ決議ニ依リテ爲サレタルト將タ審査委員會ノ決議ニ依リ
テ爲サレタルトニ依リテ區別セサルカ故ニ孰レノ場合ニ於テモ不服者ハ訴願
ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス所得稅法第三十九條ノ規定ヲ解シテ單ニ審査
委員會ノ決議ニ依リ決定シタル所得金額ニ對シテノミ訴願ヲ許シタルモノト
爲スハ理由ナクシテ法文ノ意義ヲ縮少スルモノニシテ解釋ノ當ヲ得タルモノ
ト爲スコト能ハス

(六) 行政訴訟 所得金額ノ決定ニ對シ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ルコトモ亦所
得稅法第三十九條ノ規定スル所ナリ蓋シ不服者ヲシテ現今存スル救濟ノ途ハ
總テ之ヲ盡スコトヲ得セシメ以テ遺憾ナカラシムルノ趣旨ニ出テタルモノナ
リ

第四 所得ノ更訂

第一種及ヒ第二種ノ所得ハ既往又ハ現在ノ事實ニ依リテ之ヲ計算スルモノナル
カ故ニ確定シテ動クナキモノナリト雖モ第三種ノ所得ハ豫算ヲ以テ之ヲ決定
スルモノナルヲ以テ決定後ニ於テ事實豫期ノ如クナラサルトキハ實際ノ所得
金額ハ決定金額ニ對シ著シキ相違ヲ呈スルコトナキヲ保セス實際ノ所得ニシ
テ決定金額ニ對シ増加シタルトキハ納稅者カ負擔ノ輕キヲ喜フノミニシテ別
ニ差支ナシト雖モ著シク減額シタル場合ニ於テ仍ホ一旦決定シタル金額ニ依
リ所得稅ヲ納ムヘキモノトセハ納稅者ハ其過重ニ堪ヘサルヘクシテ法律カ各
人ノ所得ニ應シ相當ニ國費ヲ分擔セシメントシタル趣旨ト背馳スルニ至ルヘ
シ故ニ法律ハ第三種ノ所得ニ限リ事實ノ所得金額ニシテ決定金額ノ四分ノ三
以下ト爲リタルトキハ納稅義務者ヲシテ稅務管理局長ニ申出テ實際額ニ依リテ
所得金額ヲ更訂セラレンコトヲ請求スルコトヲ得セシメタリ但シ實際額ニ對シ
求ヲ許ストキハ事ノ整理ヲ妨クルノミナラス既ニ所得ノ實際決定金額ニ對シ
四分ノ一以上減差アルコト確定シタル後ニ於テ尙ホ久シク更訂ノ請求ヲ爲サ
ザル者ハ自ラ之ヲ負擔シテ可ナリト爲ス者ト見テ差支ナキカ故ニ翌年一月三

十一日マテニ請求ヲ爲ササル者ハ其後ニ至リテハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコト能ハサルモノナリ(所得稅法第四〇條)

所得金額ハ實際決定金額ト大差ナキモ其四分ノ一以上ニシテ所得稅法第五條ニ該當シタルトキ例ヘハ俸給所得ノミヲ有スル者所得金額決定後從軍シタル爲メ其俸給ノ四分ノ一以上所得稅法第五條ニ該當スルニ至リタルトキハ所得稅法第四十條ニ依リ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ルヤ第三種ノ所得ナルモノハ僑人ノ所得中第二種ノ所得以外ノモノヨリ所得稅法第五條ノ所得ヲ控除シテ算出スヘキモノナルヲ以テ(所得稅法施行規則第二條)所得稅法第五條ニ該當スル所得ハ之ヲ第三種ノ所得ト謂フコト能ハス隨テ第三種ノ所得中所得稅法第五條ニ該當スルニ至リタルモノアルトキハ其金額ハ第三種ノ所得トシテハ減額シタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ其金額ニシテ決定金額ノ四分ノ一以上ニ達スルトキハ納稅義務者ハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ルモノナリ人或ハ曰ハン所得稅法第四十條ハ所得ノ減損シタル場合ニ於テ始メテ適用セラルヘキモノナリ所得中所得稅法第五條ニ該當スルニ至リタルモノアルモ是

レ唯所得ノ法律上ノ關係ヲ變シタルノミニシテ所得其物ニハ何等ノ減損ナキモノナルヲ以テ之ニ對シテハ所得稅法第四十條ノ規定ヲ適用スルコト能ハスト然レトモ此ノ如キハ法文ノ文字ニ拘泥シテ其精神ヲ解セサルノ論ナリト謂ハサルヘカラス所得稅法第四十條カ(所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキ)ト規定シタルハ其意納稅義務者ノ有スル所得金額カ四分ノ一以上減損シタルトキト謂フニ在ラスシテ(納稅義務者ノ實際第三種ノ所得トシテ得タル金額カ決定金額ノ四分ノ三ニ達セザルトキ)ト謂フニ在ルコト第三種ノ所得カ豫算ヲ以テ決定セラルルニ依リテ明カナリ若シ此解釋ニシテ誤ナシトセハ所得中所得稅法第五條ニ該當スルニ至リタルモノハ第三種ノ所得ニアラサルカ故ニ之ヲ除キタル金額ニシテ決定金額ノ四分ノ三以上ニ達セザルトキハ正シク所得稅法第四十條ノ規定スル場合ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス法律カ減損ナル文字ヲ使用シタルハ用語稍ヤ精密ヲ缺クト雖モ言ヲ以テ意ヲ害セスシテ可ナリ

所得金額更訂ノ請求アリタルトキハ稅務管理局ニテハ其年所得ノ實況ヲ調査

シ若シ請求者ノ主張スル如ク現ニ實際ノ所得額ニシテ決定金額ノ四分ノ三ニ達セサルトキハ其金額ヲ更訂シテ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘキモノトス(所得稅法第四一條)所得稅法施行規則第三七條)而シテ納稅義務者ハ四分ノ一以上ノ減損アリト信スルトキハ翌年一月三十一日以前ニ於テハ何時ト雖モ所得金額ノ更訂ヲ請求スルニトヲ得ルモノナリト雖モ政府ハ其年所得ノ實況ヲ調査セサルヘカラサルカ故ニ勢ヒ其年ヲ經過シタル後ニアラサレハ處分ヲ爲スコト能ハス然ルニ現實所得ナキカ故ニ更訂處分ヲ求メタル者ヲシテ處分アルマテハ決定金額ニ依リ必ス納稅セシムヘキモノトセハ其困難タル蓋シ鮮カラサルヘシ故ニ請求ニシテ一應理由アル場合ニ於テハ政府ハ處分確定スルマテ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得ルモノニシテ之ニ依リテ納稅義務者ヲシテ豫期ノ如キ所得ヲ得ル能ハサリシカ如キ不幸ナル年ニ於テハ所得金額ノ更訂ヲ求メ其結果ニ依リテ納稅スルノ便宜ヲ有セシメタルナリ(所得稅法第四三條)

第三款 所得調査及ヒ審査機關

第一種ノ所得ハ稅務署長之ヲ調査シ第三種ノ所得ハ稅務署長先ツ之ヲ調査シ然ル後調査委員會更ニ之ヲ調査スルコト前款既ニ之ヲ述ヘタリ故ニ所得ノ調査機關ハ第一、稅務署長第二、調査委員會ナリト謂ハサルヘカラス所得ノ審査ニ至リテハ其第一種タルト第三種タルトヲ問ハス審査委員會之ヲ爲スモノニシテ審査委員會ハ實ニ之カ唯一ノ機關タリ稅務署長ナル者ハ官制ヲ以テ定メラレタルモノニシテ一切ノ稅務ヲ處理スルノ任務ヲ有シ獨リ所得ノ調査ノミヲ爲スノ機關ニアラス隨テ所得稅法ヲ研究スル場合ニ於テ之カ任命權限等ヲ説クハ其所ヲ得タルモノニアラス故ニ所得調査機關ヲ説明スルニ當リテハ姑ク之ヲ省略シ茲ニハ唯所得ノ調査又ハ審査ヲ以テ其唯一ノ職務ト爲ス調査委員會及ヒ審査委員會ニ付テノミ其組織、會議等ノ梗概ヲ説明セントス

第一 調査委員會

一 區域

調査委員會ハ各稅務署所轄内ニ之ヲ置クモノナリ(所得稅法第一一條第一項)

二 定數

調査委員ノ定數ハ普通五人トス然レトモ土地ノ廣狹納稅者ノ多少其他種種ノ事情ニ依リ五人ノ定員ヲ以テシテハ時ニ其數少キニ失スルコトアリ又或ハ多キニ過タルコトナシトセス故ニ所得稅法施行規則ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ大藏大臣ニ於テ定員ヲ増減スルコトヲ得ルモノト爲シタリ(所得稅法第一條第二項)所得稅法施行規則第五條明治三十二年大藏省令第一三號)

所得稅法施行規則第五條但書ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ大藏大臣ハ調査委員ノ定數ヲ増減スルコトヲ得ルモノト爲スカ故ニ大藏大臣ニシテ特別ノ事由アリト認メタル以上ハ調査委員ノ定員ヲ増減スルコトヲ得ヘキハ無論ナリト雖モ其之ヲ實行スルニ當リテハ深ク其時期ト員數トニ注意セサルヘカラス何トナレハ調査委員ナル者ハ法律ニ依リテ一定ノ任期ヲ有シ且ツ之ヲ改選スル場合ニハ常ニ其定數ノ半數ツツニ付テ改選スヘキモノナルヲ以テ大藏大臣ニシテ突然調査委員ノ定數ヲ改正シ又ハ改正定數ノ員數ニ意ヲ用フルコト少キトキハ任期及ヒ改選ニ付テ法律ノ定メタル規程ヲ完全ニ適用スルコト能ハサルニ至ルノ虞アルヲ以テナリ予ノ見ル所ヲ以テスレハ大藏大臣ニシテ調査委員

ノ定數ヲ改正セント欲セハ常ニ其改選ノ時期ニ於テシ而モ増減員ノ爲メニ改正ナキ場合ニ於テ退任者タルヘキ者ヲシテ留任シ改正ナキ場合ニ於テ留任者タルヘキ者ヲシテ退任セサルヘカラスルニ至ラシムルカ如キコトナキヲ期セサルヘカラス例ヘハ五人ノ調査委員定數ヲ有スル稅務署所轄ニ於テ其二人ハ留任シ他ノ三人ハ改選スヘキ場合ニ於テハ定數ヲ減シテ四人又ハ三人ト爲スモ委員ノ任期四年ナル規定ヲ破ルコトナクシテ而モ尙ホ二年毎ニ半數改選ヲ行フコトヲ得ヘキカ故ニ此場合ニ於テハ定數ヲ改正シテ四人又ハ三人ト爲スコト何等ノ妨アルコトナシ之ニ反シテ定數ヲ増シテ六人ト爲ストキハ既ニ四年ノ任期ヲ終リタル爲メ退任スヘキ三人中ノ一人ヲシテ更ニ二年間留任セシムルカ又ハ其改選期ニ於テハ四人ヲ選舉シ次ノ改選期ニ於テハ二人ヲ退任セシムルカノ二者其一ニ出テサルヘカラス而シテ其孰レノ途ニ出ツルモ法律ノ規定ニ抵觸スルヲ免レス故ニ此場合ニ於テハ大藏大臣ハ定數ヲ増加シテ六人ト爲スコト能ハサルモノト謂ハサルヘカラス又例ヘハ定數六人ニシテ其半數ヲ改選スヘキ場合ニ於テハ之ヲ増シテ七人ト爲シ又ハ之ヲ減シテ五人ト爲ス

ハ何等ノ支障ヲ見スト雖モ増シテ八人ト爲シ減シテ四人ト爲サントスルトキハ共ニ法律ノ規定ヲ完全ニ適用スル能ハサルカ故ニ此ノ如キ改正ハ之ヲ行フコト能ハサルモノト爲ササルヘカラス之ヲ要スルニ法律ハ調査委員ノ定數ヲ定ムルコトヲ以テ命令ニ讓リタリト雖モ命令ノ規定ハ常ニ法律ノ規定ニ牴觸セサル範圍内ニ於テ之ヲ定メサルヘカラサルヲ以テ大藏大臣カ調査委員ノ定數ヲ増減スル場合ニ於テハ増減ノ結果法律ノ規定ニ牴觸スルニ至ラサル程度ニ於テ之ヲ爲スヲ要スルモノナリ

三 選舉

調査委員ノ選舉ハ復選法ニ依ルモノトス即チ第一次ニ於テ先ツ調査委員ヲ選舉スヘキ者ヲ選舉シ然ル後第二次ニ於テ調査委員選舉人調査委員ヲ選舉スルモノナリ

甲 調査委員選舉人

(イ) 選舉區域 調査委員選舉人ハ市町村毎ニ之ヲ選舉スヘキモノトス但シ東京、京都、大阪ノ如キ大市ニ於テハ市内ノ區毎ニ之ヲ選舉シ函館區、札幌區、小樽

區ノ如キ市町村ノ外ニ特立スル區ニ於テハ其區毎ニ之ヲ選舉スルモノトス(所得稅法第一三條第二項)法律ハ小樽區ニ付テハ何等ノ規定ヲ爲サスト雖モ是レ所得稅法制定ノ當時ニ在リテハ北海道ニ於テハ函館、札幌ノ二區アリタルノミニシテ小樽ハ未ダ區ト爲ラサリシヲ以テ之ヲ規定セサリシモノニシテ立法ノ精神ヲ推ストキハ法律ノ意ハ東京、京都、大阪ヲ除ク外ハ市町村又ハ市町村ニ準スヘキモノノ區域毎ニ調査委員選舉人ヲ選舉スヘキモノト爲スニ在リタルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ小樽ニシテ區ト爲リタル以上ハ小樽區ハ即チ一ノ選舉區域ナリト爲ササルヘカラス

(ロ) 選舉資格 調査委員選舉人ヲ選舉スルコトヲ得ル者ハ左ノ二條件ヲ具備スルコトヲ要ス(所得稅法第一四條)

(1) 選舉區域内ニ居住スルコト 居住トハ現ニ居所住所併セテ之ヲ有スルコトヲ謂フヤ將タ居所又ハ住所ノ其一ヲ有スルコトヲ謂フヤ用語稍ヤ明瞭ヲ缺クト雖モ後ニ説明スヘキカ如ク第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ普通ノ場合ニ於テハ本人ノ住所地ニ於テ之ヲ納ムヘク住所ナキトキハ居所ニ於テ之ヲ納ムヘキ

モノナルカ故ニ所得稅法第十四條ニ所謂居住ナル語ハ居所又ハ住所ヲ有スルノ意ニ解シ居所地ニ於テ納稅スヘキコトヲ申告セサル者ニ在リテハ住所ヲ有スルコトヲ要シ帝國內ニ住所ナキ者又ハ住所アルモ居所地ニ於テ納稅スヘキコトヲ申告シタル者ニ在リテハ居所ヲ有スルコトヲ要スルモノト爲スコト穩當ナルカ如シ

(2) 所得稅法第八條ノ申告ヲ爲シタルコト 法律ハ「所得金額ノ申告ヲ爲シタル者」ト言ハスシテ「所得稅法第八條ノ申告ヲ爲シタル者」ト言フカ故ニ選舉資格ヲ得ルニハ第八條ニ規定スルカ如ク必ス四月中ニ所得金額ノ申告ヲ爲ササルヘカラス隨テ納稅義務アルモ所得金額ノ申告ヲ爲ササル者ハ勿論之ヲ申告シタルモ其申告四月以後ニ係ル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉スルノ資格ナキモノナリ

外國人ニシテ選舉區域内ニ居住シ所得稅法第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉スル資格ヲ有スルヤ此問題ニ對シテハ調査委員選舉人ヲ選舉スル權ハ公權ナリ外國人ハ法律ノ明文アルニアラサレハ公權ヲ享有スルコ

トヲ得ス、所得稅法ハ外國人ニ調査委員選舉人ヲ選舉スル權アルコトヲ明言セス、故ニ外國人ハ調査委員選舉人ヲ選舉スルノ權利ナシトノ理由ヲ以テ之ヲ否認セントスル者アリト雖モ予ハ此解釋ニ同意スルコト能ハス外國人ハ法律又ハ條約ノ規定アルニアラサレハ公權ヲ享有スルコト能ハサルハ無論ナリ調査委員選舉人ヲ選舉スル權ノ公權タルコトモ亦何等ノ疑ヲ容レヌ故ニ此問題ニ對シテ可認ノ斷案ヲ下サント欲セハ一ニ所得稅法ハ外國人ニ調査委員選舉人ヲ選舉スルノ權アルコトヲ規定スルヤ否ヤノ一點ヲ論定スレハ足レリ所得稅法第一條ハ納稅義務者ヲ定ムルニ内外人ノ區別ヲ爲サス單ニ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有スルコトヲ條件トシ其第八條ハ納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ申告ヲ爲スヘキモノト爲シ而シテ第十四條ハ選舉區域内ニ居住シ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉スルコトヲ得ルコトヲ規定スルカ故ニ虛心平氣ニ法文ヲ讀下スルトキハ法律ノ意ハ選舉區域内ニ居住シ其年四月中ニ選舉ノ申告ヲ爲シタル者ハ内外人ノ區別ナク調査委員選舉人ヲ選舉スルコトヲ得ト爲スニ在ル者ト解釋セサルヘカラス之ヲ他ノ法令ニ對照スル

三 法令カ或公權ノ享有ヲ内國人ニ限ラントスルトキハ常ニ帝國臣民又ハ帝國法人ノミ其權利ヲ享有スヘキコトヲ規定スルノ文例ナルニモ拘ラス所得稅法カ此ノ如ク内外人ヲ區別スヘキ文字ヲ用ヒサルヲ以テ見ルモ同法ノ精神ハ外國人ヲ除外スルニ在ラサルコト明カナリ論者ハ外國人ニ或公權ヲ享有セシメントスルトキハ必ス外國人モ亦其權利ヲ有スルコトヲ定メタル明文ヲ要スト信スルカ如シト雖モ予ノ見ル所ハ之ニ異ナリ法令ノ規定ニシテ論理上外國人ニ或公權ノ享有ヲ許スノ意ヲ有スルコトニ解釋スヘキ場合ニ於テ立法當時ノ說明又ハ記錄等ニ依リ外國人ニモ亦其權利アルコトヲ認メタルコト明カナルトキハ外國人ニ其權利アリト爲スコト當然ナリト信ス願ミテ所得稅法ヲ見ルニ其法文ハ上述ノ如ク常ニ外國人ヲ包含シテ規定シ而シテ同法制定當時ノ議ハ外國人ヲ除外セサルノ精神ヲ以テ立案セラレ法案ノ說明ハ政府内ニ於テモ又帝國議會ニ於テモ常ニ其意ヲ以テセラレタルノ事實アリ故ニ予ハ所得稅法ハ外國人ニモ調査委員選舉人ヲ選舉スルノ權アルコトヲ認メタルモノナリト斷言シテ憚ラサルナリ

選舉區域内ニ居住シ所得稅法第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ内國人タルト外國人タルトヲ問ハス將タ男子ナルト女子ナルトニ論ナク調査委員選舉人ヲ選舉スルコトヲ得ルコト以上述フル所ノ如シト雖モ法律ハ一定ノ事由存スル者ニハ之ニ選舉權ヲ與ヘサルコトトセリ蓋シ調査委員選舉人ヲ選舉スル權モ亦一種ノ公權ニシテ選舉人ハ之ニ依リテ國家收稅機關ノ一部ニ參與スルノ權利ヲ實行スルモノナルカ故ニ獨立シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル者ニシテ而モ社會ニ相當ノ信用アル者ニアラサレハ之ヲ行ハシムヘカラサルコト當然ナルヲ以テナリ所得稅法第十四條但書ニ依レハ選舉區域内ニ居住シ所得稅法第八條ノ申告ヲ爲シタル者ニシテ調査委員選舉人ヲ選舉スルノ資格ナキ者左ノ如シ

- 1 無能力者
- 2 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者
- 3 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定スルニ至ルマテノ者
- 4 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

5 公權ヲ剝奪セラレタル者
6 公權ヲ停止セラレタル者

7 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其裁判確定スルニ至ルマテノ者

8 所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタル爲メ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

(ハ) 被選資格 調査委員選舉人ヲ選舉スルコトヲ得ル者ハ亦調査委員選舉人ニ選舉セラレルコトヲ得ル者ナリ(所得稅法第一四條)故ニ選舉資格ニ付テ説明シタル所ハ悉ク被選資格ニ付テ適用セラレルモノナリ

(ニ) 定數 各選舉區域ニ於ケル調査委員選舉人ノ定數ハ其選舉區域ニ於テ所得ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付キ一人ノ割合ニ依リテ定マルモノトス例ヘハ申告者百人ナルトキハ調査委員選舉人ノ定數八十人ニシテ申告者五十人ナルトキハ調査委員選舉人ノ定數五人ナルカ如シ但シ申告者二百人以上ナルトキハ調査委員選舉人ハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ調査委員選舉人ハ一

八トスヘキモノトス(所得稅法第一五條)

(ホ) 選舉手續

(1) 選舉管理者 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ選舉區域ニ於テハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行スヘキモノナリ(所得稅法第一六條)

(2) 選舉期日 選舉期日ハ稅務署長之ヲ定メ選舉管理者タル市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘキモノトス而シテ選舉期日ノ通知ヲ受ケタル市區町村長又ハ戸長ハ少クトモ期日七日前ニ期日ト共ニ選舉ヲ執行スヘキ旨ヲ公示セサルヘカラス(所得稅法第一七條)故ニ稅務署長ノ通知ハ少クトモ期日八九日前ナラサルヘカラス實際ニ於テハ期日二三週間前ニ通知ヲ爲スヲ便トスヘシ

(3) 選舉人ノ確定 調査委員選舉人ノ選舉ニ關シテハ法律ハ名簿ヲ調製スルカ如キ形式上ニ選舉人ノ確定スヘキコトヲ規定セサルヲ以テ選舉人ハ選舉區域内ニ居住シ其年四月中ニ所得ノ申告ヲ爲スノ事實ニ依リテ確定スルモノナリ然ルニ所得ノ申告ハ稅務署ニ向テ之ヲ爲スモノナルカ故ニ選舉管理者タル市區町村長又ハ戸長ハ多クハ何人カ所得ノ申告ヲ爲シ調査委員選舉人ヲ選舉ス

ルノ資格ヲ得タルヤヲ知ラサルモノナリ故ニ稅務署長ハ選舉前必ス選舉資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知セサルヘカラス(所得稅法施行規則第六條)選舉資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ公示シ又ハ之ヲ縱覽ニ供スヘキコトハ法律及ヒ施行規則ノ共ニ規定セサル所ナルカ故ニ市區町村長又ハ戶長ハ之カ義務ヲ有セサルハ勿論ナリト雖モ縱覽ヲ希望スル者ニ對シテハ之ヲ拒マス以テ選舉人ヲシテ遺憾ナカラシメンコト最モ法律及ヒ施行規則ノ精神ニ適スルモノト謂ハサルヘカラス

(4) 投票 投票ノ場合ニ於ケル立會人及ヒ投票用紙ニ付テハ法令ニ於テ何等定ムル所ナキカ故ニ投票ニハ立會人ヲ要セス又用紙ハ必ス一定ノモノナルコトヲ要セス

投票ニハ必ス選舉人ノ記名アルコトヲ要ス(所得稅法第一八條)

二人以上ノ調査委員選舉人ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ爲スコムヲ得但シ必スシモ定數ノ人員ヲ列記スルコトヲ要セス是レ法律カ投票ノ單體ナルヘキコトヲ規定セサルヲ以テ如ク解セサルヘカラサルノミナラス所得稅

法施行規則第九條ノ規定アルニ依リ蓋シ其然ルコトヲ知ルヘキナリ

所得稅法ハ選舉手續ニ關シテハ頗ル其規定ヲ省略シタルカ故ニ投票函ノ開閉其保管又ハ投票ニ關スル記錄等ニ付テハ何等規定スル所ナシト雖モ苟モ選舉ヲ行フ以上ハ投票ノ散亂紛失又ハ偽造變造等ヲ防クノ手段ヲ取ルヘキハ勿論投票ニ關スル顛末モ亦之ヲ記錄スヘキコト當然ナリト謂ハサルヘカラス

(5) 開票 開票ニハ必ス選舉資格ヲ有スル者二人ヲシテ立會ヲ爲サシムルコトヲ要ス而シテ其立會人ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ選任スヘキモノトス(所得稅法施行規則第七條)

左ニ掲クルカ如キ投票ハ無効トス

- a 選舉人ノ記名ナキモノ
- b 選舉人ノ何人ナルカヲ知ルコトヲ得サルモノ
- c 資格ナキ者ノ投票
- d 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中

資格アル者ニ付テハ無効ニアラス

e 被選人ノ何人ナルヤヲ知ルコトヲ得サルモノ但シ連名投票ニ列記スル

人員中何人ナルカヲ知ルコトヲ得ル者ニ付テハ其效アルモノトス

f 投票中ニ記載シタル文字ニ依リ選舉人ノ意思不明ナルモノ

一投票ニシテ其選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヨリ順次棄却シ定數ニ至リテ止ムヘキモノトス(所得稅法施行規則第九條)

投票ノ有效無効ニ付テハ問題ト爲リタルトキ事實ニ付テ之ヲ決スヘキモノナリト雖モ選舉事務ハ現ニ市區町村長又ハ戸長之ヲ行フモノナルカ故ニ開票ニ際シ投票ノ效力ニ付キ疑義アルトキハ市區町村長又ハ戸長之ヲ決スヘキハ當然ナリ此場合ニ於テハ一應立會人ノ意思ヲ徵スルヲ以テ穩當ノ處置ト爲スヘシ

開票ニ關シテモ亦市區町村長又ハ戸長ハ記録ヲ調製シ立會人ト共ニ署名捺印スルヲ相當トス

(6) 當選 選舉ニ於テハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り生年月同一ナルトキハ抽籤ヲ以テ當選人ヲ定ムヘキモノトス(所得稅法第一九條)

當選人定マリタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ其氏名ヲ公示セサルヘカラス(所得稅法第二〇條)此場合ニ於テ法律又ハ施行規則ハ當選人及ヒ稅務署長ニ通知スヘキコトヲ定メスト雖モ實際ニ於テハ此通知ヲ爲スヲ便宜トスヘシ

調査委員選舉人ニ當選シタル者ハ其承諾ヲ須タス當選ニ依リテ直チニ調査委員選舉人ト爲ルモノナリ而シテ法律ハ辭任ヲ許スノ規定ヲ設ケサルカ故ニ解釋上ハ辭任スルコトヲ得サルモノト爲ササルヘカラス但シ調査委員選舉人ハ必スシモ調査委員ヲ選舉セサルヘカラサルモノニアラサルカ故ニ其選舉權ヲ拋棄シ事實ニ於テハ辭任ト殆ト同一ノ結果ヲ生セシムルコトヲ得ルモノナリ

乙 調査委員

調査委員ヲ選舉スル場合ニ於テハ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘキモノナリ(所得稅法第二一條)而シテ補闕員ハ調査委員ノ缺如シタル場合ニ於テ之ニ代リテ調査委員ト爲ルヘキモノナルカ故ニ調査委員ニ關シテ説明スル所ハ總テ其補闕員ニモ適用セララルモノナリ

(イ) 選舉區域 調査委員ハ稅務署ノ管轄區域毎ニ之ヲ選舉スヘキモノトス(所得稅法第一三條第一項)

(ロ) 選舉資格 調査委員ヲ選舉スルコトヲ得ル者ハ調査委員選舉人ニ當選シタル者ニ限ルモノナリ

(ハ) 被選資格 調査委員ニ選舉セララルコトヲ得ル者ハ其選舉區域内即チ稅務署所轄内ニ居住シ所得稅法第八條ノ申告ヲ爲シタル者ニシテ法定ノ缺格條件ニ該當セサル者ニ限ル(所得稅法第一四條)即チ調査委員選舉人ノ被選資格ト大體ニ於テ相似タリ故ニ調査委員選舉人ノ被選資格ニ付キ説明シタル所ハ亦以テ調査委員ノ被選資格ヲ説明スルニ足ルモノナリ

(三) 選舉手續

(1) 選舉管理者 調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行スヘキモノナリ(所得稅法第一六條)

(2) 選舉期日 選舉期日ハ稅務署長之ヲ定ムヘキモノニシテ稅務署長ハ少クトモ選舉七日前ニ其期日ヲ公示スルコトヲ要ス(所得稅法第二一條)

(3) 選舉人ノ確定 調査委員ヲ選舉スルコトヲ得ル者ハ調査委員選舉人ナルカ故ニ調査委員ノ選舉人ハ調査委員選舉人ニ當選シタルコトニ依リテ確定スルモノナリ而シテ何人カ調査委員選舉人ニ當選シタルヤハ市區町村長又ハ戶長ノ公示ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ(所得稅法第二〇條)

4. 投票

(5) 開票

(6) 當選

調査委員選舉人選舉ノ場合ニ於ケル投票、開票及ヒ當選ニ關スル説明ハ總テ之ヲ調査委員選舉ノ場合ニ於テハ投票開票及ヒ當選ニ準用スルコトヲ得ルモノナリ(所得稅法第一八條、第一九條、第二二條、所得稅法施行規則第八條、第九條、唯法

律ハ調査機關ノ成立ヲ速ナラシムルノ目的ヲ以テ調査委員タル任務ヲ盡スヲ以テ當選者ノ義務ト爲シ正當ノ事故アルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ許サス(所得稅法第二三條)此點ハ調査委員選舉人ニ當選シタル者カ調査委員ノ選舉ニ當リ投票ヲ爲サス之ニ依リテ事實辭任ト同一ノ結果ヲ生セシムルコトヲ得ルモノト異ナル所ナリ而シテ調査委員ヲ辭スル正當ノ事故ト爲スヘキモノハ稅務管理局長カ已ムヲ得スト認メタル事故ニ限ルカ故ニ(所得稅法施行規則第一〇條)一ニ稅務管理局長ノ認定ニ依ルヘキモノトス

四 任期

調査委員ノ任期ハ滿四年ナリ然レトモ注律ハ二年毎ニ其半數ヲ改選スヘキコトヲ定メタルヲ以テ第一回ニ調査委員ニ當選シタル者ニシテ第一回ノ改選期ニ於テ抽籤ノ結果退任者ト定マリタル者ハ其任期ハ二年ナリト謂ハサルヘカラス(所得稅法第二四條第一項)

調査委員ノ定數奇數ナル場合ニ於テ第一回ノ改選期ニ於テ其半數ヲ改選スルニハ多數ノ一半ヲ改選スヘキカ將タ少數ノ一半ヲ改選スヘキヤ之ニ對スル解

答ニハ兩說アリ甲說ハ少數退任ヲ主張スルモノニシテ其說ニ曰ク權利ノ喪失ニ關スル法文ハ成ルヘク狭ク解釋セサルヘカラス調査委員中ノ或者ヲシテ退任セシメントスルハ其者ヲシテ權利ヲ喪失セシメントスルモノナリ故ニ法文ノ意明瞭ナラサルトキハ成ルヘク退任者ノ數ヲ少カラシムルノ意ニ解セサルヘカラスト之ニ反シテ乙說ハ多數退任ヲ主張シ凡ソ改選ナルモノハ選舉人ノ満足セサル者ヲシテ任務ヲ去ラシメ新ニ其信任スル者ヲシテ任務ニ當ラシムルカ爲メ之ヲ行フモノナルカ故ニ必要ナキ限りハ全員ヲシテ退任セシムルヲ相當トス唯所得稅法ニ於テハ全員ノ退任ハ事務ノ聯絡ヲ缺クノ虞アリト爲シ半數ツツノ改選ヲ爲スヘキモノト爲シタリト雖モ其趣旨ヲ達スル範圍内ニ於テハ成ルヘク選舉人ノ新意向ヲ満足セシムルノ意ニ依リテ成ルモノト謂ハサルヘカラス隨テ法律ニ明文ナキ限りハ多數ノ一半ヲ改選スルコト當然ナリ特ニ現行法ノ基礎ヲ爲シタル舊所得稅法ハ多數ノ一半ヲ改選スヘキコトヲ規定シタルニ對シ現行法ハ之カ規定ヲ爲ササルノミニシテ別ニ少數者ヲ退任セシムルコトニ改正シタルコトヲ想像スヘキ規定ナキヲ以テ見レハ現行所得稅法

モ亦此點ニ於テハ舊所得稅法ノ意ト異ナル所ナシト爲スコト解釋ノ當ヲ得タルモノナリト爲ス現今實際ノ取扱ニ於テ以上兩說ノ孰レニモ依ラス各調査委員會ニ於テ孰レノ一半ヲ改選スヘキヤヲ協議セシメ其決議ニ依リテ退任スヘキ半數ヲ定ムヘキモノトセリ是レ行政上ノ便宜ニ出テタルモノニシテ解釋上ノ論斷ニアラス法律論トシテハ予ハ乙說ニ左袒スル者ナリ

補闕員ハ二年毎ニ其全員ヲ改選スヘキモノナリ(所得稅法第二四條第二項)而シテ補闕員ノ數ハ常ニ選舉セラルヘキ調査委員ノ數ニ同シカルヘキカ故ニ(所得稅法第二一條)第一回選舉ノ場合ニ於テハ補闕員ノ數ハ調査委員ノ數ト同一ナリト雖モ第一回改選後ニ於テハ補闕員ノ數ハ常ニ調査委員ノ數ノ半數ニ過キス

改選期ニ至ルニ先チ調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ補闕員中最モ多キ投票ヲ得タル者ヨリ順次之ヲ補充スヘキモノナリ若シ投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ先ニシ生年月同一ナルトキハ抽籤ヲ以テ補充者ヲ定ムヘキモノトス而シテ此場合ニ於テ補闕員ヨリ調査委員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス故ニ補闕員トシテハ二年ニシテ改選セラルヘカリシ者ト雖モ殘期間三年以上ノ調査委員ノ補充ヲ爲シタルトキハ其期間調査委員タルヘキモノトス(所得稅法第二四條第三項、第四項)

補闕員ヨリ補充シ盡シタル後尙ホ調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ調査委員ノ選舉ヲ爲ササルヘカラス此場合ニ於テ調査委員ニ當選シタル者ノ任期ハ四年ニアラスシテ前任者ノ殘期間ナリ法律ハ此場合ニ付キ何等ノ規定ヲ爲サスト雖モ此ノ如キハ補闕選舉ナルモノヨリ生スル當然ノ結果ナルノミナラス若シ此ノ如ク解スルニアラサレハ所得稅法第二四條第一項ニ依リ二年毎ニ調査委員ノ半數改選ヲ行フコトヲ得サルニ至ルヘキカ故ニ該條文ノ存在スルヨリ見ルトキハ法律ノ意モ亦茲ニ在ルモノト謂ハサルヘカラス

五 會議

(イ) 開會 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リテ開會スルモノトス(所得稅法第二六條)而シテ毎年遅クトモ八月一日マテニハ調査委員會ヲ開カサルヘカラスルカ故ニ(所得稅法第二五條)稅務署長ハ毎年八月一日前相當ノ時期ニ開會ノ

場所ト期日トヲ定メ之ヲ各調査委員ニ通知セサルヘカラス
調査委員會ハ一年二回以上之ヲ開クコトヲ得ルヤ否ヤハ所得稅法上一ノ問題
ナリト雖モ法律カ其第二十五條ニ於テハ開會スヘキ最後ノ日ヲ定メ其第三十
條ニ於テハ調査ヲ結了スヘキ最後ノ日ヲ定ムルヲ以テ見レハ法律ノ意ハ調査
委員會ノ開會ハ毎年一回ニ止ルモノト爲スニ在リト謂フヲ以テ當ヲ得タルモ
ノト信ス

(ロ) 會長 調査委員會ノ會長ハ調査委員ノ互選ニ依リテ定マルモノニシテ每
年調査委員會開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉スヘキモノトス(所得稅法第二七條)
會長事故アリ調査委員會ニ出席セザルトキハ調査委員中ノ年長者ニ於テ之ヲ
代理スヘキモノトス(所得稅法施行規則第一一條)

(ハ) 議事 調査委員ハ納稅義務者ノ所得金額ヲ調査スルモノナリト雖モ自
己ノ所得金額ノ調査ニ關シテハ之ニ干與スルコトヲ得ス(所得稅法第二九條)蓋
シ公平ヲ失スルノ虞アルヲ以テナリ然レトモ法律ハ唯調査委員ヲシテ自己ノ
所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ禁シタルノミナルカ故ニ調査委員カ親族又

ハ家族ノ所得ヲ調査スルハ法律ノ禁スル所ニアラス但シ近親又ハ家族ノ所得
ニ付テハ議事ニ與ルヲ避クルコト調査委員ノ美德ト爲スヘシ

調査委員會ニ於テ調査討議スルニハ法律ハ出席員ノ最低限ヲ定メサルカ故ニ
出席シタル調査委員ハ如何ニ少數ナルモ所得ノ調査ヲ爲スコトヲ妨ケスト雖
モ決議スルニハ定員ノ過半數ニ當ル委員ノ出席アルコトヲ要ス故ニ過半數ノ
出席ナキトキハ決議スルコト能ハサルモノトス(所得稅法第二八條第一項)

議事ハ比較多數法ニ依リ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會
長之ヲ決スヘキモノナリ(所得稅法第二八條)

調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知セサルヘカラス(所得稅法施
行規則第一二條)

六 報酬

調査委員ハ日當及ヒ旅費ノ支給ヲ受ク(所得稅法第三三條)明治三十二年大藏省
令第十二號

第二 審査委員會

(一) 區域

審査委員會ハ各稅務管理局所轄内ニ之ヲ置クモノトス(所得稅法第三七條第三項、所得稅法施行規則第一五條)

(二) 定數

審査委員ノ定數ハ七人ニシテ收稅官吏三人、調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織スヘキモノトス(所得稅法第三七條第二項)

(三) 選任

收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ任命スルモノニシテ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ調査委員之ヲ選舉スルモノナリ(所得稅法施行規則第一六條)大藏大臣ニ於テ任命スル手續ハ之ヲ説明スルヲ要セサルカ故ニ之ヲ省略シ調査委員ニ於テ選舉スル場合ニ付テノミ一二言ヲ費スコトトスヘシ

(イ) 選舉區域 審査委員ハ稅務管理局ノ管轄區域毎ニ之ヲ選舉スヘキモノトス(所得稅法第一六條後段)

(ロ) 選舉資格

(ハ) 被選資格 審査委員ノ選舉並ニ被選資格ハ選舉區域内ニ於ケル調査委員ノミ之ヲ有ス(所得稅法施行規則第一六條後段)

(ニ) 選舉手續

(1) 選舉管理者 審査委員ノ選舉ハ稅務管理局長之ヲ管理スヘキモノナリ(所得稅法施行規則第一七條)

(2) 選舉期日 選舉期日ハ稅務管理局長之ヲ定メ審査委員ニ選ハルルコトヲ得ヘキ者即チ所轄内調査委員ノ氏名ト共ニ之ヲ各調査委員會ニ通知スヘキモノトス(所得稅法施行規則第一八條)

(3) 選舉人ノ確定 審査委員ヲ選舉スルハ調査委員ナルヲ以テ調査委員タルコトニ依リテ選舉人ハ確定ス

(4) 投票

(5) 開票

(6) 當選

當選開票及ヒ當選ニ關シテハ調査委員ニ付テ説明シタル所ト相類スルヲ以テ

其說明ヲ省略スヘシ(所得稅法施行規則第一九條、第二〇條、第二一條、第二二條)

四 任期

收稅官吏ニシテ審査委員タル者ハ免官又ハ休職ト爲リ若クハ審査委員ヲ免セラルルマテハ在任スルモノトス調査委員ニシテ審査委員タル者ハ所得稅法施行規則第十六條ニ依レハ毎年全員ヲ改選スルモノナルカ故ニ改選セララルマテ在任スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ

五 會議

審査委員會ノ開會、會長、議事ニ關シテハ調査委員會ニ付テ述ヘタル所ト相類似ス故ニ之ヲ省略ス(所得稅法施行規則第二三條、第二四條、第二五條、第二六條、第二七條、第二九條)

六 報酬

調査委員ニ同シ

第四款 課稅率

所得稅ノ稅率ハ左ノ如シ(所得稅法第三條第一項)

第一種

千分ノ二十五

第二種

千分ノ二十

第三種

三百圓以上五百圓未滿	千分ノ十
五百圓以上千圓未滿	千分ノ十二
千圓以上二千圓未滿	千分ノ十五
二千圓以上三千圓未滿	千分ノ十七
三千圓以上五千圓未滿	千分ノ二十
五千圓以上一萬圓未滿	千分ノ二十五
一萬圓以上一萬五千圓未滿	千分ノ三十
一萬五千圓以上二萬圓未滿	千分ノ三十五
二萬圓以上三萬圓未滿	千分ノ四十
三萬圓以上五萬圓未滿	千分ノ四十五

五萬圓以上十萬圓未滿 千分ノ五十五
十萬圓以上 千分ノ五十五

即チ第一種及ヒ第二種ノ所得ニ付テハ比例ヲ以テ所得稅ヲ課シ第三種ノ所得ニ付テハ限定的累進ヲ以テ所得稅ヲ徵セントスルモノナリ蓋シ法人ノ所得ナルモノハ箇人ヲ離レタル別箇無形人ノ所得ナリト謂フト雖モ其所得ハ結局法人ヲ組織スル各箇人ニ歸スヘキモノナリ而シテ法人ヲ組織スル各箇人ノ側面ヨリ觀察スルトキハ法人ノ所得ノ大小ハ必スシモ其箇人ノ所得ノ大小ヲ成スモノニアラス何トナレハ法人ノ所得ハ其事業ノ盛衰ニ依リテ不同ナルヘキハ勿論ナリト雖モ而モ又其資本ノ多少ニ依リテ相異ナルヘキハ當然ナルヲ以テ多數ノ社員又ハ株主ヲ有シ資本多大ナル會社カ比較的多大ノ所得ヲ得ルモ之ヲ其社員又ハ株主ニ配當スルトキハ其配當額タル他ノ小會社ニシテ比較的寡少ノ所得ヲ得タルモノノ配當額ニ及ハサルコト鮮シトセス故ニ法人ノ所得ニ付キ資本ノ多少ヲ度外視シテ累進稅ヲ課スルトキハ甚シキ不公平ヲ生スヘシ故ニ法律ハ所得ノ多少ニ拘ラス總テ單一ノ比例稅率ヲ以テ其所得稅ヲ徵收ス

ヘキモノト爲シタリ又第二種ノ所得即チ公債社債ノ利子ニ付テハ後ニモ述フヘキカ如ク利子支拂ノ時其所得稅ヲ差引徵收スルカ故ニ徵收者ハ之ヲ納ムル者ノ總所得額ノ若干ナルヘキカヲ知ルコト能ハサルモノナリ故ニ勢ヒ其拂渡スヘキ利子額ニ比例シテ所得稅ヲ徵收スルノ制ト爲ササルヲ得ス第三種ノ所得ニ至リテハ以上ノ二者ト異ナリ所得ノ大小ハ直チニ其人ノ生活ノ裕否ト關係シ而モ其總額ハ之ヲ概算スルコト敢テ難カラサルモノナリ而シテ大所得者ハ小所得者ニ比スレハ同率ノ租稅ヲ負擔スルニ於テ比較的苦痛ヲ感スルコト少キハ爭フヘカラサル事實ナルカ故ニ所得ノ多少ニ從ヒ多少其稅率ヲ累進スルハ相當ノ事ト爲ス然レトモ累進稅ノ危險ハ累進ヲ極度ニ達セシムルニ在リ故ニ累進主義ノ租稅制度ヲ設クル場合ニ於テハ常ニ比例的累進例ハ所得一萬圓ヲ増ス毎ニ稅率ニ十圓ヲ加フト言フカ如キ方法ヲ取ルカ又ハ累進率ヲ或程度ニ於テ限定スルコトト爲ササルヘカラス所得稅法ハ後者ノ方法ニ出テ千分ノ十ヨリ千分ノ五十五マテノ範圍内ニ於テ稅率ヲ累進スルコトト爲シタリ予ハ所得稅ニ在リテハ累進主義ニ依ルヲ以テ負擔者ノ苦痛ヲ平均スルト同時ニ

徵稅ノ目的ヲ達スルニ適スト信スル者ナリ

所得稅法第三條第一項ハ第三種ノ所得ニ付キ一定ノ稅率ヲ定ムト雖モ簡人ノ所得ハ常ニ此稅率ニ依リテ所得稅ヲ課セラルルモノニアラス左ノ場合ニ於テハ所得稅ハ各自ノ所得金額ニ依ル稅率ニ從ヒテ之ヲ納ムヘキモノニアラスシテ其合算シタル所得總額ニ依ル稅率ニ從ヒテ之ヲ納メサルヘカラス

(イ) 戶主ト家族ト同居スルトキ 例ヘハ戶主ノ所得千圓ニシテ配偶者ノ所得七百圓ナル場合ニ於テハ戶主ハ千圓ニ付キ千分ノ十五配偶者ハ七百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキニアラスシテ戶主ハ千圓ニ付キ千圓ト七百圓トノ合算額千七百圓ニ對スル稅率即チ千分ノ十七配偶者ハ七百圓ニ付キ千圓ト七百圓トノ合算額千七百圓ニ對スル稅率即チ千分ノ十七ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキモノトス

(ロ) 同一戶主ニ屬スル家族ニシテ戶主ト別居シ二人以上同居スルトキ 例ヘハ戶主ノ直系卑屬ニシテ其妻子ト共ニ他ニ寄留スルカ如キ場合ニ於テ妻子各所得ヲ有スルトキハ其所得稅ハ各自ノ所得額ヲ合算シタル總額ニ對スル稅率ニ

從ヒテ之ヲ納メサルヘカラス

合算額ニ依リ所得稅率ヲ定ムヘキ場合ニ於テ三箇ノ問題ノ解決セサルヘカラサルモノアリ第一ハ同居者ノ一人ノ所得金額ニ付キ他ノ一人ヨリ審査ヲ請求シテ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シ若クハ減損更訂ヲ求ムルコトヲ得ルヤ例ヘハ兄ノ所得金額決定ヲ不當トシ弟ヨリ審査ヲ請求シ又ハ弟ノ所得金額四分ノ一以上減損シタル場合ニ於テ兄ヨリ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ルヤ第二ハ審査決定訴願裁決又ハ行政訴訟判決ニ依リ若クハ所得金額ノ更訂ニ依リ同居者ノ一人ノ所得金額ニ付キ異動アリタルトキハ他ノ同居者ノ稅率ニ影響スルモノナルヤ例ヘハ夫ノ所得千圓妻ノ所得三百圓ト決定セラレタル場合ニ於テハ夫妻共ニ千分ノ十五ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納メサルヘカラス然ルニ夫ハ其決定ヲ不當トシ審査ヲ求メ審査ノ結果五百圓ト決定セラレタルトキハ夫ハ五百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキハ勿論ナリト雖モ何等ノ異議ヲ述ヘサリシ妻モ亦其三百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納メテ可ナルヤ又例ヘハ夫ノ所得千圓妻ノ所得三百圓ナル場合ニ於テ夫

ハ其所得ノ半額ヲ減損シタル爲メ所得金額ノ更訂ヲ求メ五百圓ト更訂セラレタルトキハ妻モ亦其所得三百圓ニ付キ千分ノ十二ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキモノト爲ルヤ第三ハ所得金額決定ノ際ハ同居シタル者決定後別居スルトキハ孰レノ稅率ニ依リテ課稅セラルヘキヤ例ヘハ同居ノ父子ニシテ父ノ所得四百圓子ノ所得三百圓ト決定セラレタル後父子別居スルニ至リタルトキハ各自ハ千分ノ十二ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキヤ將タ千分ノ十ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキヤノ三問題是ナリ

第一ノ問題ニ對シテハ予ハ之ヲ否定セサルヲ得ス同居者ノ一人ハ他ノ一人ノ所得金額ノ多少ニ依リ其納稅額ニ影響ヲ受クルカ故ニ其者ノ所得金額ニ付テハ利害ノ關係アル者ナルニハ相違ナシト雖モ所得稅法第三十六條及ヒ第四十條ハ明カニ納稅義務者ノミ審查又ハ更訂ヲ求ムルコトヲ得ルコトヲ規定スルヲ以テ納稅義務者ニアラサル者ハ利害ノ關係ヲ有スルコト同居者ノ如キ者ト雖モ所得金額ニ付キ審查又ハ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス第三十九條ニ至リテハ單ニ所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ト規定

シ一見所得金額ノ決定ニ對シ利害關係アル者ニシテ不服アルトキハ何人ニテモ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ルカ如シト雖モ予ハ若ク信セサルナリ凡ソ不當又ハ違法ノ行政處分ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルハ之ニ依リテ其處分ノ取消ヲ求メ更ニ適當ナル處分ヲ受ケントスルカ爲メナリ故ニ法律ニ於テ特ニ定メサルモ之ヲ提起スルコトヲ得ル者ハ常ニ其處分ヲ受ケタル者ナラサルヘカラスアルハ論ヲ埃タス故ニ所得稅法第三十九條モ亦所得金額ノ決定處分ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ得ルノ意ニ解セサルヘカラス若シ否ラスシテ利害關係アル者ハ何人ト雖モ訴願又ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ得ルモノトセハ納稅義務者ハ決定金額ニ付キ満足スルノミナラス却テ之ニ依テ一種ノ公權ヲ行フ資格ヲ得タルカ如キ場合ニ於テ他ノ提起シタル訴願又ハ行政訴訟ノ爲メ其資格ヲ喪失スルコトト爲ルニ至ルヘシ此ノ如キハ人權保護ノ法文ヲ解シテ人權蹂躪ノ法文ト爲スモノニシテ解釋ノ當ヲ得タルモノト爲スコト能ハス

第二ノ問題ニ對シテハ予ハ之ヲ肯定スルニ躊躇セス所得稅法第三條第二項ハ

「戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム」下規定シ同居者ノ所得稅率ハ常ニ其所得ノ合算額ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナルカ故ニ審査決定、訴願裁決又ハ行政訴訟判決若クハ所得金額ノ更訂ニ依リ同居者ノ一人ノ所得金額ニ異動ヲ生スルトキハ同居者所得ノ合算額ハ必ス其影響ヲ受ケテ異動スルヲ以テ他ノ同居者ノ所得ニ付キ適用スヘキ稅率ハ自ラ變更セサルヲ得ス此ノ如キハ決定、裁決、判決又ハ更訂處分カ其效力ヲ第三者ニ及ホスニアラスシテ法律ノ規定自ラ然ラシムルモノナリト謂ハサルヘカラス

第三ノ問題ニ對シテハ予ハ所得金額決定當時ノ稅率即チ合算額ニ依ル稅率ニ從ヒ其年ノ所得稅ヲ納メサルヘカラサルモノナリト信ス所得稅法第三條第二項ハ同居者ノ所得稅ハ其所得ノ合算額ニ依ル稅率ニ依リテ之ヲ納ムヘキコトヲ規定スルヲ以テ同一ノ家ニ屬スル者ニシテ同居スルトキハ常ニ該條文ノ適用ヲ受ケサルヘカラス而シテ若シ所得稅法ニシテ其第三條第二項ノ適用ヲ受ケタル者カ爾後別居シタル場合ニ於テハ其稅率ニ異動ヲ生スヘキモノトスルノ

意アルモノトセハ此點ニ關シ何等カノ規定ヲ爲ササルヘカラス何トナレハ一年中ノ或期間ハ同居シ或期間ハ別居スル者ハ之ヲ同居者トシテ取扱フノ不穩當ナルト同時ニ之ヲ別居者トシテ取扱フモ亦事實ニ反スルヲ以テナリ然ルニ法律ハ此點ニ付テ何等ノ規定ヲ爲サス故ニ解釋上ハ法律ノ意ハ所得金額決定ノ際同居スルトキハ必ス第三條第二項ヲ適用スルモノニシテ其前後ニ於テ別居スルコトアルモ第三條第二項ノ適用上ニ於テハ之ヲ願サルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス此事タル法文ノ解釋トシテ此ノ如ク斷定セサルヘカラスルノミナラス所得稅法施行規則第三十三條ハ明カニ此意ヲ規定シタルヲ以テ執行上ハ何等ノ疑アルモノニアラス

第三問ヲ解決スルノ機會ニ於テ併セテ別居者ノ所得三百圓以下ナル場合ニ於テ其者ハ仍ホ納稅義務ヲ有スルヤ否ヤノ問題ヲ解決スルハ全ク無益ニアラサルヘシ例ヘハ同居ノ父子ニシテ父ノ所謂四百圓子ノ所得二百圓ナル者別居シタルトキハ父ハ四百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキコトハ既ニ述フル所ノ如シト雖モ子ハ二百圓ニ付キ仍ホ納稅義務ヲ有スルヤ否ヤ

予ハ此點ニ付テモ稅率ニ付テ論シタルト同一ノ理由ヲ以テ子ハ二百圓ニ付キ
千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムルノ義務アルモノナリト信ス即チ所得
稅法第六條ノ但書ハ第三條第二項ト關聯シテ規定セラレタルモノナルカ故ニ
第三條第二項ニシテ所得金額決定ノ際ニ於テ其適用ヲ見ルヘキモノトセハ第
六條但書ノ規定モ亦所得金額決定ノ際ニ於テ適用セラレヘキモノト爲シ決定
ノ際現ニ同居シ其所得合算額三百圓以上ナルカ爲メ納稅義務者ト爲リタル者
ハ其前後ニ於テ別居スルコトアルモ納稅義務者ニハ何等ノ影響ヲ及ホスモノ
ニアラスト爲スヲ當然ナリトス

第五款 税金徴收

第一 徴收方法

所得稅ノ徴收方法ハ所得ノ種類ニ依リ同一ナラス
第一種ノ所得ニ付テハ所得稅法ハ何等ノ規定ヲ爲サザリシヲ以テ一ニ國稅徴
收法ノ規定ニ依リ其所得稅ヲ徴收スヘキモノトス

第二種ノ所得ニ付テハ公債、社債ノ利子ヲ支拂フ者利子中ヨリ所得稅額ニ相當
スル金額ヲ控除シテ其所得稅ヲ徴收スヘキモノナリ(所得稅法第四二條第二項
所得稅法施行規則第三四條)此場合ニ於テハ法律、勅令ニ於テ特ニ徴收方法ヲ定
ムルカ故ニ國稅徴收法ハ全ク其適用ナキモノトス
公債、社債ノ利子ヲ支拂フ者即チ公共團體又ハ會社ニ於テ所得稅ヲ徴收シタル
トキ其地方債又ハ社債ノ利子ニ係ルモノハ拂込書及ヒ計算書ヲ添ヘ之ヲ公共
團體ノ事務所又ハ會社ノ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘク(所得稅法第三六條第
一項、明治三十二年大藏省令第一七號)其國債ノ利子ニ係ルモノハ翌月末日マテ
ニ取纏メ所得稅徴收明細書ト共ニ其金額ヲ大藏大臣ニ報告シ大藏大臣ヨリ納
入ノ令違アリタルトキハ拂込書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ニ拂込ムヘキモノトス(所
得稅法施行規則第三六條第二項、明治三十二年大藏省達第七一六號)
上述ノ如ク納稅義務者ハ利子ノ支拂ヲ受クルトキ第二種ノ所得稅ヲ納ムルモ
ノナルカ故ニ之ヲ徴收シタル者カ金庫ニ拂込ヲ爲スハ税金ノ納付ヲ爲スニア
ラスシテ其保管ニ係ル官金ノ拂込ヲ爲スモノナリ故ニ其拂込ヲ怠ルコトアル

モ之ニ對シテ滯納處分ヲ執行スルコト能ハス然レトモ公債社債ノ利支拂者ハ其徵收シタル所得稅金ヲ金庫ニ拂込マサルヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ怠ルトキハ民事裁判所ノ判決ヲ得テ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論公債社債ノ利子支拂者ニシテ利子支拂ノ際所得稅ヲ徵收セサルトキハ法律ノ命シタル義務ヲ盡ササルモノナルヲ以テ政府ハ之ニ對シテ損害賠償ノ要求ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

第三種ノ所得ニ付テハ第一種ノ所得ト同ク其徵收方法ニ關シ法律ハ亦何等ノ規定ヲ設ケス故ニ之ニ關シテハ國稅徵收法ヲ適用スヘキモノトス唯第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘキモノナルカ故ニ(明治三十年勅令第一九五號)此點ニ於テ第一種ノ所得稅ト異ナルアルノミ

第二 徵收時期

所得稅ノ徵收時期モ亦所得ノ種類ニ依リテ同シカラス

第一種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其所得ヲ決定シタル都度之ヲ徵收ス(所得稅法第四二條第一項)法人ノ所得ハ所得稅法第七條第九條所得稅法施行規則第三條第

三十一條ニ依リ各事業年度毎ニ其決算額ニ依リテ決定スルモノニシテ所得金額ノ決定アリタルトキハ直チニ相當ノ手續ニ依リテ其所得稅ヲ徵收スヘキモノナリ

第二種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其金額支拂ノ都度之ヲ徵收スヘキモノトス(所得稅法第四二條第二項)所得稅法施行規則第三四條

第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ年額ヲ二分シ其年九月及ヒ翌年三月ノ二期ニ於テ徵收スヘキモノナリ(所得稅法第四二條第三項)但シ此原則ニ對シテハ左ノ二例外アルモノトス

一 納稅義務者ニシテ所得稅法施行地ニ納稅管理人ヲ置カスシテ外國ニ住所若クハ居所ヲ移ストキハ納期ニ拘ラス直チニ其所得稅ヲ徵收スルコトヲ得ルモノナリ(所得稅法施行規則第四二條第三項)但書蓋シ帝國國權ノ及ハサル所ニ移住スル場合ニ於テ尙ホ納期ノ利益ヲ許與スルトキハ場合ニ依リテハ稅金徵收ヲ爲スコト能ハサルコトアルヘキヲ以テ帝國ニ於テ納稅ヲ爲スニ適スル處置ヲ定メスシテ國外ニ移住スルトキハ其移住ノ際ニ於テ稅金ノ徵收ヲ爲シ

以テ國庫ノ缺損ヲ豫防シタルナリ然レトモ所得税法第四十二條第三項但書ハ納期ノ利益ヲ奪フコトヲ定メタルモノニシテ失權ニ關スル規定ナルカ故ニ之カ解釋ハ嚴正ナラサルヘカラス隨テ左ノ場合ニ於テハ其適用ナキモノトス
(イ) 帝國內所得税法ヲ施行セサル地ニ移住スルトキ 何トナレハ法律カ「帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキ」ト言フヲ以テナリ

(ロ) 當初ヨリ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納税管理人ヲ定メサルトキ 何トナレハ法律ハ「住所若クハ居所ヲ移ストキ」ト規定シ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有シタル者カ之ヲ移ストキニ限り該條文ヲ適用スヘキモノト爲シタルヲ以テナリ故ニ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者ニシテ所得税法第二條ニ依リ納税義務アル者納税管理人ヲ定メサルモ即時徴收ヲ爲スコト能ハサルモノナリ

(ハ) 帝國內ニ住所又ハ居所ノ孰レカ其一ヲ有スルトキ 法律ハ「住所若クハ居所ヲ移ストキ」ト言フヲ以テ住所又ハ居所ヲ移ストキハ縱令帝國內ニ住所又ハ居所アルモ所得税ノ即時徴收ヲ爲スコトヲ得ルカ如シト雖モ該條ノ帝國ニ於

テ住居ノ關係ヲ絶チタル者ニノミ納期ノ利益ヲ失ハシムルノ趣旨ニ依リテ規定セラレタルモノナルカ故ニ條文ノ意ハ住所ノミヲ有スル者カ住所ヲ外國ニ移シ又ハ居所ノミ有スル者カ居所ヲ外國ニ移ストキハ所得税ノ即時徴收ヲ爲スコトヲ得ルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス隨テ外國ニ住所ヲ移スモ帝國內ニ居所ヲ有スルカ又ハ外國ニ居所ヲ移スモ帝國內ニ住所ヲ有スルトキハ該條文ヲ適用スルコト能ハサルナリ

二 所得ノ減損ヲ理由トシ所得金額ノ更訂ヲ求メタル場合ニ於テハ政府ハ其確定ニ至ルマテ税金ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得ルモノナリ(所得税法第四三條)蓋シ更訂ノ結果場合ニ依リテハ納税義務消滅シ又ハ消滅ニ至ラサルモ甚シク減少スルニ至ルノ推定アルニ強テ既定ノ税金ヲ徴收スルハ納税者ヲ苦シムルコト甚シキヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テ税金ノ徴收ヲ猶豫シ事ノ確定ヲ待テ之レカ徴收ヲ爲スヲ穩當ト爲シタルナリ

納期ニ關スル説明ヲ終ルニ臨ミ茲ニ前期納税後所得税額ニ異動アリタル場合ニ於ケル税金ノ徴收ニ付キ一言ヲ附加スルノ必要アリト認ム第三種ノ所得ニ付

キ前期納稅後審査決定、訴願裁決、訴訟判決又ハ所得金額更訂ニ依リ所得金額ニ變更アリ隨テ所得稅額ニ異動アリタル場合ニ於テ若シ稅額増加シタルトキハ前期徵收額ニ對スル不足額ハ直チニ之ヲ徵收スヘキハ勿論ナリト雖モ若シ稅額減少シタルトキハ前期ノ過徵額ハ之ヲ還付シ後期ニ至リ更ニ相當額ヲ徵收スヘキヤ將タ後期ニ於テハ唯不足額ノミヲ徵收スヘキヤ所得稅法施行規則第三十八條ハ後段ノ見解ヲ取り前記ニ於テ納メタル稅金ニシテ改正稅額ノ金額以上ナルトキハ其超過額ヲ還付シ改正稅額ノ全額以下ナルトキハ後期ニ於テハ其不足額ノミヲ徵收スヘキモノト爲シタリ即チ所得稅ハ年額ニ依リテ納稅者ノ義務ト爲リタルモノナルカ故ニ納期前ニ納ムルモ其額ニシテ年額ニ超エサル限りハ納稅者ハ義務ナキニ納付ヲ爲シタルニアラス隨テ還付ヲ要スヘキ理アルナシ唯相當納期ニ於テ其不足額ヲ徵收スレハ可ナリト爲シタルナリ予ハ此規定ヲ以テ會計法ノ精神ニ反セスシテ能ク實際ノ便宜ニ適スルモノト爲スモノナリ

第六款 納稅地

第一種ノ所得ニ係ル所得稅ニ付テハ法律ハ別ニ納稅地ヲ定メス然レトモ特別ノ規定ナキ限りハ法人ノ本店所在地ヲ以テ納稅地ト爲スコト當然ナルヲ以テ所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得稅ハ本店所在地ニ於テ之ヲ納ムヘキモノトス但シ所得稅法第二條ニ依リ納稅義務アル法人ハ納稅地ヲ定メ其地ノ稅務署ニ申告セサルヘカラス故ニ其納稅地トシテ申告シタル地ニ於テ所得稅ヲ納ムヘキモノナリ(所得稅法第四四條第二項所得稅法施行規則第四〇條)

第二種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其金額ヲ支拂フ者差引徵收ヲ爲スカ故ニ其納稅地ハ公債、社債ノ利子支拂地ニ在リト謂フテ可ナリ

第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス(所得稅法第四四條第一項)然レトモ此原則ハ左ノ場合ニ於テ例外ヲ見ルモノナリ(所得稅法第四四條第一項但書、第二項、所得稅法施行規則第四〇條)

(イ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有スル納稅義務者カ住所又ハ居所地以外ニ於テ納稅地ヲ定メ申告シタルトキ

(ロ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納稅地ヲ定メ申告シタルトキ

(ハ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納稅地ヲ申告セサル場合ニ於テ政府ニ於テ之ヲ指定シタルトキ

納稅地所得稅務官廳ハ獨リ税金ノ徵收ノミヲ爲スニアラス所得稅ニ關スル一切ノ事務ハ總テ納稅地ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナリ即チ所得ノ申告、調査、決定、通知、審査等ハ納稅地所轄稅務官廳ニ於テセサルヘカラス故ニ法律及ヒ施行命令ハ納稅地ニ關シ左ノ事項ヲ規定シ當該官廳ヲシテ所得稅ニ關スル事務ヲ處理スルニ不便ナカラシメンコトヲ期シタリ

一 納稅地ヲ變更スルトキハ納稅義務者ハ其旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告セサルヘカラス(所得稅法施行規則第四一條)此場合ニ於テ新納稅地所轄稅務署ヨリ舊納稅地所轄稅務署ニ照會シテ本人ノ所得ニ關スル通知ヲ得ルトキハ所

得稅事務ヲ處理スルニ至本ノ便益アルヘシ

二 納稅義務者帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ其旨所轄稅務署ニ申告スルコトヲ要ス(所得稅法施行規則第四二條)

三 第三種ノ所得ニ付キ納稅義務アル者納稅地所轄稅務署ノ管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其地所轄ノ稅務署ニ申告セサルヘカラス(所得稅法施行規則第三九條)此申告ニ依リ其他ノ稅務署ハ其所得ニ關シ納稅地ノ稅務署ニ通報スルノ機會ヲ有スヘシ

四 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ納稅管理人ヲ定メ納稅地所轄稅務署ニ申告スルコトヲ要ス(所得稅法第四五條)所得稅法施行規則第四三條

第七款 制裁

所得稅法ノ定ムル制裁ニ三アリ處罰、失職及ヒ缺格是ナリ(所得稅法第一四條第四六條、第四七條)而シテ所得稅法ハ他ノ稅法ノ如ク刑法ノ總則中其一部ヲ適用セサルコトヲ定ムルコトナキカ故ニ其罰則ハ刑法ノ總則ト相埃テテ適用セラ

W323.7
W27


現行租稅法論 各種ノ租稅 所得稅 現行所得稅
ルルモノナリ

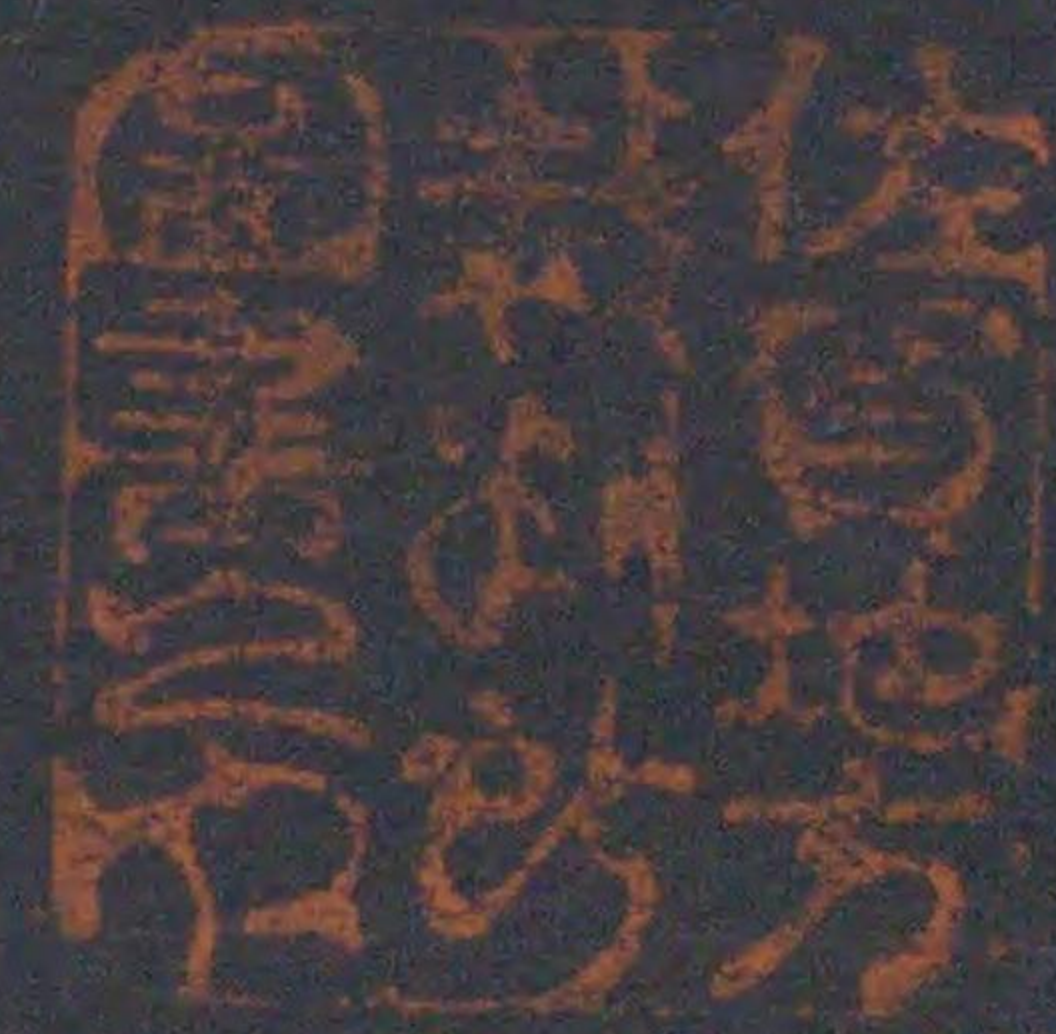
以上予ハ地租及ヒ所得稅ニ關スル説明ヲ了レリ尙ホ營業稅以下餘ス所尠カ
ラスト雖モ既ニ學年末ニ迫リ且ツ租稅法ノ主タル部分ヲ講了シタルヲ以テ
此ニ講筵ヲ閉チント欲ス諸子幸ニ焉ヲ諒トセラレンコトヲ

現行租稅法論終

貸出のときは

- 借りた本は責任をもって保管しましょう。
- 必ず期限を守りましょう。
- 汚損せぬようにしましょう。
- 折目をつけぬように読みましょう。
- また貸をやめましょう。

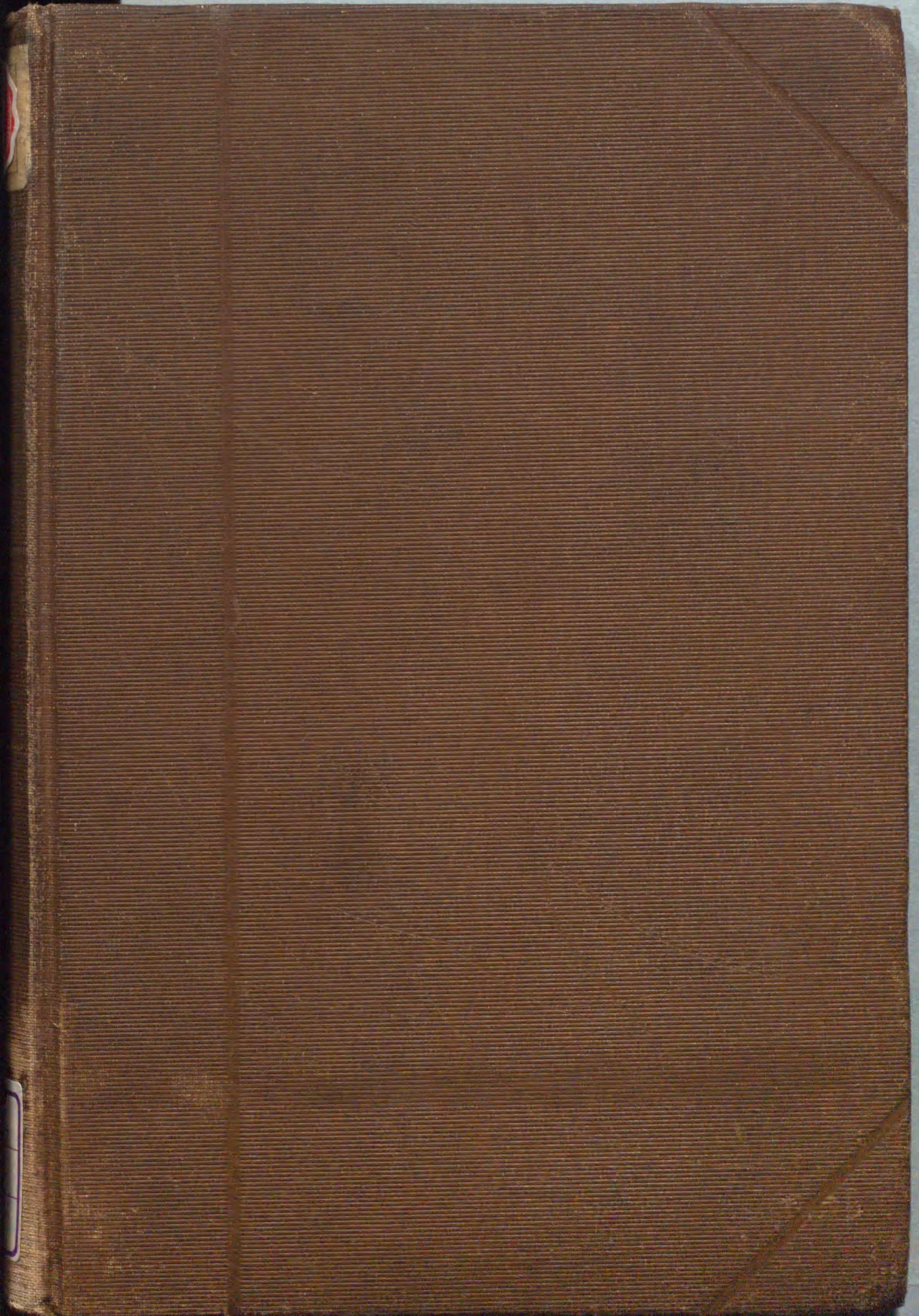

 伊藤伊製



最高裁判所図書館



000126711



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black

Kodak Gray Scale

C **Y** **M**

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

